

養	基礎演習 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎演習の目的は、1年次に今後4年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスおよびケアおよび2年次以降の専門研究に対処できるよう準備することにある。</p> <p>そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーを高めていくことを課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.基礎演習 a の目的と課題 (1回) 2.大学生活を考える (1回) 大学で学ぶ心構え (目標、課題)、将来展望 (学習計画、キャリア形成)、サークル活動など 3.問題の発見と書き方 (3回) 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート・小論文の書き方、要約の仕方 4.話し方、聴き方、ノートの取り方 (2回) グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートの取り方 5.読み方、文章理解 (2回) 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方 6.パソコンの利用 (3回) 文章作成の基本、eメールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方 7.基礎演習 b の選択と選考・決定 (2回) 演習 b 選択および次年度以降専門選択のためのオリエンテーション、演習 b の選考および決定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		出欠状況およびレポートなどにより、総合的に評価する	

養	基礎演習 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の基礎演習 b は、春学期の基礎演習 a を担当した7名の教員によって独自に行われる。</p> <p>講義の目的、講義の概要、授業計画についてはすでに春学期に説明がなされており、それに従って行われる。</p> <p>演習と同時に、必要なら、2年次以降の勉強とそのため の科目履修計画について、各教員は学生の相談相手になり、アドバイスをすることになっている。積極的に教員を利用してほしい。</p>		各担当教員による	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		各担当教員による	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	言語文化論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを考えるための授業である。学科が設けている「選択教養科目群」の中の研究科目群のそれぞれが、おおまかにどのような内容の分野であり、どういうことが学べるのか、卒業後の進路もふくめて、大きな見取り図を描くことを目的とする。この授業を履修することで、3学期以降の履修計画に資するとともに、演習選択のための参考ともなる。</p> <p>〔講義概要〕 とりあげられるのは、スペイン・ラテンアメリカ研究、中国研究、韓国研究、日本研究、多言語間交流研究、多文化共生研究、国際交流研究、宗教・文化・歴史研究、日本語教育研究、教育科学研究、自然・環境研究、多言語情報処理研究の12の選択教養科目群であり、毎回、それぞれを担当する教員をゲストとしてむかえ、それぞれの「群」がどのような構成になっているのか、それぞれの「群」の目的は何か、などを講義するとともに、学生からの質問に答える形式をできるかぎりとりたい。</p>		<p>第1回 授業のすすめかた 第2回 スペイン・ラテンアメリカ研究科目群について 第3回 中国研究科目群について 第4回 韓国研究科目群について 第5回 多言語間交流研究科目群について 第6回 多文化共生科目群について 第7回 国際交流研究科目群、および多言語情報処理研究科目群について 第8回 日本語教育研究科目群および日本研究科目群について 第9回 宗教・歴史・文化研究科目群について 第10回 教育科学研究科目群について 第11回 自然・環境研究科目群について 第12回 演習について 第13回 言語文化と教養 第14回 言語文化のゼミナール</p> <p>なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引き』		出席をきびしく要求する。くわえて適宜、提出物を要求する。	

養	哲学 I	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行う。</p> <p>その課題とは、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要説明 2. 国際教養学部と哲学 3. 課題説明とグループ分け 4. 各グループごとの調査研究 5. 各グループごとの調査研究 6. 第一、第二グループの発表と討論 7. 第三、第四グループの発表と討論 8. 第五、第六グループの発表と討論 9. 第七、第八グループの発表と討論 10. 第九、第十グループの発表と討論 11. 第十一、第十二グループの発表と討論 12. 第十三、第十四グループの発表と討論 13. 第十五、第十六グループの発表と討論 14. 全体討論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示。		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定、およびレポートから最終判定。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	現代世界論 現代世界論	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
<p>この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。</p> <p>現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勘治： <u>総論 現代世界の歴史的的位置</u> (4/6)</p> <p>2 酒井美直（ゲストスピーカー）：<u>アイヌレプルス代表 アイヌとして生きる選択</u> (4/13)</p> <p>3 岡村圭子： <u>グローバル社会と文化</u> (4/20)</p> <p>4 陳天璽（ゲストスピーカー）：<u>国立民族学博物館 「無国籍」を生きるとは？</u> (4/27)</p> <p>5 佐藤勘治： <u>南北アメリカの人種・先住民</u> (5/11)</p> <p>6 白井芳子： <u>日本における英語教育の未来</u> (5/18)</p> <p>7 伊勢崎賢治（ゲストスピーカー）：<u>東京外国語大学 論題未定</u> (5/25)</p> <p>8 工藤律子（ゲストスピーカー）：<u>ジャーナリスト 「格差のない社会」は可能か？ 革命勝利50周年のキューバをみる</u> (6/1)</p> <p>9 未定（ゲストスピーカー）： (6/8)</p> <p>10 依田珠江： <u>社会的弱者のスポーツする権利</u> (6/15)</p> <p>11 二宮哲： <u>ヨーロッパの言語政策</u> (6/22)</p> <p>12 山中千恵（ゲストスピーカー）：<u>仁愛大学講師 東アジアにおける『はだしのゲン』</u> (6/29)</p> <p>13 川村肇： <u>共和国という考え方と近代</u> (7/6)</p> <p>14 松丸壽雄： <u>現代世界と私たち</u> (7/13)</p>	
講義概要			
<p>言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、平和構築など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。</p> <p>ゲストスピーカーには、アイヌレプルス代表として音楽活動を始めた酒井美直氏、ラテンアメリカ、アジアを中心に幅広い取材経験をもつ工藤律子氏、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏、アフガニスタンの武装解除を指揮した伊勢崎賢治氏などを予定している。</p> <p>なお、テーマと順番については、変更の可能性がある。</p>			
受講生への要望			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
評価方法			
各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。			
テキスト、参考文献			
陳天璽『無国籍』（新潮社）2005年・工藤律子『子どもは未来の開拓者：ストリートチルドレンのいない国キューバ』（JULA出版局）2005年・伊勢崎賢治『武装解除 -紛争屋が見た世界』（講談社現代新書）など			

養	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: 第 1 回目の講義で発表します。 中級上 Intermediate high level: <i>Strategic Reading III</i> (Cambridge University Press) 中級中 Intermediate mid level: <i>Strategic Reading II</i> (Cambridge University Press) 中級下 Intermediate low level: <i>Strategic Reading I</i> (Cambridge University Press)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%)</p> <p>出席: 出席を大前提とする。8 回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 II (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

養	英語 I (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental oral skills. Both accuracy and fluency are to be pursued, but a relative emphasis is placed on formulaic speech in various situations. Activities shall be devised in order to lessen the load of monitoring structural accuracy, and to encourage concentrating on the content of the speech/discourse. Also includes pronunciation practice, shadowing, and reading aloud. The class is taught in English.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級、中級上・中 : <i>Dynamic Presentations</i> (桐原書店)</p> <p>中級下 : <i>Nice Talking with You</i> (McMillan) & <i>Getting Ready for Speech</i> (Language Solutions)</p>		<p>参加態度、予習、努力等 (10%) , 口頭発表 (30%) , 期末ペアインタビュー (30%) , 課題到達度 (30%)</p> <p>出席 : 出席を大前提とする。理由の如何を問わず 3 回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 II (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語I(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental oral skills. Continued from English I (S), further steps of proficiency are to be pursued. Learners are expected to apply appropriate formulaic speech to spontaneous situations. They are also expected to make short presentations on daily topics. The class is taught in English.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

養	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental understanding and use of paragraph writing. Emphasis is placed on filling the gap on the learners' part between understanding the structural organisation of a paragraph/discourse and creating it in the way a target language user does. Activities include formal practices on defying terms, classifying objects, ordering events, comparing and contrasting objects, stating cause and effect. They also include individualised writing derived from the learners' knowledge, interest, and experience. Authographical skills are also taught. The class is mainly taught/participated in English. The students are expected to type written assignments.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: <i>Sourcework</i> (Cengage) 中級 Intermediate level: <i>Effective Academic Writing 2</i> (Oxford)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%), 期末作文課題 (20%), 授業参加態度 (20%), ポートフォリオ (10%) 出席：出席を大前提とする。理由の如何を問わず3回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 II (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語 I (W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental understanding and use of paragraph writing. Continued from English I (W), further steps of written proficiency are to be pursued. Learners are expected to apply principles of paragraph writing to various topics such as defining, classifying, ordering, comparing, contrasting, and stating causal relations. Activities include individualised writing derived from the learner's knowledge, interest, and experience. Authographical skills are also taught. The class is mainly taught/participated in English. The students are expected to type written assignments.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

養	英語Ⅲ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅡIE」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		<p>各担当教員が初回の授業で指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級：第1回目の講義で発表します 中級上・中：Academic Encounters: Life in Society (Cambridge University Press) 中級下：The Powerful Reader (McMillan)</p>		<p>課題 (20%)，多読関連 (20%)，語彙テスト (20%)，期末テスト (40%) 出席：出席を大前提とする。8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語Ⅳ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅢIE」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		<p>各担当教員が初回の授業で指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

養	英語 III (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。「英語II (S)」に引き続き、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか、異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、正確に情報が伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p> <p>This class provides opportunities to develop extensive oral skills. In addition to practices on formulaic speech, discussions and presentations on various topics in intercultural communication are introduced. Both accuracy and fluency are to be pursued in these productive activities. Learners are also expected to respond to unexpected situations and to be constantly aware of the appropriateness of the speech to the context. The class is taught in English.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 : <i>Academic Encounters: Life in Society</i> (LS) (Cambridge University Press)</p> <p>中級上・中 : <i>People Like Us, Too</i> (McMillan)</p> <p>中級下 : <i>People Like Us</i> (McMillan)</p>		<p>参加態度、予習、努力等 (10%) , 口頭発表 (30%) , 期末ディスカッション (30%) , 課題到達度 (30%)</p> <p>出席 : 出席を大前提とする。理由の如何を問わず3回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 IV (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語III (S)」に引き続き、柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、より説得力があるメッセージが伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p> <p>This class provides opportunities to develop extensive and flexible oral skills. Continued from English III (S), further steps of proficiency are to be pursued. Through discussions and presentations on various topics in intercultural communication, learners are expected to express convincing messages by careful structuring and selection of speech content. Learners are also expected to respond to unexpected situations and to be constantly aware of the appropriateness of the speech to the context. The class is taught in English.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

養	英語 III (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental skills in essay writing. Activities include writing reports and short research papers using structural principles in describing changes, stating cause and effect, convincing people, and expressing opinions. Emphasis is placed on the process of writing, as well as the product, by introducing such activities as brain storming, outline processing, and research skills. Authographical skills are also taught. The class is mainly taught/participated in English. The students are expected to type written assignments.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上級 Advanced level: <i>Sourcework</i> (Cengage) 中級 Intermediate level: <i>Effective Academic Writing 3</i> (Oxford)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%), 期末作文課題 (20%), 授業参加態度 (20%), ポートフォリオ (10%) 出席: 出席を大前提とする。理由の如何を問わず3回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 IV (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。</p> <p>This class provides opportunities to develop fundamental skills in essay writing. Continued from English III (W), further steps of written proficiency are to be pursued. Activities include writing reports and short research papers using structural principles in describing changes, stating cause and effect, convincing people, and expressing opinions. Emphasis is placed on the process of writing, as well as the product, by introducing such activities as brain storming, outline processing, and research skills. Authographical skills are also taught. The class is mainly taught/participated in English. The students are expected to type written assignments.</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

養	英語V (AE) (Modern American Culture 1)	担当者	B. J. バトラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>Week 1: Introduction / Fundamentals of American Culture</p> <p>Week 2: Fundamentals of American Culture // Opinion Paper</p> <p>Week 3: American Values and Beliefs // Research Presentations</p> <p>Week 4: American Values and Beliefs // Works Cited / Research Paper Topic</p> <p>Week 5: America's Frontier Heritage // Research Paper Thesis Statement</p> <p>Week 6: Family // Research Paper Outline</p> <p>Week 7: Family // Research Paper Introductory Paragraph</p> <p>Week 8: Education</p> <p>Week 9: Education // Research Paper Draft#1 / Peer Editing</p> <p>Week 10: Religion // Research Paper Draft#2</p> <p>Week 11: Women // Presentation Preparation / Student-Teacher Conferences</p> <p>Week 12: Food // Presentation Preparation / Student-Teacher Conferences</p> <p>Week 13: Food</p> <p>Week 14: Research Paper Draft#3 Due / Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
American Ways, Longman		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），小テスト（10%），opinion paper（20%），research paper（30%：outline 10%，drafts 10%，final product 10%），口頭発表（20%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする</p>	

養	英語VI (AE) (Modern American Culture 2)	担当者	B. J. バトラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Introduction / Work in America</p> <p>Week 2: Work in America // Opinion Paper</p> <p>Week 3: Law and Crime // Research Presentations</p> <p>Week 4: Law and Crime // Works Cited / Research Paper Topic</p> <p>Week 5: American Business and Economy // Research Paper Thesis Statement</p> <p>Week 6: TV Commercials // Research Paper Outline</p> <p>Week 7: Government and Politics // Research Paper Introductory Paragraph</p> <p>Week 8: Leisure Time</p> <p>Week 9: Communication Styles // Research Paper Draft#1 / Peer Editing</p> <p>Week 10: Ethnic Diversity // Research Paper Draft #2</p> <p>Week 11: Ethnic Diversity // Presentation Preparation / Student-Teacher Conferences</p> <p>Week 12: Changing Values // Presentation Preparation / Student-Teacher Conferences</p> <p>Week 13: Changing Values</p> <p>Week 14: Research Paper Draft#3 Due / Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
American Ways, Longman		春学期と同じ	

養	英語 V(AE) (Basic Research and Discussion: Culture and Society)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written 		<p>Course Objective: Students will discuss and research cultural/communicative issues focused on Japan and the world.</p> <p>Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction to the course (mini workshops of skills involved) for diagnostic purposes Week 2 to 5 Using academic articles (chose teacher)students will Take notes on main ideas Evaluate and criticize Discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles as above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid. Coursework Part 2 Weeks 7 to 14 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Klube and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> <i>Additional teacher texts Writing Academic English, 3rd Edition, hand outs and articles</i></p>		<p>評価基準：準備・参加（10%）、課題（10%）、小テスト（10%）、opinion paper（20%）、research paper（30%: outline 10%、drafts 10%、final product 10%）、口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする</p>	

養	英語 VI(AE) (Research and Discussion: Global Issues)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を指す。</p>		<p>Course Objective: Students will discuss and research global issues</p> <p>Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction to the course (mini workshops of skills involved) for diagnostic purposes Week 2 to 5 Using academic articles (chose teacher)students will Take notes on main ideas Evaluate and criticize Discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles as above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid. Coursework Part 2 Weeks 7 to 14 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Klube and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> <i>Additional teacher texts Writing Academic English, 3rd Edition, hand outs and articles</i></p>		春学期と同じ	

養	英語V (AE) (Environmental Issues)	担当者	K.A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Health and Us: chemicals in food and cosmetics 6. Energy and Us: energy sources 7. Transport and Us: cars vs. mass transit 8. Nature and Us: environmental destruction 9. Nature and Us: endangered wildlife 10. Travel: effects of tourism on local areas 11. Recreation and Us: environmental impact 12. Looking back: political attitudes 13. Moving Forward: Finding Solutions 14. In-class Exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Looking Back, Moving Forward: Reading and Discussion, C. Summerville (Macmillan Languagehouse), 2006		<p>評価基準：準備・参加 (10%)、課題 (10%)、小テスト (10%)、opinion paper (20%)、research paper (30% : outline 10%、drafts 10%、final product 10%)、口頭発表 (20%)</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Global Topics)	担当者	K.A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course and themes 2. The Millennial Generation 3. Cultural Encounters 4. Consumer Lifestyle 5. Aging 6. Youth in Action 7. Music 8. Value of Work 9. Inequality 10. Wisdom 11. Culture and Change 12. Managing Nature 13. The Final Frontier 14. In-class Exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Global Outlook 2: Advanced Reading (International Ed.) B. Dyer and B. Bushell (McGraw Hill), 2004		春学期と同じ	

養	英語 V (AE) (Ideals of British Culture)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written 		<p>Week 1: Introduction // What is Britain? Week 2: Reading 1: The Empire and the Underdog // opinion paper Week 3: Film – My Fair Lady: Why can't the English speak English? // World Englishes Week 4: Reading 2: Captain Scott's Diary: The English Gentleman // poster presentation Week 5: Film – Robin Hood: Robbers and Charity // research paper topic Week 6: Reading 3 – The Death Penalty // research paper outline Week 7: Reading 4 – The Quest for King Arthur Week 8: Film – Lord of the Rings // British Fictional Genres Week 9: Reading 5: Philanthropists – Joseph Cadbury and William Wilberforce // research paper draft 1 Week 10: Reading 6: Heroic Failures // British Inventiveness Week 11: Reading 7: Sport and Class // research paper draft 2 and feedback Week 12: Reading 8: Glasses for Dogs – pets// Eccentrics Week 13: Reading 9: The Greatest Briton Week 14: Research paper due// Oral presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），小テスト（10%），opinion paper（20%），research paper（30%：outline 10%，drafts 10%，final product 10%），口頭発表（20%） 出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする</p>	

養	英語VI (AE) (Contemporary British Culture)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Introduction // Multicultural Britain Week 2: Reading 1: British symbols // opinion paper Week 3: Film – Bridget Jones' Diary: British women Week 4: Reading 2 – The Sweet Strawmato: Hybrid foods Week 5: Reading 3: The British Educational System // research paper topic Week 6: Reading 4: The Bonfire Plot: Britain's First Terrorists? // research paper outline Week 7: Reading 5: British Customs Week 8: Reading 6: Disciplining Children Week 9: Reading 7: Social Welfare // research paper draft 1 Week 10: Reading 8: Centralised Britain; London Week 11: Reading 9: An Englishman's Home is His Castle // research paper draft 2 and feedback Week 12: Film – A Christmas Carol/ It's a Wonderful Life: The Spirit of Christmas Week 13: Reading 10: Compensation Culture Week 14: research paper due / Oral Presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		春学期と同じ	

養	英語V (AE) (Beatrix Potter and Lake District)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>1 Introduction to the world of Peter Rabbit</p> <p>2 Critical reading of <i>the Tale of Peter Rabbit</i> and other tales</p> <p>3 Excerpts from Beatrix Potter's biography (1)</p> <p>4 Excerpts from Beatrix Potter's biography (2)</p> <p>5 Excerpts from Beatrix Potter's biography (3)</p> <p>6 Excerpts from Beatrix Potter's biography (4)</p> <p>7 Summary of Beatrix Potter's biography: presentation (1)</p> <p>8 Summary of Beatrix Potter's biography: presentation (2)</p> <p>9 National Trust in Lake District (1)</p> <p>10 National Trust in Lake District (2)</p> <p>11 National Trust in Lake District (3)</p> <p>12 National Trust in Lake District (4)</p> <p>13 Summary of National Trust in Lake District: presentation (1)</p> <p>14 Summary of National Trust in Lake District: presentation (2)</p> <p>15 Supplementary activities</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J. Taylor, J. I. Whalley, A. S. Hobbs, & E. M. Battruck, <i>Beatrix Potter: the Artist and Her World 1866-1943</i> (Warne, 1988; ISBN: 978-0723235613)		評価基準: 準備・参加 (10%), 課題 (10%), 小テスト (10%), opinion paper (20%), research paper (30%: outline 10%, drafts 10%, final product 10%), 口頭発表 (20%) 出席: 出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語VI (AE) (Beatrix Potter and Lake District)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし(反省点を克服する)一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>1 More introductions to the world of Peter Rabbit</p> <p>2 Critical reading of <i>Benjamin Bunny</i> and other tales</p> <p>3 Excerpts from Beatrix Potter's biography (1)</p> <p>4 Excerpts from Beatrix Potter's biography (2)</p> <p>5 Excerpts from Beatrix Potter's biography (3)</p> <p>6 Excerpts from Beatrix Potter's biography (4)</p> <p>7 Summary of Beatrix Potter's biography: presentation (1)</p> <p>8 Summary of Beatrix Potter's biography: presentation (2)</p> <p>9 National Trust in England and the World (1)</p> <p>10 National Trust in England and the World (2)</p> <p>11 National Trust in England and the World (3)</p> <p>12 National Trust in England and the World (4)</p> <p>13 Summary of National Trust in England and the World: presentation (1)</p> <p>14 Summary of National Trust in England and the World: presentation (2)</p> <p>15 Supplementary activities</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J. Taylor, J. I. Whalley, A. S. Hobbs, & E. M. Battruck, <i>Beatrix Potter: the Artist and Her World 1866-1943</i> (Warne, 1988; ISBN: 978-0723235613)		春学期と同じ	

養	英語V (AE) (Japanese-Americans and Diversity in Japan)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>Week 1: Introduction / Reading 1: Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</p> <p>Week 2: Reading 1 // opinion paper</p> <p>Week 3/4: Reading 2: Japanese-American Contributions & mini-research/poster presentation</p> <p>Week 5: Reading 3: Historical Overview // research paper topic</p> <p>Week 6: Film – Picture Bride // research paper outline</p> <p>Week 7: Reading 4: On Being Japanese and American</p> <p>Week 8: Reading 5: What is Pearl Harbor? & Executive Order 9066</p> <p>Week 9: Film – Days of Waiting // research paper draft 1 & peer review</p> <p>Week 10: Reading 6: Arrival at Manzanar & other supplementary readings</p> <p>Week 11: Film – documentary 100th/442nd combat units// research paper draft 2 & conferencing</p> <p>Week 12: Reading 7: No-no Boy (Chapter 1)</p> <p>Week 13: Reading 8: Delivering on the Promise</p> <p>Week 14: research paper due / Oral presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），小テスト（10%），opinion paper（20%），research paper（30%：outline 10%，drafts 10%，final product 10%），口頭発表（20%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Japanese Images Abroad)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Introduction / Reading 1</p> <p>Week 2: Reading 1 // opinion paper</p> <p>Week 3/4: Reading 2</p> <p>Week 5: Reading 3 // research paper topic</p> <p>Week 6: research paper outline</p> <p>Week 7: Reading 4</p> <p>Week 8: Reading 5</p> <p>Week 9: research paper draft 1 & peer review</p> <p>Week 10: Reading 6</p> <p>Week 11: research paper draft 2 & conferencing</p> <p>Week 12: Reading 7</p> <p>Week 13: Reading 8</p> <p>Week 14: research paper due / Oral presentation</p> <p>Temporary reading list:</p> <ul style="list-style-type: none"> - “Bwana Mickey”: Constructing Cultural Consumption at Tokyo Disneyland - Mirror of the Gods - Japaneseness - Character of the People - Japanese advertising’s foreign obsession 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		春学期と同じ	

養	英語 V (AE) (American Culture and Society I)	担当者	細田 菜穂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>week1: Introduction/ Fundamentals of culture #1</p> <p>week2: Fundamentals of American Culture #2</p> <p>week3: Education #1 (University Education)</p> <p>week4: Education #2 (Student Lifestyles) Mini-research & presentation</p> <p>week5: Education #3 (Review) Research topic</p> <p>week6: Family #1 (Raising Children) Research paper outline</p> <p>week7: Family #2 (Marriage and the family)</p> <p>week8: Family #3 (Review)</p> <p>week9: Food & Health #1 (Hamburgers and Sushi) Research paper draft#1 & Peer editing</p> <p>week10: Food & Health #2 (Going to the doctor) Research paper draft#2</p> <p>week11: Food & Health #3 Film ("sicko") Student-teacher conferences</p> <p>week12: Communication styles Presentation preparation</p> <p>week13: Space and Silence Presentation preparation</p> <p>week14: Oral presentation/ Research paper due</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業で指示する		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），小テスト（10%），opinion paper（20%），research paper（30%：outline 10%，drafts 10%，final product 10%），口頭発表（20%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする</p>	

養	英語VI (AE) (American Culture and Society II)	担当者	細田 菜穂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>week 1: Introduction</p> <p>week 2: Working Life #1</p> <p>week 3: Working Life #2</p> <p>week 4: Working Life #3 Mini-research and presentation</p> <p>week 5: Women #1 Research topic</p> <p>week 6: Women #2/ Research paper outline Research paper outline</p> <p>week 7: TV Commercials #1</p> <p>week 8: TV Commercials #2</p> <p>week 9: Law & Crime #1 Research paper draft#1 & Peer editing</p> <p>week 10: Law & Crime #2 Research paper draft#2</p> <p>week 11: Ethnic diversity #1 Student-teacher conferences</p> <p>week 12: Ethnic diversity #2 Presentation preparation</p> <p>week 13: Ethnic diversity#3 Presentation preparation</p> <p>week 14: Oral presentation/ Research paper due</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業で指示する		春学期と同じ	

養	英語V (AE) (Introduction to English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>第1週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・背景説明 <p>第2週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Intro) <p>第3週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 1) <p>第4週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 2) <p>第5週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 3) <p>第6週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 4) <p>第7週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 5) <p>第8週～第9週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Short Stories <p>第10週～第11週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Poetry <p>第12週～第14週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Much Ado About Nothing</i> (William Shakespeare, The Arden Shakespeare)</p> <p>Short Stories と Poetry (配布プリント)</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%) , 課題 (10%), 小テスト (10%), opinion paper (20%), research paper (30%: outline 10%, drafts 10%, final product 10%), 口頭発表 (20%)</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Folklore's in English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし(反省点を克服する)一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>第1週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・背景説明 <p>第2週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i>(Intro) <p>第3週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 1) <p>第4週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 2) <p>第5週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 3) <p>第6週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 4) <p>第7週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 5) <p>第8週～第9週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Short Stories <p>第10週～第11週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Poetry <p>第12週～第14週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Midsummer Night's Dream</i> (William Shakespeare, The Arden Shakespeare)</p> <p>Short Stories と Poetry (配布プリント)</p>		<p>春学期と同じ</p>	

養	英語V (AE) (繋がる世界の課題とは)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can objectively summarize academic articles and related materials</p> <p>③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>④ can write a short opinion paper</p> <p>⑤ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Brics, eat up Japanese food 2. UN's fight against poverty in Africa 3. Hollywood in need of Japanese 4. World's new seven wonders chosen 5. Pluto demoted, no longer a true planet 6. New citizen judge system 7. X-pigs and bioclip 8. Local leaders ok post-kyoto plan 9. Two more nations join the EU 10. Globalization 11. Japanese turn to China for organ transplants 12. Media literacy 13. No cash, no cure? 14. The making of a plagiarist <p>二コマ連続の授業である。英文を読み、内容を伝え、質疑応答する。そして後半期では各自、選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Topics in Contemporary World (Tsurumi Shoten)		<p>評価基準：準備・参加 (10%) , 課題 (10%), 小テスト (10%), opinion paper (20%), research paper (30%: outline 10%, drafts 10%, final product 10%), 口頭発表 (20%)</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (アメリカと試練)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし(反省点を克服する)一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Rachel Carson and the wonders of the Earth 2. Gambling with survival 3. Think different 4. War comes home 5. War for sale 6. Barbara Lee votes 'No' 7. Isamu Noguchi and the internment of Japanese-Americans 8. The spirit of aloha 9. The limits of forgiveness 10. Eugene Debs and Joseph McCarthy 11. The end of "separate but equal" 12. Wounded Knee 13. Ethnicity 14. Directness and honesty <p>二コマ連続の授業である。英文を読み、内容を伝え、質疑応答する。そして後半期では各自、選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Different Histories (金星堂)		春学期と同じ	

養	スペイン語 I (総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合) は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 I(総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語 II (総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 II(総合1) は、スペイン語 I(総合1,2) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合) は、スペイン語 II の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 II(総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑭ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語 I (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) はスペイン語 I (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語 I (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。</p>	

養	スペイン語 II (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) の継続授業である。</p> <p>スペイン語 II (総合 2) はスペイン語 II (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語 II (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。</p>	

養	スペイン語 I (入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(入門) では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語 I (総合1,2) の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合1,2) の項目と同じであるが、(入門) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I (総合1,2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語 II (基礎表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (入門) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(基礎表現) では、(総合1,2) の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 II (総合1,2) の項目と同じであるが、(基礎表現) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 II (総合1,2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれをを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。</p> <p>接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれをを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（総合）の継続である。</p> <p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（講読）の継続である。</p> <p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに総合の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(会話 1)(会話 2) のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話) の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>(LL) の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		<p>14 回分の授業構成について、各担当者が 4 月の最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。</p> <p>(会話 1)(会話 2) のいずれかの担当教員が LL の授業を担当し、他方が会話の授業を担当する。</p> <p>(会話) の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>(LL) の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		<p>14 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅲ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ(会話1) を参照。		14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ(会話1) を参照。		14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（応用Ⅰ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や、新聞記事等、文化的背景を押さえた上での講読ができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅴ（応用Ⅰ）の継続である。</p> <p>（応用Ⅰ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や、新聞記事等、文化的背景を押さえた上での講読ができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅴ（応用Ⅱ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（応用Ⅱ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでにある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きはおかず、むしろ、文書や会議での発言といったパブリックな場面に耐え得るスペイン語の獲得を目標とする。</p> <p>（応用Ⅱ）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅵ（応用Ⅱ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅴ（応用Ⅱ）の継続である。</p> <p>（応用Ⅱ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでにある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きはおかず、むしろ、文書や会議での発言といったパブリックな場面に耐え得るスペイン語の獲得を目標とする。</p> <p>（応用Ⅱ）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1～3 発音・ピンイン 4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6 形容詞述語文、選択疑問文 7 中間試験 8 復習 9 二重目的文、量詞 10 連動文、年月日・曜日の言い方 11 有／没有、几／多少、方位詞、数詞 12 在、金額の表現 13 助動詞、語気助詞“了” 14 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1 主述述語文、程度補語、離合詞 2 進行相、動詞の重ね型 3 方向補語、結果補語 4 持続相、可能補語 5 経験相、将然相、時刻の表現 6 存現文 7 中間試験 8 復習 9 “把”字文、定着表現、到達表現 10 比較の表現 11 受身文 12 様態補語 13 使役文、後置修飾 14 “（是）…的”構文</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現</p> <p>12～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現</p> <p>12～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。</p>		<p>1～3 発音 4～6 第1課 第2課 第3課 7 中間試験 8 復習 9～11 第4課 第5課 第6課 12～14 第7課 第8課 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。</p>		<p>1～3 第9課 第10課 第11課 4～6 第12課 第13課 第14課 7 中間試験 8 復習 9～11 第15課 第16課 第17課 12～14 第18課 第19課 第20課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現</p> <p>12～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現</p> <p>12～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<p>1 第1課 2 第2課 3 第3課 4 第4課 5 第5課 6 第6課 7 中間試験 8 復習 9 第7課 10 第8課 11 第9課 12 第10課 13 第11課 14 第12課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 —』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		<p>1 第13課 2 第14課 3 第15課 4 第16課 5 第17課 6 第18課 7 中間試験 8 復習 9 第19課 10 第20課 11 第21課 12 第22課 13 第23課 14 第24課</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 —』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第1課 第2課</p> <p>4～6 第3課 第4課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第5課 第6課</p> <p>12～14 第7課 読み物（プリント教材）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） +（各クラス担当者作成の）プリント教材</p>		<p>授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

養	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 第9課</p> <p>4～6 第10課 第11課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第12課 第13課</p> <p>12～14 第14課 読み物（プリント教材）</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』（白帝社） +（各クラス担当者作成の）プリント教材</p>		<p>授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

養	中国語Ⅲ（会話1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。</p> <p>予習：本文の音読を三回以上行うこと</p> <p>訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語のクイックレスポンス ・本文のリピーティング ・ペア・ワーク ・シャドーイング ・日→中訳 <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>第1課～33課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Scene1～3 2. Scene4～6 3. Scene7～9 4. Scene10～12 5. 中間テスト1 6. Scene13～15 7. Scene16～18 8. Scene19～21 9. Scene22～24 10. 中間テスト2 11. Scene25～27 12. Scene28～30 13. Scene31～33 14. 学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート66』東方書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅳ（会話1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。</p> <p>予習：本文の音読を三回以上行うこと</p> <p>訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語のクイックレスポンス ・本文のリピーティング ・ペア・ワーク ・シャドーイング ・日→中訳 ・自由作文 <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>第34課～66課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Scene34～36 2. Scene37～39 3. Scene40～42 4. Scene43～45 5. 中間テスト1 6. Scene46～48 7. Scene49～51 8. Scene52～54 9. Scene55～57 10. 中間テスト2 11. Scene58～60 12. Scene61～63 13. Scene64～66 14. 学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート66』東方書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅲ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」</p> <p>中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の1~33の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介、家庭Ⅰ・Ⅱ 2 住まい、食事、買い物 3 1日のスケジュール、通学・通勤、学校 4 授業Ⅰ・Ⅱ、中国語 5 テスト、 留学、部活動 6 アルバイト、就職、仕事 7 中間試験 8 復習 9 病気、健康 10 余暇、趣味、レジャー 11 旅行、スポーツ 12 グルメ、タバコ・酒 13 ショッピング、おしゃれ 14 恋愛、電話・手紙 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（会話2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の34~66の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テレビ・新聞、映画、音楽 2 読書、訪問、パーティ 3 パースデー・クリスマス、生活、ことば 4 故郷、天気、 5 友だち、性格 6 中国人、中国文化、日本と中国、 7 中間試験 8 復習 9 観光地で、ホテルで、レストランで 10 お店で、街で、交通 11 あいさつ、お礼、おわび 12 約束、依頼 13 お祝い・励まし、慰め、お別れ 14 感情表現、教室用語 <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅴ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅳまでの学習で身につけた、話す・書く能力を用いてさらに高度な中国語能力を養成するための学習を行う。オーラル面においては発音の不自然な癖を修正するよう心がける。中国人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 <p>【授業】</p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。</p> <p>【復習】各課の全体を見直し、<u>単語と表現</u>を用いて文を作り、提出する。提出された作文は添削後に返却する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. ひとを訪ねる 6. 道をさく 7. 自転車 8. 復習テスト 9. タクシー 10. 旅 11. 宿泊 12. 銀行 13. 買い物 14. 郵便 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国人教員が担当する。春学期に引き続き、『情景漢語』を用いるが、学生のレベルにしたがって、討論の時間を前期よりも長くする。オーラル面においてはより自然な発音を身につけるよう心がける。</p> <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 <p>【授業】</p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。</p> <p>【復習】各課の全体を見直し、<u>単語と表現</u>を用いて文を作り、提出する。提出された作文は添削後に返却する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の復習 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. ホームパーティー 6. 茶・たばこ・酒 7. 復習テスト 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. ダンス 11. 観光旅行 12. 病気の治療 13. 天候と健康 14. 体をきたえる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅴ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅴ（応用1）と同じテキストを用い、読解力と聞く能力を向上させることを目的とする。日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換する。</p> <p>【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p>【復習】 <u>朗読</u>の文章を日本語に訳して提出する。提出された翻訳は添削後に返却する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. ひとを訪ねる 6. 道をさく 7. 自転車 8. 復習テスト 9. タクシー 10. 旅 11. 宿泊 12. 銀行 13. 買い物 14. 郵便 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p>【予習】 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。</p> <p>【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p>【復習】 <u>朗読</u>の文章を日本語に訳して提出する。提出された翻訳は添削後に返却する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の復習 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. ホームパーティー 6. 茶・たばこ・酒 7. 復習テスト 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. ダンス 11. 観光旅行 12. 病気の治療 13. 天候と健康 14. 体をきたえる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじまって簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねる、ショッピングをするなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身につけていく。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13 まとめと復習① 14 まとめと復習② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、小テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は韓国語中級へのステップアップを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>予定をたずねる、説明書を読む、手紙を読む等、より多様な場面で使用される文章を身につけていくとともに、基礎的な文法習得の仕上げをする。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13 まとめと復習① 14 まとめと復習② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語 I (文法・読解 2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語 I (文法・読解 1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13 まとめと復習① 14 まとめと復習② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語 II (文法・読解 2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語 II (文法・読解 1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p> <p>また、韓国語中級へのステップアップを目標とし、主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13 まとめと復習① 14 まとめと復習② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第1課 基本文型 @は何すか。@です。 8. 第3課 自己紹介 9. 第5課 否定文 10. 第7課 時間の表現（曜日） 11. 第9課 過去時制 12. 第11課 電話の表現 13. 第13課 注文 14. 復習（聞き取り練習・発音練習） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院、『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院、『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第13課 提案表現 3. 第15課 交通 4. 第15課 目的表現、指示表現 5. 第17課 家族 6. 第17課 事実の確認 7. 復習（韓国歌・聞き取り練習など） 8. 第19課 誕生日 9. 第19課 同時、接続表現 10. 第21課 購入 11. 第21課 希望表現・可能表現 12. 第23課 薬局 13. 第23課 推測表現・連体形 14. 復習（語彙・聞き取り・activity など） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院、『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院、『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第2課 基本文型 はい、@です。いいえ、@ではありません など。 8. 第4課 場所表現、敬語 9. 第6課 天気表現 10. 第8課 位置と数字(요 form) 11. 第10課 不規則動詞変化・漢数字 12. 第12課 買い物 13. 第14課 交通手段 14. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第14課 理由、義務などの表現 3. 第16課 招待 4. 第16課 不規則活用、時間表現 5. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 6. 第18課 趣味 7. 第18課 お断り表現、理由・提案表現 8. 第20課 旅行 9. 第20課 連体形 10. 第22課 週末計画 11. 第22課 談話表現・未来時制 12. 第24課 喫茶店 13. 第24課 お詫び表現 14. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%</p>	

養	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 引用形 2 変則用言の復習 3 補助動詞지다 4 婉曲・感嘆・非難の語尾 5 意思表明の語尾 6 目的의리 7 間接疑問 8 感嘆形の군 9 던 10 아도/어도 11 것 같다 12 는데/는데 13 疑問詞の不定用法 14 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語3』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念을까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 ぞんざいな命令、語尾-다가 9 根拠の提示 거든 10 助詞만 11 形容詞からの派生副詞、語尾-다면, -거나 12 作文練習① 13 作文練習② 14 まとめと復習③ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅲ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p> <p>また、ある程度まとまった文章を読んで日本語に翻訳する練習も行っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 引用形 2 変則用言の復習 3 補助動詞지다 4 婉曲・感嘆・非難の語尾 5 意思表明の語尾 6 目的의리 7 間接疑問 8 感嘆形の군 9 던 10 아도/어도 11 것 같다 12 는데/는데 13 疑問詞の不定用法 14 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語3』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韓国語Ⅲまでの復習① 2 韓国語Ⅲまでの復習② 3 韓国語Ⅲまでの復習③ 4 懸念을까 보다 5 成り行きと使役 6 同格の「の」 7 否定疑問文と付加疑問文 8 ぞんざいな命令、語尾-다가 9 根拠の提示 거든 10 助詞만 11 形容詞からの派生副詞、語尾-다면, -거나 12 作文練習① 13 作文練習② 14 まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ (コミュニケーション1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 第25課 一日中の出来事 3. 第25課 要請表現 4. 第27課 夏休みの計画 5. 第27課 故郷紹介 6. 第29課 銀行 7. 第29課 両替・話題転換 8. 第1課 自己の紹介 9. 第1課 受け身・引用文 10. 第3課 郵便局 11. 第3課 利用の順番 12. 第5課 かけ間違えた電話 13. 第5課 禁止の形容詞 14. 復習(語彙・聞き取り・activityなど)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅳ (コミュニケーション1)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第7課 市場 2. 第7課 最上級表現 3. 第9課 事務室 4. 第9課 許容表現 5. 第11課 韓国語の学習 6. 第11課 予想表現・アレゴリー表現 7. 第13課 訪問 8. 第12課 名詞形 9. 第15課 古本屋 10. 第15課 協商する 11. 第17課 議論する 12. 第19課 趣味 13. 第19課 褒める 14. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅲ (コミュニケーション2)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. 第26課 喫茶店 3. 第26課 感嘆表現、感謝表現 4. 第28課 計画 5. 第28課 比較表現 6. 第30課 週末の出来事 7. 第30課 否定疑問文 8. 第2課 教室 9. 第2課 状態変化 10. 第4課 新聞立ち売り場 11. 第4課 能力表現 12. 第6課 本について 13. 第6課 意見を表現する 14. 復習(語彙・聞き取り・activity など) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅳ (コミュニケーション2)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第8課 廊下 2. 第8課 案内する・訂正する 3. 第10課 お正月 4. 第10課 当為表現 5. 第12課 街頭 6. 第12課 条件表現 7. 第14課 手紙 8. 第14課 推測表現 9. 第16課 道の案内 10. 第16課 転換の表現 11. 第18課 試験準備 12. 第18課 アドバイスする 13. 第20課 予約する 14. 復習(聞き取り練習・発音練習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅴ（応用1）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅳに引き続き、文法の補強、講読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第21課 3. 第22課 4. 第23課 5. 第24課 6. 第25課 7. 第26課 8. 第27課 9. 第28課 10. 第29課 11. 第30課 12. 第31課 13. 第32課 14. 第33課	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語2』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語2 Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅵ（応用1）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅴに引き続き、韓国語文献の読解や debate 力の養成、表現力の増強を目指す。		1. Chapter 1 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 2 5. Chapter 3 6. Chapter 3 7. Chapter 4 8. Chapter 4 9. Chapter 5 10. Chapter 5 11. Chapter 6 12. Chapter 6 13. Chapter 7 14. Chapter 8	
テキスト、参考文献		評価方法	
李ソニ、『外国人のための韓国現代文化』, 韓国文化社, 2007		出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅳ」で学んだ事項をふまえ、より高度な韓国語運用力を身につけるためのものである。 ある程度まとまった文章を読んで日本語に翻訳する練習も、ひきつづき行っていく。</p>		<p>1 하다による慣用句① 2 하다による慣用句② 3 非了解事項に対する質問、受身形① 4 非了解事項に対する質問、受身形② 5 더라고, 자마자など① 6 더라고, 자마자など② 7 形容詞からの派生動詞、故事成語など① 8 形容詞からの派生動詞、故事成語など① 9 고 나다, ㄹ 만하다, -면서?① 10 고 나다, ㄹ 만하다, -면서?② 11 仮定、訂正否定と選択否定① 12 仮定、訂正否定と選択否定② 13 그만, 만…면, 보이다① 14 그만, 만…면, 보이다②</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。</p>		<p>1～5回 「韓国語Ⅴ」までの復習と整理 6～10回 表現力向上のための文法整理 11～14回 四字熟語、ことわざの整理</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する予定。		出席、課題および期末テスト。	

養 外言	英語演習Ⅰ（通訳・翻訳） 英語演習（通訳・翻訳）	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳と翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>通訳・翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 通訳・翻訳とは何か 訓練方法について 2 伸ばすべき部分は？ 自己分析をしよう 3 英文和訳・和文英訳からの脱却 4 リスニングのコツ（質・量の2通りのリスニング） 5 リサーチの方法 何を使ってどう調べるのか（1） 6 リサーチの方法 何を使ってどう調べるのか（2） 7 通訳者に学ぶ語彙増強の方法 8 プレゼンテーションの通訳（式辞） 9 プレゼンテーションの通訳（式辞） 10 プレゼンテーションの通訳（製品紹介） 11 プレゼンテーションの通訳（製品紹介） 12 プレゼンテーションの通訳（プロジェクト紹介） 13 プレゼンテーションの通訳（プロジェクト紹介） 14 テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業参加 20% レポート 20% テスト 40%	

養 外言	英語演習Ⅱ（通訳・翻訳） 英語演習（通訳・翻訳）	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、通訳や翻訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳と翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>通訳・翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p> <p>* 春学期とは別の教材を用いる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 通訳・翻訳とは何か 訓練方法について 2 伸ばすべき部分は？ 自己分析をしよう 3 英文和訳・和文英訳からの脱却 4 リスニングのコツ（質・量の2通りのリスニング） 5 リサーチの方法 何を使ってどう調べるのか（1） 6 リサーチの方法 何を使ってどう調べるのか（2） 7 通訳者に学ぶ語彙増強の方法 8 プレゼンテーションの通訳（式辞） 9 プレゼンテーションの通訳（式辞） 10 プレゼンテーションの通訳（製品紹介） 11 プレゼンテーションの通訳（製品紹介） 12 プレゼンテーションの通訳（プロジェクト紹介） 13 プレゼンテーションの通訳（プロジェクト紹介） 14 テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業参加 20% レポート 20% テスト 40%	

養 外言	英語演習 I (Education and global society) 英語演習 (Education and global society)	担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be education and society. This course examines the role of education in the society, globalization.</p> <p>We will read four articles from which we have the glimpse of different societies. These articles will help us to understand the educational systems, successes, and problems of different countries. We will also learn how education creates inequalities in the society. This course will enable you to understand global realities.</p> <p>In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be using readings from articles to launch our inquiries. From there, we will be drawing on a variety of media to help us explore these questions. Research, and the collection of ideas and materials, will be very important. You will be given the opportunity to use our texts from the class and follow interests of your own that will help to explain and expand the points that we are making. You will be making reference to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn how to use such sources to advance our thinking and our ideas, cite them correctly, and use them in creative written argument, evaluation, and explanation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Syllabus review 2. Read article on Japan and lecture on Japan 3. Continued reading article on Japan 4. Group Discussion and In- class writing 5. Read article on Bangladesh and lecture on Bangladesh 6. Continued reading article on Bangladesh 7. Discussion on the educational system of Japan and Bangladesh 8. Group presentation final paper topic discuss 9. Read article on India and lecture on India 10. Continued reading article on India 11. Group Discussion and In- class writing 12. Read article on Pakistan and lecture on Pakistan 13. Discussion on comparative study and course review. 14. Final paper due and group presentation <p><i>The instructor has the right to amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles will be provided in the classroom		Group presentation20 In-class writing20 Long paper40 Written commentaries, home work, participation20	

養 外言	英語演習 II (English as an International Language) 英語演習 (English as an International Language)	担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course examines English language issues at societal and global levels. It will discuss the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies.</p> <p>In this class, you will practice reading critically, organizing your ideas, and writing clear, concise and academic prose. We will be using readings from articles to launch our inquiries. From there, we will be drawing on a variety of media to help us explore these questions. Research, and the collection of ideas and materials, will be very important. You will be given the opportunity to use our texts from the class and follow interests of your own that will help to explain and expand the points that we are making. You will be making reference to film, newspapers, magazines, journals, articles, books, and – of course – the Internet. We will learn how to use such sources to advance our thinking and our ideas, cite them correctly, and use them in creative written argumentation, evaluation, and explanation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Syllabus review 2. Read why a global language? (selection) and lecture on the above-mentioned topic 3. Continued reading why a global language? 4. Group Discussion and In- class writing 5. Read why English? The historical context (selection) and lecture on the historical context. 6. Continued reading why English? The historical context 7. Discussion on the previous sections 8. Group presentation final paper topic discuss 9. Read why English? The cultural foundation (selection) and lecture on the above-mentioned topic 10. Continued reading why English? The cultural foundation 11. Group Discussion and In- class writing 12. Read why English? The cultural legacy (selection) and lecture on the above-mentioned topic 13. Discussion on comparative study and course review. 14. Final paper due and group presentation <p><i>The instructor has the right to amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
David, Crystal. <i>English as a Global Language</i> . Cambridge University Press Articles will be provided in the classroom, if necessary.		Group presentation20 In-class writing20 Long paper40 Written commentaries, home work, participation20	

養 外言	英語演習 I (An Introduction to the Media) 英語演習 (An Introduction to the Media)	担当者	M. K. ミラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is an introduction to the media of Japan and English-speaking countries. Each class will be an opportunity to discuss and share ideas and opinions. English speaking and reading skills will be practiced mostly, however listening and writing skills will also be important. The final test will be an analysis of some form of media (i.e. newspaper, TV report, etc). The report will be a written research paper that will be presented to fellow classmates in small groups on the last day.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class introduction 2. Language skill review 3. Introduction to media 4. Language in the media 5. Newspapers and magazines 6. Critical reading 7. Current events 1 8. Television and radio 9. Advertising 10. Minorities and the media 11. Current events 2 12. Review 13. Achievement test 14. Presentation of report 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Attendance and participation: 40% Achievement test: 30% Report: 30%	

養 外言	英語演習 II (Further Exploration into the Media) 英語演習 (Further Exploration into the Media)	担当者	M. K. ミラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is a further exploration into the media. Each class will be an opportunity to discuss and share ideas and opinions. English speaking and reading skills will be practiced mostly, however listening and writing skills will also be important. The final test will be an analysis of some form of media (i.e. newspaper, TV report, etc). The report will be a written research paper that will be presented to fellow classmates in small groups on the last day.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class Introduction and Skill Review 2. Media bias 3. Current events 1 4. History of media in Japan 5. The BBC, NHK and public broadcasting 6. Current events 2 7. Investigation and sensationalism 8. Media personalities 9. Media overseas 10. The Internet 11. Current events 3 12. Review 13. Achievement test 14. Presentation of report 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Attendance and participation: 40% Achievement test: 30% Report: 30%	

養 外言	英語演習 I (Advertising Strategies and Techniques) 英語演習 (Advertising Strategies and Techniques)	担当者	M. デルベッキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>We are exposed to a mass of advertising on a daily basis. However, not all of us are aware of the strategies companies use to market their goods or services, or, of the techniques used to influence our behavior. This course will investigate the context of advertising, the organizations or cultures that produce them, how they are produced, how advertisements represent individuals or groups and how we, the audience responds to them.</p> <p>Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>English level: Intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Medium/Technology 3. Purposes Explored 4. Consumer Markets 5. Measuring Emotions 6. Advertising and the Media 7. Persuasion Techniques 8. Appeals 9. Visual features/techniques 10. Style and Language 11. Relationships and Roles 12. Stereotypes 13. Controlling Advertisements 14. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.</p>		<p>The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.</p>	

養 外言	英語演習 II (Media Studies) 英語演習 (Media Studies)	担当者	M. デルベッキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You are likely to have a good knowledge of the media already. This course aims to help you use and develop your understanding of how and why media texts are produced, how people respond to them and what messages and values they contain.</p> <p>Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>Language level: Intermediate to advanced</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Television: reality shows 3. Television: reality shows 4. Television: situation comedy 5. Television: chat shows 6. Television: talk shows 7. Popular music 8. Newspapers (1) 9. Newspapers (2) 10. Advertising 11. Magazines 12. Magazines 13. Movies 14. Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.</p>		<p>The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.</p>	

養 外言	英語演習Ⅰ（ニュース英語） 英語演習（ニュース英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 近年、メディアを通して世界各国のニュースをリアルタイムで見たり聞いたりできるようになった。この演習では音声情報と画像情報を伝えることのできるDVDを媒体として使う。メリハリのある生き生きとしたTVニュース英語を教材に、ニュース英語のスピードと表現に慣れ、時事問題に対する意識を高め、自分の意見をまとめる練習を行うことにより英語運用能力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 ニュースの内容を理解すると共にシャドーイングやクイックレスポンス、サイトトランスレーション等、通訳訓練に使われる手法を使い、発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーと反応力を身に着ける。 また、現代アメリカの抱える問題を時代的、文化的背景を基に考えていき、各テーマの終わりにはそれぞれの意見をまとめ、グループごとのディスカッションも行う。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. How Much to Drink? 3. Amazing New Hybrid Cars 4. Critical Vote 5. Homeschool Battle 6. Jumping for Joy 7. Top of the World 8. Presentation 9. The King's Academy 10. The Right to Own Guns 11. Golden Oldies 12. Eat Less Beef and Get an Energy Audit 13. Long in the Tooth 14. Final Exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Shigeru Yamane Kathleen Yamane, <i>ABC World News 11</i> , Kinseido 2009		課題、小テスト、授業への参加度（40%） 口頭発表（20%） 期末テスト（40%）	

養 外言	英語演習Ⅱ（映画英語） 英語演習（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 98年度のアカデミー賞やゴールデングローブ賞を受賞した <i>Good Will Hunting</i> を教材として現代アメリカの社会背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 台詞の内容と主人公の心の変化、登場人物の性格を理解した後に、オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に着けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. 発表 8. Chapter 6 9. Chapter 7 10. Chapter 8 11. Chapter 9 12. Chapter 10 13. Chapter 11 14. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alan Rosen 楠元実子, <i>Good Will Hunting</i> 松柏社		課題、小テスト、授業への参加度（40%） 口頭発表（30%） 期末テスト（30%）	

養 外言	英語演習 I (Insights to language acquisition) 英語演習(Insights to language acquisition)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to improve students' overall English proficiency through learning and discussing issues related to bilingual education and multiculturalism.</p> <p>Class will be held in English and students are expected to actively engage in class activity. Students will also conduct research on specified topics and give presentations in class.</p> <p>Attendance is especially important and it is your responsibility to make-up for all missed work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Theories of second language acquisition 3. Language teaching to young learners 4. Multi-language environment 5. Research & Presentations 6. Review of the course 7. Comprehension exam 	
テキスト、参考文献		評価方法	
後日指示します		Assignments 20% Participation 20% Presentations 30% Examination 30%	

養 外言	英語演習 II (Taking sides on educational issues) 英語演習(Taking sides on educational issues)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on further developing students' overall English skills through debating educational issues.</p> <p>Students will receive instruction on basic presentation skills such as time management and eye contact, and gradually learn to build/defend their arguments effectively in English.</p> <p>They will also expand their knowledge on educational issues such as immersion programs and exchange programs, then conduct research in groups and present the arguments in a debate format.</p> <p>The lessons will be held only in English and students are expected to actively engage in class activities.</p> <p>Attendance is especially important.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Explanation of debate terms and improving skills 3. Research on educational issues 4. Debates 5. Review of the course 6. Final examination 	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Discover Debate" by Lubetsky, Le Beau, and Harrington		Assignments 30% Participation and Debates 50% Exam 20%	

養 外言	英語演習Ⅰ（児童英語教育） 英語演習（児童英語教育）	担当者	小金沢 裕美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習では、子供（幼児～小学生）に対し英語を教えてみたい学生を対象に、実践的なティーチング技術指導を行う。学生は模擬授業を通じて、効果的な授業の組み立て方、補助教材の作り方等を身につけていく。また小学校で行われている英語活動の現状と展望を理解するために必要なリーディングも行ってもらう。学期の終わりには小学校を訪問し、実際に授業を行ってもらう予定。授業は実技中心となるため、模擬授業、および小学校授業実習の準備・練習は授業外で行ってもらうことが多くなる。特に実習日が近づくと授業時間の他に、週に3～5時間程度が準備に費やされることとなる。またグループでの作業が多くなるので協調性が求められる。「指導者」となることを自覚し、積極的に授業づくりを楽しむことができる学生を望む。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◇ Only English 指導法 ◇ 会話・自己表現指導法 ◇ 歌とチャンツ・絵本指導法 ◇ フォニックス ◇ 小学校英語の理論と実践報告 ◇ カリキュラム・授業案の立て方 ◇ 具体的な活動例 ◇ 実習 <p>詳細は第一回目の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に指示する。		授業・実習への参加度40％ 小テスト10％ 課題・ポートフォリオ50％	

養 外言	英語演習Ⅱ（児童英語教育） 英語演習（児童英語教育）	担当者	小金沢 裕美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習では、子供（幼児～小学生）に対し英語を教えてみたい学生を対象に、実践的なティーチング技術指導を行う。学生は模擬授業を通じて、効果的な授業の組み立て方、補助教材の作り方等を身につけていく。また小学校で行われている英語活動の現状と展望を理解するために必要なリーディングも行ってもらう。学期の終わりには小学校を訪問し、実際に授業を行ってもらう予定。授業は実技中心となるため、模擬授業、および小学校授業実習の準備・練習は授業外で行ってもらうことが多くなる。特に実習日が近づくと授業時間の他に、週に3～5時間程度が準備に費やされることとなる。またグループでの作業が多くなるので協調性が求められる。</p> <p>※前期とは別の課題がでる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◇ Only English 指導法 ◇ 会話・自己表現指導法 ◇ 歌とチャンツ・絵本指導法 ◇ フォニックス ◇ 小学校英語の理論と実践報告 ◇ カリキュラム・授業案の立て方 ◇ 具体的な活動例 ◇ 実習 <p>前期・後期合わせてとる学生には別課題を用意する。 詳細は第一回目の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に指示する。		授業・実習への参加度40％ 小テスト10％ 課題・ポートフォリオ50％	

養 外言	英語演習 I (News & Stories with Exercises) 英語演習(News & Stories with Exercises)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(News & Stories with Exercises)では新聞、ニュース、小説や映画、はたまた歌詞などを用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ろうというのがねらいである。最初はこちらである程度、話題・素材提供をするが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もある。いずれにせよ、積極的に参加しようという姿勢が必要であり、単位取得のために仕方なく、というのでは歓迎されない。(欠席が特段の理由なく3回を越えたならばその時点で単位取得にはならず。) 現段階で予定している内容は、Making summary after reading newspaper, Comparing a novel with the film (ex. <i>The Great Gatsby</i>) など。なお、あくまで「英語演習」なので、授業内は基本的に英語での参加・進行となる。</p> <p>The aim of this course is to improve your English skills through reading newspaper, watching news programs or reading novels and comparing them with their films. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 News & Stories with Exercises 1. 3 News & Stories with Exercises 2. 4 News & Stories with Exercises 3. 5 News & Stories with Exercises 4. 6 News & Stories with Exercises 5. 7 News & Stories with Exercises 6. 8 News & Stories with Exercises 7. 9 News & Stories with Exercises 8. 10 News & Stories with Exercises 9. 11 News & Stories with Exercises 10. 12 News & Stories with Exercises 11. 13 News & Stories with Exercises 12. 14 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson		Attendance 30% Class work, Homework 40% Final Test, Paper or Presentation 30%	

養 外言	英語演習 II (News & Stories with Exercises) 英語演習(News & Stories with Exercises)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(News & Stories with Exercises)では新聞、ニュース、小説や映画、はたまた歌詞などを用いながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力を駆使し、さらなる総合的な英語力向上を図ろうというのがねらいである。最初はこちらである程度、話題・素材提供をするが、集まった学生諸君の興味・関心によってはいい意味で大いに逸脱する可能性もある。いずれにせよ、積極的に参加しようという姿勢が必要であり、単位取得のために仕方なく、というのでは歓迎されない。(欠席が特段の理由なく3回を越えたならばその時点で単位取得にはならず。) 現段階で予定している内容は、Making summary after reading newspaper, 60's America through films and songs, John Lennon and <i>The Catcher in the Rye</i> など。なお、方針は春学期と同じであるが、扱う内容は異なる。また春学期同様、あくまで「英語演習」なので、授業内は基本的に英語での参加・進行となる。</p> <p>The aim of this course is to improve your English skills through reading newspaper, watching news programs or reading novels and comparing them with their films. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes. (In this term the policy for the class is the same as Spring semester, but the contents are different.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 News & Stories with Exercises 1. 3 News & Stories with Exercises 2. 4 News & Stories with Exercises 3. 5 News & Stories with Exercises 4. 6 News & Stories with Exercises 5. 7 News & Stories with Exercises 6. 8 News & Stories with Exercises 7. 9 News & Stories with Exercises 8. 10 News & Stories with Exercises 9. 11 News & Stories with Exercises 10. 12 News & Stories with Exercises 11. 13 News & Stories with Exercises 12. 14 Final Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first lesson		Attendance 30% Class work, Homework 40% Final Test, Paper or Presentation 30%	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Presentación del curso, evaluación de nivel. 2. España: información general sobre el arte. 3. España: grandes protagonistas de la pintura. 4. Presentación oral sobre pintores españoles. 5. 6. Antonio Gaudí y sus obras más emblemáticas. 7. Cine español. Análisis de una película. 8. Cine hispano. Grandes protagonistas. 9. Discusión sobre películas. 10. Ecuador: información general, Quito. 11. Islas Galápagos: parte 1 12. Islas Galápagos: parte 2 13. Medio Ambiente: calentamiento global. 14. Presentación y discusión sobre posibles soluciones. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Gabriel García Márquez. Referencia biográfica. 2. 3. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras. 4. Fernando Botero. Sus obras. 5. Argentina: información general. 6. Música argentina. 7. Literatura argentina. 8. Presentación oral. 9. Cuba: información general. 10. Che Guevara y Cuba. 11.12. Festivales de Hispanoamérica. 13. Los jóvenes y las tradiciones culturales. 14. Presentación oral 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>すでに文法を修了した学生を対象に、スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。</p> <p>受講学生は入念な予習をする必要があることを覚悟すること。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。欠席が続く学生は学期末試験への受験資格を失なうので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・受講上の注意 2. La historia del cine 3. La historia del cine (続き) 4. La historia del cine (応用。ディスカッションを含む) 5. Ver una película sin subtítulo 6. Ver una película sin subtítulo 7. 小テスト 8. Leer la entrevista 9. Leer la entrevista (応用。ディスカッションを含む) 10. Ver otra película sin subtítulo 11. Ver otra película sin subtítulo 12. Discutir sobre el tema 13. Presentación 14. 試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。</p>		<p>授業への参加態度、小テスト、学期末試験を総合的に評価する。試験には、筆記、ディスカッション、聞き取り、などが総合的に含まれる。</p>	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、および、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。</p> <p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。</p> <p>受講学生は入念な予習をする必要がある。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。グループ討論やディスカッションも評価の対象になる。この期間中に欠席をした場合、学期末試験の受験資格を失なうことがあるので、注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・受講上の注意 2. La religión azteca (講読) 3. La religión azteca (ディスカッション) 4. La religión azteca (応用練習) 5. 復習・小テスト 6. Ver noticias en la televisión (聞き取り) 7. Ver noticias en la televisión (応用練習) 8. Ver noticias en la televisión (応用練習) 9. 復習・小テスト 10. En el viaje (イントロダクション) 11. En el viaje (グループ討論) 12. En el viaje (グループ発表) 13. En el viaje (個人発表) 14. 試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。</p>		<p>授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。</p>	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	C.ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。</p> <p>ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。</p> <p>積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。</p> <p>毎回の授業は必ず予習をし西和和辞典を携帯すること。</p>		<p>El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance.</p> <p>1~2. Volver a empezar (concernos; hablar sobre nosotros; aficiones ;gustos ;costumbres; verbos de cambios...)</p> <p>3~4. ¿Se te dan bien las lenguas? (reflexión sobre la lengua; hablar de nuestras habilidades y dificultades...)</p> <p>5~6. El turista accidental (hablar sobre viajes; contar anécdotas...)</p> <p>7~8. ¡Basta ya! (hablar sobre problemas; expresar deseos, reclamaciones, necesidad, valorar situaciones..)</p> <p>9~10. Misterios y enigmas (hacer hipótesis y conjeturas; relatar sucesos; expresar diferentes estados de seguridad...)</p> <p>11~12. Tenemos que hablar (expresar intereses y sentimientos; hablar de las relaciones entre personas..)</p> <p>13~14. América (¿Qué sabes sobre América?; concurso...)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。</p> <p>西和和辞典</p>		<p>50%を授業への出席、および積極的参加態度、課題提出。残りの50%を2回の試験。</p>	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	C.ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。</p> <p>ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。</p> <p>積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。</p> <p>毎回の授業は必ず予習をし西和和辞典を携帯すること。</p>		<p>El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance.</p> <p>1~3. Buenas noticias (referirnos a una noticia y comentarla; redactar una noticia; voz pasiva...)</p> <p>4~5. Yo nunca lo haría (hablar de situaciones imaginarias; expresar deseos y dar consejos...)</p> <p>6~7. ¿Y qué te dijo? (conflictos entre personas; transmitir ordenes, peticiones y consejos...)</p> <p>8~10. Maneras de vivir (diseñar el paraíso donde vivir; hacer propuestas; matizar; expresar condiciones..)</p> <p>11~12. Así pasó (escribir la crónica de un suceso; diferentes medios de comunicación....)</p> <p>13~14. De diseño (describir objetos, sus características; opinar sobre ellos.....)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。</p> <p>西和和辞典</p>		<p>50%を授業への出席、および積極的参加態度、課題提出。残りの50%を2回の試験。</p>	

養 外言	中国語演習 I 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>台湾の蔡智恒のネット小説（後に出版） 《爱尔兰咖啡》（アイリッシュコーヒー）を読む。</p> <p>受講生各自が中国語IVまでで身につけた語彙力・文法知識や中国理解を動員して読んでいき、もって読解力の養成を目指す。</p> <p>常套表現・方言的色彩・文化的な背景などの面にも目配りし、言語と文化をともに読み解く姿勢で臨む。</p> <p>工具書なども適宜紹介したい。</p>		<p>テキストとする当該小説の前半部分を14パートに編み直したものを読み進む。</p> <p>1 (1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8 (8) 9 (9) 10 (10) 11 (11) 12 (12) 13 (13) 14 (14)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。			

養 外言	中国語演習 II 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《新加坡真实的鬼故事》（<i>TRUE Singapore GHOST STORIES</i>）を読む。</p> <p>受講生各自が中国語IVまでで身につけた語彙力・文法知識や中国理解を動員して読んでいき、もって読解力の養成を目指す。</p> <p>常套表現・方言的色彩・文化的な背景などの面にも目配りし、言語と文化をともに読み解く姿勢で臨む。</p> <p>工具書なども適宜紹介したい。</p>		<p>当該小説に収める話を選んで読み進む。</p> <p>1 ほら、足がないだろ！（1） 2 ほら、足がないだろ！（2） 3 招かれざる訪問者 4 お姉ちゃんを中にいれちゃだめだ 5 地下鉄の話（1） 6 地下鉄の話（2） 7 疲れたドライバー（1） 8 疲れたドライバー（2） 9 ある古い学校（1） 10 ある古い学校（2） 11 学校で首つりした女生徒 12 わたしの赤ちゃんは大丈夫？ 13 クアラルンプールの世にも珍しい話（1） 14 クアラルンプールの世にも珍しい話（2）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		出席，発表，試験による。	

養 外言	中国語演習 I 中国語演習	担当者	横川 澄枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 様々なジャンル・テーマの中国語の文章を読むことにより読解力を伸ばし、あわせて現代中国に関する知識を得ることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 プリント教材を使用する。 文章の内容を正確に読み取る。そのためには適宜既習の文法事項を確認していく。(したがって単語の意味調べ等の予習は不可欠である。辞書は必携である) 前半は教授者主導で進めるが、状況を見て学習者が分担して発表する形式も取り入れる予定である。</p>		<p>第1回 : 授業の進め方等の説明 第2・3回 : 中国の小説 第4・5回 : 中国の地理 第6・7回 : 中国の憲法 第8回 : 中間試験 第9・10回 : 中国の少数民族 第11・12回 : 中国の民族音楽 第13・14回 : 中国の教育制度</p> <p>*おおむね以上のような予定を組んでいるが、状況によっては変更もありうる</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的にはプリント教材を使用する 参考文献はテーマによりそのつど指示する		試験の成績および平常点(出席、授業への取り組み方・参加度、課題の達成度など)を総合して評価する	

養 外言	中国語演習 II 中国語演習	担当者	横川 澄枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 様々なジャンル・テーマの中国語の文章を読むことにより読解力を伸ばし、あわせて現代中国に関する知識を得ることを目的とする。</p> <p>【講義概要】 プリント教材を使用する。 文章の内容を正確に読み取る。そのためには適宜既習の文法事項を確認していく。(したがって単語の意味調べ等の予習が不可欠である。辞書は必携である) 前半は教授者主導で進めるが、状況を見て学習者が分担して発表する形式も取り入れる予定である。</p>		<p>第1回 : 授業の進め方等の説明 第2・3回 : 中国の書簡文 第4・5回 : 中国教育における教授法 第6・7回 : 中国の環境問題 第8回 : 中間試験 第9・10回 : “西部大開発” とその影響 第11・12回 : 中国のボランティア活動 第13・14回 : 中国の家庭観</p> <p>*おおむね以上のような予定を組んでいるが、状況によっては変更もありうる</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的にはプリント教材を使用する 参考文献はテーマによりそのつど指示する		試験の成績および平常点(出席、授業への取り組み方・参加度、課題の達成度など)を総合して評価する	

養 外言	中国語演習 I 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>サブタイトル: 中国語演習 I (中国語ビジネス文書)</p> <p>米国のサブプライムローンに端を発した世界同時不況の波が各国を覆う中、日本と中国との経済協力関係はこれまで以上にその重要性を増しています。こうした国際環境を背景に、今、日中双方間のコミュニケーションを担い、中国語を自由に操れる人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務を中心に、「ビジネスレター」「契約書」「仕様書」等中国語のビジネス文書について、様々な中国語の表現方法を習得すると共に、併せて、ビジネス実務の現場にいる講師が実際に使用している実務資料を使い、リアルタイムの貿易業務に触れることにより、「ビジネス全般」に関する専門用語や「貿易業務」の基礎知識を理解することを目指します。実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め、全員に発言の機会を提供します。さらに理解を深める為、秋学期木曜 4 限「中国語演習 II (ビジネス中国語会話)」の受講をお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日中貿易概説 2 中国語のビジネスレターの概要 3 業務取引の申し込みと CIF 4 業務取引の申し込みと CFR 5 見積書の送付依頼 6 見積書の送付依頼と FOB 7 サンプル送付に対する回答 (一) 8 サンプル送付に対する回答 (二) 9 製品紹介のレター 10 オファーシートの送付と L/C 11 L/C と船積書類 12 契約書 (契約内容) 13 契約書 (支払方法) とインボイス 14 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

養 外言	中国語演習 II 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>サブタイトル: 中国語演習 II (ビジネス中国語会話)</p> <p>躍進する中国経済を背景に、日中間の経済協力において相互交流の積極的な働きかけが求められる中、中国の社会や現地の商習慣を理解し、中国語で直接コミュニケーションが取り得る人材が、あらゆる産業分野で求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、ビジネス業務をスムーズに遂行するため中国現地のビジネスマナーも併せて、聞いて話せる中国語能力の習得を目指します。同時に、様々なビジネス分野の専門用語を含め、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識の習得も目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 支払条件 2 支払条件を取り決める 3 船積み期日 4 船積み期日に関する話し合い 5 パッキング条件 6 パッキング条件を話し合う 7 インシュランス (保険) と A/R、W/A、F.P.A. 8 インシュランス (保険) の取り扱い 9 契約の成立 10 クレームを申し立てる 11 クレームの解決 12 商談の実例 (一) 13 商談の実例 (二) 14 実習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 『実習ビジネス中国語—商談編』 白水社		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

養	韓国語演習 I	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、高度な韓国語運用力を習得するためのものである。</p> <p>エッセイ、紀行文、詩、小説など、ある程度まとまった文章を読むことによって、豊かな表現力を身に付けていく。</p>		<p>1 エッセイ：인연</p> <p>2 紀行文：이 땅의 한 끝①</p> <p>3 紀行文：이 땅의 한 끝②</p> <p>4 評論：푸루다- 편견 없는 문화를 위하여</p> <p>5 学術文：한국인과 호랑이</p> <p>6 詩：한국의 시</p> <p>7 エッセイ：늙지 않는 사람은 없다</p> <p>8 エッセイ：꼴찌에게 보내는 갈채</p> <p>9 学術文：한국의 지리</p> <p>10 評論：정보화 사회</p> <p>11 小説：서편제①</p> <p>12 小説：서편제②</p> <p>13 小説：서편제③</p> <p>14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
연세대학교 한국어학당 편 『주제가 있는 한국어 읽기』		出席、中間テストおよび期末テスト。	

養	韓国語演習 II	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとはどういうものなのかについて、韓国のメディアを事例に考えていく。講義はすべて韓国語で行われるため、受講者には高度な韓国語運用能力が要求される。</p>		<p>1 강의 소개</p> <p>2 미디어 비평</p> <p>3 미디어 문화사</p> <p>4 미디어가 만드는 문화</p> <p>5 글로벌라이제이션과 미디어</p> <p>6 재현과 미디어</p> <p>7 수용자 연구와 미디어</p> <p>8 한류와 미디어, 그리고 아시아</p> <p>9 한국드라마와 젠더①</p> <p>10 한국드라마와 젠더②</p> <p>11 기억과 미디어①</p> <p>12 기억과 미디어②</p> <p>13 전통문화와 미디어①</p> <p>14 전통문화와 미디어②</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席および期末テスト。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン） スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	二宮、佐藤、浦部
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰは、前半から9回の授業分、主にスペインの言語・地理・文化に関する授業を二宮が行い、後の5回を佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。</p> <p>講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）」（「スペイン・ラテンアメリカ文化論 b」）と関連性・連続性が強いので、秋学期には下記授業を選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシアの言語文化 7. 1492 8. フラメンコ 9. 闘牛 10. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配 11. 18、19世紀のスペイン 12. ここまでのまとめ 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ） スペイン・ラテンアメリカ文化論b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。</p> <p>高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。佐藤と浦部で担当する。</p> <p>春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。</p>		<p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入：「ラテンアメリカ」とは：そのイメージを問う 2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況 3 ラテンアメリカ史入門 4 カリブ海地域の概要 歴史と社会 5 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会 6 現代のラテンアメリカの文化：文学、音楽、絵画 <p>浦部担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 環境と生活1：アンデスの自然環境と食料生産 8 環境と生活2：アマゾンの自然環境と資源利用 9 人と社会1：宗教・価値規範と人間関係 10 人と社会2：家族・大土地所有制と社会格差 11 政治と経済1：政治体制と人権・民主主義 12 政治と経済2：経済政策と貧困・社会公正 <p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 米国のラテンアメリカ系住民 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		期末テスト、出席・発言など	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 I (ラテンアメリカ近現代史) 地域文化論 i b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていく。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとしての。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修者が自ら考える場としたい。</p> <p>ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、秋学期に別の授業が用意されている。</p> <p>なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の所在 1 米国とラテンアメリカ 2 問題の所在 2 「ラテンアメリカ」概念が生まれた場所 パナマ 3 メキシコ米国関係史 1 テキサス共和国の独立 4 メキシコ米国関係史 2 米墨戦争から 20 世紀初頭 5 メキシコ米国関係史 3 メキシコ革命から現代 6 中米・カリブ地域と米国 1 : 米国の運河 : ニカラグアとパナマ +ニカラグア革命 7 中米・カリブ地域と米国 2 : 米西戦争と米国による中米・カリブ海支配 8 中米・カリブ地域と米国 3 : 米国からの自立の模索 +キューバ革命 9 権威主義体制から民主化へ(南米を中心に) 10 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティクスの展開 : 先住民 11 カリブ海地域におけるアイデンティティ・ポリティクスの展開 : クレオール 12 新しい「人種」カテゴリーの誕生 : 米国ラテンアメリカ系住民=ラティーノ 13 現代ラテンアメリカにおける反「新自由主義」運動と対抗文化 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献 : 増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中公新書) / 高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡(世界の歴史 18)』(中央公論社)		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究 I (ラテンアメリカの歴史と社会) 地域文化論 i a	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史(カリブ海地域史も含まれる)の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカの特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。</p> <p>また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配領域(公式、非公式)であったラテンアメリカの自立の道のりを概観する。</p> <p>この講義では、先コロンブス期から現代までを概観していく。なお、より詳しい 20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。一部、重なる部分がある。</p> <p>現代ラテンアメリカの動向を履修者に常に注意を向けさせるよう、導入などで音楽や絵画、文学を紹介したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の所在 2 1492 年 コロンブスの新世界「発見」 3 カリブ海の征服 4 先コロンブス期のアメリカ諸文明 5 アステカとインカの征服 6 スペイン植民地支配の特徴 7 ラテンアメリカの独立 8 国家形成の模索と「ラテンアメリカ」概念の成立 9 西欧列強のカリブ海地域支配 : 近代世界システムのゆりかご 10 イギリス非公式帝国と米国の覇権 11 20 世紀革命の時代 : メキシコ革命、キューバ革命、チリ革命、ニカラグア革命 12 アジアとラテンアメリカの関係史 13 21 世紀を迎えて 14 ラテンアメリカの世界史における位置 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献 : 増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中公新書) / 高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡(世界の歴史 18)』(中央公論社)		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会) 地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 a)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸の規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。</p> <p>本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に挙げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。</p> <p>(※できるだけ秋学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)</p>		<p>I. ラテンアメリカ 政治と社会の歩み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラテンアメリカ諸国の独立 2. 近代化・中間層の拡大とポピュリズム政権 3. 国家発展の追求と軍事政権 4. 民主化の波 <p>II. 各地域の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. アンデス地域(ペルー・ボリビアなど) 6. コノスール地域(アルゼンチン・ブラジルなど) 7. メキシコ・中米地域(メキシコ・グアテマラなど) 8. カリブ地域(英語・蘭語・仏語圏の小国) <p>III. 現代ラテンアメリカの諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 貧困問題 10. 先住民問題 11. 麻薬問題 12. 人権問題 <p>IV. ラテンアメリカにおける政治的課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 民主主義の推進 14. 社会的公正の追求 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論) 地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究 b)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても200年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。</p> <p>本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える21世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。</p> <p>(※できるだけ春学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと)</p>		<p>I. ラテンアメリカの国際関係史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロンブスとラテンアメリカ 2. 19世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ 4. 地域協調時代のラテンアメリカ <p>II. 米州域内の国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. 経済再建とワシントン・コンセンサス 8. 米州機構と民主主義支援 <p>III. 現代ラテンアメリカの国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 自由貿易の拡大とインフラ統合 10. 経済のグローバル化と貧困の悪化 11. 反グローバリズムと社会運動 12. 反米・左傾化するラテンアメリカ <p>IV. 日本とラテンアメリカの関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 日本人移民と日系社会 14. 日本の対ラテンアメリカ協力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ (ラテンアメリカの経済と社会) 地域経済論 ia	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカ政治経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ラテンアメリカ地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、政治経済構造の変容について理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な政策課題を明らかにする。そしてこれらの政策課題に対する各国政府や国際機関の取り組みについて紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について、中心一周辺理論、構造学派、従属論、およびコストリカ・モデル (非武装・中立・教育・福祉・環境重視) を中心に解説し、持続可能な開発のあり方について考える。</p> <p>5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代の下での日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について受講生全員で考え、討論する。主として講義形式で進め、テーマに応じてディスカッションをとり入れる。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の歴史的変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期 (—15世紀末) コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期 (15世紀末—19世紀初め)</p> <p>5. 第4節 独立期 (19世紀初め—19世紀半ば)</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期 (19世紀半ば—1929年恐慌)</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期 (1929年恐慌—現在)</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>10. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>12. 第4章 日本とラテンアメリカの関係</p> <p>13. 第4章 日本とラテンアメリカの関係</p> <p>14. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考書) 今井圭子編著 『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004年、西島章次・細野昭雄編著『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004年。		授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ (ラテンアメリカ経済発展論) 地域経済論 ib	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。</p> <p>2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。</p> <p>3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。</p> <p>授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。</p>		<p>1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学</p> <p>第2節 取引と貿易</p> <p>2. 第3節 需要・供給と価格</p> <p>3. 第4節 不完全市場・公共部門</p> <p>4. 第5節 マクロ経済学と経済政策、経済成長</p> <p>5. 第6節 雇用・失業問題・雇用政策</p> <p>6. 第7節 インフレ・デフレ、財政・金融政策</p> <p>7. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題</p> <p>第1節 経済概況・経済成長と所得分配</p> <p>8. 第2節 インフレ、財政・金融システムと通貨危機</p> <p>9. 第3節 雇用・格差・貧困問題</p> <p>10. 第4節 国際収支・対外債務・為替政策</p> <p>11. 第5節 第一次産業と土地所有制度</p> <p>12. 第6節 産業構造・企業構造・民営化</p> <p>第7節 対ラテンアメリカ投資と技術移転</p> <p>13. 第8節 経済のグローバル化とラテンアメリカ経済</p> <p>(1) WTO・地域統合・自由貿易協定</p> <p>(2) 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>14. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考書) 石黒 馨編『ラテンアメリカ経済学—ネオ・リベラリズムを超えて』世界思想社、2003年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料—国勢調査・経済社会統計—』上智大学、イベロアメリカ研究所、2008年。		授業中に課したリアクション・ペーパーとさいごの授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ (スペイン語学) 地域文化論 ii a	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、設定をする練習の場とも考える。</p> <p>今年度のテーマは「語順」とする。語順といっても、形容詞と名詞、動詞と主語・目的語、副詞の位置、など様々な語順が考えられる。</p> <p>まず、様々なテーマの中から対象を限定し、そのテーマに関する疑問点を洗い出す。</p> <p>次に、そのテーマに関する基本的な文献の講読を全員で行う。</p> <p>その後、個人あるいはグループで、先の疑問点に関するひとつの答えをプレゼンテーションする。</p>		<p>① スペイン語の語順について (説明講義)</p> <p>② スペイン語の語順について (説明講義)</p> <p>③ 代名詞に対する疑問点の洗い出し</p> <p>④ 代名詞に対する疑問点の洗い出し</p> <p>⑤ 文献講読</p> <p>⑥ 文献講読</p> <p>⑦ 文献講読</p> <p>⑧ 文献講読</p> <p>⑨ 文献講読</p> <p>⑩ プレゼンテーションの準備</p> <p>⑪ プレゼンテーションの準備</p> <p>⑫ プレゼンテーション</p> <p>⑬ プレゼンテーション</p> <p>⑭ プレゼンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、プレゼンテーションによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ (スペイン語圏の言語文化) 地域文化論 ii b	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。</p>		<p>① 「スペイン」と「スペイン語」1</p> <p>② 「スペイン」と「スペイン語」2 “Glosas Emilianenses”</p> <p>③ イスラム・スペイン “Jarchas”</p> <p>④ Cantar de Mio Cid</p> <p>⑤ 1492 “Gramática de la Lengua Castellana”</p> <p>⑥ Don Quijote</p> <p>⑦ El Siglo de Oro</p> <p>⑧ 18c, 19c のスペイン 1</p> <p>⑨ 18c, 19c のスペイン 2</p> <p>⑩ フラメンコ</p> <p>⑪ 闘牛</p> <p>⑫ スペイン内戦とピカソ</p> <p>⑬ 近現代のスペイン 1</p> <p>⑭ 近現代のスペイン 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ (ブラジル研究) 地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	担当者	矢澤 達宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？ サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人——これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとの程度まで合致しているであろうか？ また、一般的に流通しているキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？</p> <p>ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。</p> <p>この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。中身の濃い授業にするため、問題関心・勉強意欲の高い学生諸君のみが履修することを強く望む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨン：世界のなかのブラジル 2. ブラジル概観① スライドショーで観るブラジル 3. ブラジル概観② 地域的多様性を中心に 4. 「ブラジル性」をめぐる議論 5. ブラジル史の概要① 植民地支配 6. ブラジル史の概要② 国家建設の軌跡 7. 多人種社会① 「人種の楽園」という神話 8. 多人種社会② 多文化主義へ：黒人をめぐる状況 9. 多人種社会③ アフロ・ブラジル文化 10. 多人種社会④ 先住民：保護と開発のはざままで 11. 多人種社会⑤ 日本人移民：そのアイデンティティ 12. 多人種社会⑥ こんにちの日系ブラジル人 13. 国民文化① サッカー：国民的スポーツへの道 14. 国民文化② サンバ：貧民の文化から国民文化へ <p>※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。</p>		<p>基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数が比較的少ない場合は、出席や授業内ペーパー、レポート等による評価をおこなう可能性もある。</p>	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	担当	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。</p> <p>スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。</p> <p>情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD, DVD, インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。また、各メディアの著作権についても触れる。</p> <p>集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 情報を集めるテーマの選定 ② 文献の調査法・情報収集法 1 ③ 文献の調査法・情報収集法 2 ④ 文献の調査法・情報収集法 3 ⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1 ⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2 ⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑧ インターネット上の調査法・情報収集法 1 ⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 2 ⑩ インターネット上の調査法・情報収集法 3 ⑪ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1 ⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2 ⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3 ⑭ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 a)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita. Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. Presentación del curso. 2. Introducción. 3. Los albores del arte español: <i>la cueva de Altamira</i> . 4. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas. 5. La romanización y sus consecuencias. 6. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 7. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 8. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife (1). 9. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife (2). 10. La Reconquista (ss.XI-XIII). Las ciudades medievales y el nacimiento de la burguesía. 11. El arte en la Edad Media: el románico (s. XI). 12. El arte en la Media: el gótico (s. XII). 13. El Camino de Santiago 14. Película sobre cualquiera de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. La asistencia a clase es importantísima.	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 b)	担当者	P.ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento 2. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 3. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 4. La arquitectura renacentista: El Monasterio del Escorial. 5. La literatura renacentista: la novela picaresca y la mística. 6. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 7. Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 8. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 9. La literatura barroca: Calderón de la Barca (1600-1681), Lope de Vega (1562-1635) y Góngora (1561-1627). 10. El Romanticismo (XIX) 11. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración. 12. La arquitectura de Antonio Gaudí (1852-1926). 13. Pablo Picasso (1881-1973). 14. Película sobre cualquiera de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		Una pequeña prueba sobre los conocimientos adquiridos. La asistencia a clase es importantísima.	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 地域社会文化論特殊講義 (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、スペインと旧植民地ラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に展開されてきたことから、その身体技法についても随所で言及する。クレオール概念をはじめ、文化混淆が鍵となるため、前半では、キューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素を再検討する。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで、各自の関心に応じたレポートを準備してもらおう。後半では、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も設けたいが、単なる音楽紹介とならないよう、議論の基盤を文化人類学に据える。進捗には融通を与えるが、昨年度に要望が多かった合衆国の黒人文化やブラジルの音楽に関する考察を増すつもりである。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: VTRによる見取り図の紹介 2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5. 「ブラックミュージック」と「ラテン音楽」の相関性 6. 「folklore」と「ヌエバ・カンシオン」の相関性 7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望 8. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域 9. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ 10. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ 11. ポルトガル語圏の音楽: ブラジル 12. 英語圏、フランス語圏ほかの音楽 13. 合衆国移民(ラティーノ、チカーノ、クバーノ)の音楽 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布するほか、相談のうえ、その都度指示する。		評価方法: 平常授業における発表などの実績(30%)と期末レポート(70%)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 地域社会文化論特殊講義 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目標は、第一に、ラテンアメリカの社会と文化の特徴について、文化と国家との関係を中心に学ぶことにある。そして、ラテンアメリカとは何かについて学ぶとともに、ラテンアメリカと呼ばれる地域の差異についても学ぶことを目標とする。</p> <p>この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、文化と国家との関係を中心に学んでいく。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画のトピックスについて講義する。</p> <p>《受講生への要望》 スペイン語の知識は必ずしも必要ではない。むしろ、ラテンアメリカにおけるそれぞれの国の位置と基本的な知識が必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカとは何か 3. ラテンアメリカの特徴とラテンアメリカ諸国について 4. ラテンアメリカの社会と文化 5. ラテンアメリカ社会における男と女 6. ラテンアメリカにおける国家の概念 7. ラテンアメリカの社会構造 8. ラテンアメリカ社会における人種の構造 9. 先住民文化と国民文化 10. 国家と国民 11. 国民国家の形成 12. 国家の統合とは何か 13. ラテンアメリカの今後 14. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

養	中国研究入門	担当者	森 保裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代中国を知るために必要な基礎知識を幅広く身に付けてほしい。将来、中国、中国人とかかわる仕事に携わったり、さらに深く中国を研究するために役立つように。</p> <p>私は通信社記者として約20年間、国際ニュース、特に中国・台湾を中心に取材。今は編集・論説委員として、中国や台湾に関するフィーチャー記事や論説、コラムなどを執筆している。</p> <p>中国・台湾関係のニュースを同時進行の形で取り上げながら、政治、経済、国際関係、社会問題、文化などの各分野について概観していきたい。</p> <p>今年はチベット動乱50年、天安門事件20年そして建国60年の節目の年。昨年は北京五輪を成功させ、国際社会で影響力をさらに強めていく中国がこれから、どのような道を歩むのか。探していきたい。</p> <p>中国語の記事や資料も用いたいため、中国語を学習していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 中国を知るために 2、 中国史概観 3、 政治体制（共産党一党独裁） 4、 経済体制（市場経済化） 5、 国際関係 6、 日中関係 7、 中台関係 8、 社会問題（貧富の格差、官僚腐敗） 9、 民主化問題 10、 少数民族問題（チベット、ウイグル） 11、 環境問題（温暖化問題を含む） 12、 言語や文化（方言、映画、流行歌） 13、 台湾概観 14、 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共同通信取材班『中国に生きる－興竜の実像』（共同通信社）		出席、レポート、試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学） 地域文化論Ⅳa	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座のDVDを利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範（社会的人格の形成）を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のものであります。</p> <p>とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。</p> <p>テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組では論語を非常に分かりやすく（中学生にも分かるように）解説しています。</p>		<p>1回 ガイダンス、『論語』および『論語心得』について</p> <p>2～4回 「交友之道」；よい友達つきあいとは何でしょうか？孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達つきあいの重要性について学びます。</p> <p>5～7回 「理想之道」：人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子のことばから探っていきます。</p> <p>8～10回 「処世之道」：複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。</p> <p>11～13回 「人生之道」：孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？</p> <p>最終回：学期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>http://nikka.3.pro.tok2.com/lunyuxinde/index.html</p> <p>『論語新釈』宇野哲人 講談社学術文庫 1350 円</p>		出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を50%で評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術） 地域文化論Ⅳb	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グループ分けをし、それぞれのテーマに沿って調査と発表をしていただきます。</p> <p>第三回目から1は学生の発表と教員の解説、2はDVD鑑賞および小テストによる復習とします。</p> <p>教材で使用するDVDは以下のとおりです。</p> <p>A 八千里路雲和月 B 中華五千年的文化紀錄 C 中国自然文化遺産 D 中国大紀行</p> <p>以上のDVDで実際に中国美術、戯曲などを鑑賞し、さらに中国の芸術を育んだ風土の歴史と地理について学びます。</p> <p>毎回、グループごとのプレゼンテーションあるいは映像資料鑑賞を行うので、遅刻・欠席は厳禁です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 石窟の仏教美術 3. 古墳と遺跡 1 4. 古墳と遺跡 2 5. 陶磁器 1 6. 陶磁器 2 7. 絵画芸術 1 8. 絵画芸術 2 9. 庭園芸術 1 10. 庭園芸術 2 11. 書道芸術 1 12. 書道芸術 2 13. 舞台芸術 1 14. 舞台芸術 1 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>以上のDVDの他、事前に提出されたプレゼン資料を用いる。特にテキストを購入する必要はない。</p>		出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 清朝体制の光と影 3 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 4 太平天国 5 体制の反撃 6 洋務運動 7 中体西用の諸相 8 開港場の社会と経済 9 農村社会の変容 10 周辺地域宗主権の喪失 11 日清戦争 12 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 13 植民地期の台湾 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		期末定期試験による。	

養	中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。</p> <p>またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 変法改革 3 戊戌の政変 4 キリスト教布教と仇教運動 5 義和団の蜂起 6 纏足問題と天足運動 7 革命派の台頭 8 地方自治の試み 9 王朝体制の崩壊と中華民国の成立 10 第二革命と袁世凱政権の成立 11 モンゴル・チベットの独立運動 12 第三革命と軍閥混戦 13 五四運動 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		期末定期試験による。	

養 外言	中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a） 現代中国論 a	担当者	崔 世廣
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国は、改革開放以来、驚異的な発展を遂げ、世界の大国としての存在感を強めてきている。各分野における日本との交流も、ますます深まる一方である。今後、中国はどこへ向かい、日本は中国とどうつき合うべきであろうか。国際化と区域化が同時に進行しつつあるなか、日本にとって、永遠の隣人である中国に対して更なる理解が必要とされるであろう。</p> <p>この講義では、現代の中国を多角的に捉え、中国の実態と本質を理解し、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考えたい。具体的には、春学期はアヘン戦争以来の歴史を踏まえながら、歴史的脈絡のなかで現代中国と日中関係を検証する。秋学期は、政治や経済や社会、文化などの側面から、中国の発展ぶりや抱える課題について具体的に検討していく。</p>		1 オリエンテーション・導入 2 アヘン戦争と中国の近代 3 中国近代化の歩み 4 中国近代化の遺産 5 新中国の成立 6 社会主義運動と建設 7 改革開放 8 市場経済化への道 9 「一国二制度」 10 日中関係（上） 11 日中関係（下） 12 中国から見た世界 13 これからへの展望 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】沈才彬『「今の中国」がわかる本』、三笠書房；上村幸治『中国のいまがわかる本』、岩波ジュニア新書。		出席、試験による。	

養 外言	中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b） 現代中国論 b	担当者	崔 世廣
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国は、改革開放以来、驚異的な発展を遂げ、世界の大国としての存在感を強めてきている。各分野における日本との交流も、ますます深まる一方である。今後、中国はどこへ向かい、日本は中国とどうつき合うべきであろうか。国際化と区域化が同時に進行しつつあるなか、日本にとって、永遠の隣人である中国に対して更なる理解が必要とされるであろう。</p> <p>この講義では、現代の中国を多角的に捉え、中国の実態と本質を理解し、これからの中国がどう発展していくのか、日本との関係がどう変化していくのかを考えたい。具体的には、春学期はアヘン戦争以来の歴史を踏まえながら、歴史的脈絡のなかで現代中国と日中関係を検証する。秋学期は、政治や経済や社会、文化などの側面から、中国の発展ぶりや抱える課題について具体的に検討していく。</p>		1 現代中国をどう捉えるべきか 2 政治システム 3 社会主義市場経済 4 変貌する中国 5 社会階層と格差問題 6 教育発展の諸相 7 農村の変容と課題 8 医療と社会保障 9 家族と結婚と性 10 選挙と政治民主化 11 環境問題とエネルギー問題 12 現代の思想と文化 13 国際社会の中の中国 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】沈才彬『「今の中国」がわかる本』、三笠書房；上村幸治『中国のいまがわかる本』、岩波ジュニア新書。		出席、試験による。	

養 外言	中国研究各論Ⅲ (日中交流史) 地域文化論Ⅲa	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。</p> <p>唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。</p> <p>そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。</p> <p>中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。</p> <p><隔在中西之间的日本 — 现代汉语中的日语“外来语”问题 —> (王彬彬, 《上海文学》1998年) を読みつつ進行する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 唐代と近代 2 具象と抽象、音と訓 3 日本人の手になる漢語、《東京夢華録》 4 造語の過程・方法 5 造語の過程・方法 6 競合と淘汰 7 競合と淘汰 8 梁啓超 (政治小説、日本に学ぶブーム) 9 嚴復 10 三様の主張 (自作/借用/音訳) 11 借用 (王国維) 12 音訳 (章士釗) 13 自作 (嚴復の“信・達・雅”) 14 王彬彬の問いかけ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席, 授業への積極的参加, 授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅴ (言語文化論) 地域文化論Ⅲb	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離においての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。</p> <p>日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中国語とは? 普通话、汉语、华语、国語 漢字文化圏 (=漢語文化圏) 2 現代中国語の音韻 3 華人と中国語の比喩 4 中国人のコミュニケーションの特色 5 中国人の「色」 6 ことわざ・歇後語 7 “既成の言い回し”、描写表現 8 東西南北、右左 9 日本語母語話者ゆえの誤謬 10 飲食に関する言葉 11 中国人の名前・命名 12 自尊心・コネ社会・宗教 13 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 14 根強い「同文同種」感覚 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席, 授業への積極的参加, 授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。	

養 外言	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a） 比較文化論特殊講義（日中文化比較論 a）	担当者	嚴 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、日中民族的淵源與發展 2、日中佛教及信仰研究 3、日中漢字文化比較 4、日中社會結構比較 5、日中家庭比較 6、日中學校教育比較 7、日中神話比較 8、日中節日祭祀比較 9、日中園林比較 10、日中服飾比較 11、日中城市比較 12、日中兩性社會比較 13、日中姓名比較 14、日中建築比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。參考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。</p>		<p>評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b） 比較文化論特殊講義（日中文化比較論 b）	担当者	嚴 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義從東亞文化比較的角度，分析日、中兩國文化各方面的異同，探究這些文化差異的表現形式、形成原因以及在當今日、中兩國各種交流中發揮的巨大作用。通過課堂講授、課堂討論以及演習報告，提高學生們對於中國學習的興趣，掌握中國語表達的各種技巧，加強亞州意識，加深對於日中關係的了解，深層次領悟日本、中國社會文化之間共同性及差異性，增強在異文化交流中的各項素質修養。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、日中茶文化比較 2、日中料理比較 3、日中美術比較 4、日中音樂比較 5、日中漫画比較 6、日中方言比較 7、日中成語比較 8、日中流行語研究 9、日中民間故事比較 10、日中古典詩歌比較 11、日中小說比較 12、日中電影比較 13、日中酒文化比較 14、日中婚姻比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。參考書：金文學《中國人、日本人、韓國人》，山東人民出版社，2005年版。</p>		<p>評價方法:期末定期試驗，平常授業の課題など</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典） 地域社会文化論特殊講義（中国文学研究古典）	担当者	巖 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、中国の古典文学を学ぶことを通して、文化や学術、社会状況などについて理解を深め、中国文学全体に対する関心を広げることが、目的とする。講義内容は、主として韻文文学を取り上げる。漢代、六朝の樂府や古詩から唐代の詩、宋代の詞まで、代表的な詩人と詞人、曹操・陶淵明・王昌齡・李白・杜甫・李商隱・杜牧・李煜・柳永・歐陽修・蘇軾・李清照・陸遊・辛弃疾などの作品を読み解きながら、平仄・對仗・押韻など中国韻文特有の技巧や規則の発展と変容を追跡し、その文学としての意義を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、中国文学の起源と特徴 2、中国文学の種類と發展 3、漢代、六朝の樂府や古詩 4、漢詩の音韻、平仄、押韻 5、唐代の詩・初唐詩人 6、唐代の詩・李白 7、唐代の詩・杜甫 8、晚唐詩人・李商隱、杜牧 9、唐五代詞人・李煜 10、宋代詞人・柳永、歐陽修、蘇軾 11、宋代詞人・李清照、陸遊、辛弃疾 12、明清の文学 13、日本の漢文學・江戸漢詩人 14、日本の漢文學・明治漢詩人 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。参考書：八木章好《中国語で巡る：漢詩と三国志の旅》，朝日出版社，2008 初版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代） 地域社会文化論特殊講義（中国文学研究現代）	担当者	巖 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、『五四運動』後の中国現代文学を、代表的な作家の作品を読み解く作業を通して、その社会における意味を検討する。まず魯迅・郭沫若・茅盾・巴金・老舍・曹禺などの代表作を紹介し、当時の社会や讀者個人にも強い文化衝撃と意識変革を検証する。また、1949年後に小説創作を始めた新世代の作家たち、たとえば王蒙・高曉聲・陸文夫・王安憶・張潔などの小説を閲讀し、中国の新しい文学を理解しました。さらには当代作家によって表現された、いわば現在進行形の中国を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、中国現代文学の發生 2、近代日本文学の影響 3、魯迅の小説 4、郭沫若の詩歌 5、茅盾の小説 6、巴金の小説 7、老舍の小説と北京話 8、曹禺の劇作品 9、王蒙・高曉聲の小説 10、陸文夫と江南文学傳統 11、王安憶・張潔と中国女性文学 12、中国現代文学の特徴 13、日中文学の交流 14、中国の映画 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>自編教科書。参考書：朱棟霖《中国現代文学史》，北京大学出版社，2007 年版。</p>		<p>評價方法:期末定期試験，平常授業の課題など</p>	

養	韓国研究入門	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代韓国への旅</p> <p>本講座は、韓国研究のための最初の一步である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。</p> <p>履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。</p>		<p>1 イントロ①ー旅の準備</p> <p>2 イントロ②ー旅の準備</p> <p>3 韓国の若者と出会う</p> <p>4 韓国のインターネット事情</p> <p>5 韓国大衆文化事情ーKpopの世界へ</p> <p>6 グローバルシティ・ソウルと「外国人」</p> <p>7 韓国のなかの「日本」</p> <p>8 政治から文化へ</p> <p>9 ソウル・オリンピック</p> <p>10 朝鮮半島とアメリカ</p> <p>11 独裁政権と民主化の記憶</p> <p>12 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし</p> <p>13 「朝鮮近代史と日本」について考える</p> <p>14 まとめー再び日本へ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する予定。		出席、中間レポートおよび期末テスト。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究Ⅰ（韓国史） 地域社会文化論特殊講義(韓国史)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは朝鮮半島の歴史についてどれぐらい知っているだろうか。また、どれぐらい知らないだろうか。本講義では朝鮮半島の歴史を通史的に論じていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロ①朝鮮半島の歴史を学ぶということ 2 イントロ②～古朝鮮から三韓 3 高句麗、百濟、新羅 4 高麗の成立と展開 5 李氏朝鮮の成立と展開 6 朝鮮近代社会 7 植民地支配下の朝鮮（1） 8 植民地支配下の朝鮮（2） 9 解放と分断 10 韓国の軍事政権と韓国社会 11 韓国の民主化と経済発展（1） 12 韓国の民主化と経済発展（2） 13 南北関係の変化 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

養 外言	韓国研究Ⅱ（韓国社会論） 地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国社会とジェンダー」にテーマをしばって現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には積極的な授業参加が望まれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロ①-ジェンダーとはなにか 2 イントロ② - 韓国社会とジェンダー 3 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観① 4 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観② 5 韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③ 6 ジェンダーと制度① 7 ジェンダーと制度② 8 軍隊とジェンダー① 9 軍隊とジェンダー② 10 歴史とジェンダー① 11 歴史とジェンダー② 12 韓流とジェンダー① 13 韓流とジェンダー② 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席、期末テスト	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化） 地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の様々な様相を学ぶ。 11回までは、様々な韓国語の様相を軸に講義をする。 講義の途中で韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。 12回以降には、韓国語に関するテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅳ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 訓民正音創製の意義 3. 語彙(漢字語) 4. 語彙(固有語・外来語) 5. 言葉づかいと人間関係 6. 言葉とジェスチャー 7. 韓国と北朝鮮の言葉の違い 8. 若者の言葉 9. 韓国の方言 10. ネット言語 11. スラング 12. 発表 13. 発表 14. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料をコピーして配布する		出席 100%、チーム別(5-6人)プレゼンテーション、中間レポート、期末試験	

養 外言	韓国研究各論 I (韓国社会各論 a) 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論 a)	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は朝鮮半島分断の歴史と現状を、政治的観点にとどまらず「日常」の視点から概観するものである。分断社会における「日常のなかの分断」、メディアにおける分断の表象から国際社会のなかの「分断」まで、単なる国際政治の枠組みとしてのみ「分断」を語るのではなく、「分断」とは朝鮮半島に住む人々やその日常にとってなにを意味するのか、どのようなかたちで日常にあらわれているのかを考察することに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 イントロ① 2 イントロ② 3 朝鮮半島分断の背景 4 朝鮮戦争① 5 朝鮮戦争② 6 世界情勢と朝鮮半島① 7 世界情勢と朝鮮半島② 8 アジアと朝鮮半島① 9 アジアと朝鮮半島② 10 日本と分断朝鮮① 11 日本と分断朝鮮② 12 南北の社会① 13 南北の社会② 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業初回に提示する。		出席、発表、期末テスト	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論b） 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをも明らかにすることを目的とする。</p> <p>まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫（2005）『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂		出席状況と試験で評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史） 地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国の歴史の流れ 2. 王仁博士と漢文 3. 日本の中の百濟文化 4. 高麗時代の社会状況 5. 『三国史記』と『三国遺事』 6. 朝鮮通信史① 7. 朝鮮通信し② 8. 豊臣秀吉と李舜臣 9. 申叔舟と雨森芳洲 10. 安重根と伊藤博文 11. 日韓併合 12. 浅川巧と韓国 13. 朝鮮戦争と日本 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 a)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>朝鮮半島の近代史を学ぶ。</p> <p>韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に 2001 年から歴史コラムとして連載され、2003 年に単行本化されてからもベストセラーとなり話題を呼び続けている韓洪九『大韓民国史』（日本語訳は(6)を参照）を軸に講義をする。</p> <p>11 回までは、韓洪九『大韓民国史』を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーやビデオなどを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。</p> <p>12 回以降には、韓国の近代史のなかテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅲ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓洪九の韓国現代史 第一部-3 2. 第一部-6 3. 第二部-1 4. 第二部-2 5. 第二部-4・5 6. 第三部-3 7. 第三部-4 8. 第四部-2 9. 第四部-5 10. 第五部-1 11. 第五部-2 12. 発表 13. 発表 14. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史-韓国とはどういう国か』、平凡社、2003 年</p> <p>韓洪九著・高島宗詞監訳、『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005 年</p>		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート(『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』について)、期末試験	

養 外言	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 b)	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国の宗教を通じて派生された様々な文化を学んでいく。</p> <p>11 回までは、韓国の様々な宗教を軽く触って、建国神話・文学、思想・イデオロギー、生活習慣などの様相を軸に講義をする。講義の途中に韓国語のドキュメンタリーを見る。このため、韓国語がある程度わかる履修者が望ましい。</p> <p>12 回以降には、韓国の宗教と関連があるテーマを選定、チーム別プレゼンテーションを発表。</p> <p>韓国語Ⅳ以上の履修者が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 韓国の民俗信仰 3. 巫俗 4. 節季風俗 5. 韓国の仏教文化(1) 6. 韓国の仏教文化(2) 7. 韓国の儒教文化(1) 8. 韓国の儒教文化(2) 9. 韓国のキリスト教(1) 10. 韓国のキリスト教(2) 11. 韓国の風水思想 12. 発表 13. 発表 14. 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料をコピーして配布する		出席 100%、チーム別(5-6 人)プレゼンテーション、中間レポート(『韓洪九の韓国現代史(2)負けの歴史から何を学ぶのか』について)、期末試験	

養 外言	韓国研究各論VI (韓国文化各論 c) 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 c)	担当者	金 貞我 (김·정아)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今学期の韓国文化論のテーマは「風俗画のなかの朝鮮文化―描かれた朝鮮文化を読む」である。14世紀末から20世紀初頭まで続いた朝鮮時代の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。</p> <p>授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚(図像)資料からアプローチすることが主な内容である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、韓国の時代区分と歴史の概要 2、姿の朝鮮文化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の表象―封建社会の理想の女性像 ・ 立身出世の表象―寺小屋と科挙 ・ 妓女の姿と上流社会 ・ 装身具と服飾が象徴する身分社会 3、しぐさの朝鮮文化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食文化と食事作法 ・ 片立膝と正座 ・ 顔を隠す女性・扇子越しにみる男性 ・ いただく女・背負う男―労働する庶民 4、儀礼の朝鮮文化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通過儀礼と士大夫文化 <p>※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。出席と平常点(50%)とレポート(50%)を総合して評価する。	

養	韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3-4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。</p> <p>*韓国語を理解するものに限る。</p> <p>注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス 2、各自発表する方法を選び、発表日程決定 3、ハングルのタイピング練習① 4、ハングルのタイピング練習② 5、ハングルのタイピング練習③ 6、資料調査発表① 7、資料調査発表② 8、インターネット調査発表(ハングル)① 9、インターネット調査発表(ハングル)② 10、現地調査発表③インタビュー 11、現地調査発表④設問、アンケート 12、現地調査発表②東京(新大久保) 13、現地調査発表①川崎市(桜本) 14、まとめ <p>注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		主に調査、発表の取組、研究成果の課題レポートで評価する。	

養 外言	韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b） 比較文化論特殊講義（日韓比較文化論 b）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑（김 희숙）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗時代の教育と文化 5. 朝鮮時代の教育と文化① 6. 朝鮮時代の教育と文化② 7. 植民地支配の教育政策 8. 植民地支配の国語教育 9. 日韓生涯教育と社会 10. 日韓ジェンダー教育 11. 日韓女性の教育 12. 韓国における日本語教育の歴史 13. 日本における韓国語教育の歴史 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。</p>		<p>積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。</p>	

養 外言	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a） 比較文化論特殊講義（日韓比較文化論 a）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑（김 희숙）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>* 参加型授業による人数制限をする。（50名まで） 注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の歳時風俗 6. 韓日の祭祀風習 7. 韓日の民俗信仰 8. 韓日の家族 9. 韓日の食文化① 10. 韓日の食文化② 11. 韓日の住生活 12. 韓日の服飾 13. 韓日の福祉レジャー 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。</p>		<p>授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	金 貞我（キム・ジョンア）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時事韓国語の読解力強化を目的とする。今学期は、毎週、新聞・雑誌や短いエッセイなどを取り上げ、一つの記事を読み通す。日本語と同じ漢字用語が多い時事韓国語の習得とともに、記事の読解力を高め、文化、経済、政治など、韓国社会全般にわたる理解をも深める。中級以上の韓国語の知識が要求される。</p>		<p>エッセイや新聞・雑誌など時事に関する文章を読解する。毎週一つのテーマを読み通すことを目標とし、記事に出てくる特殊表現、専門的用語などをまとめながら、全体の内容を掴む訓練を重ねる。必要な資料は毎週、授業中に配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、韓国の新聞を読む（5回） 2、韓国の政治・経済雑誌を読む（5回） 3、韓国版『リーダーズ・ダイジェスト』を読む（3回） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に出される課題の達成度と授業参加の積極性を総合評価する。	

養	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。</p> <p>講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」についても扱うことを予定している。</p>		<p>1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 日本人遙かな旅を見る① 6 日本人遙かな旅を見る② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 11 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 12 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る③ 14 まとめ</p> <p>授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト なし 参考文献 授業時に指示する</p>		<p>試験・レポート・出席の総合点によって決める。</p>	

養	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目標) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する</p> <p>(講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。</p> <p>(受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 第12回①原作を映像で見る 第13回② 同上 第14回 まとめ(総集編)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>その都度紹介する。</p>		<p>出席。レポート(定期試験)。</p>	

養 外言	日本研究Ⅲ（日本史 a） 日本近現代史 a	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、田母神論文や閣僚の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。</p> <p>そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。できれば、秋学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 日中戦争と対米英戦争 3 真珠湾からか、コタバルからか 4 被害の問題①—空襲は何を示すか 5 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 6 加害の問題①—731 部隊とは何か 7 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 8 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 9 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 12 戦争と経済の関わりを考える 13 この戦争の原因をどうとらえるか 14 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定	

養 外言	日本研究Ⅳ（日本史 b） 日本近現代史 b	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15 年戦争」とは。1931 年の満州事変から 1945 年 8 月 15 日の敗戦までの一連の戦争をさす。この戦争は、戦後 60 年を越えた今日でも日本と中国・韓国の間で問題となるように、大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。</p> <p>秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり振り返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。できれば、春学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2 本土決戦と日本の戦争の終わり方 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 日本とドイツの戦後補償① 7 日本とドイツの戦後補償② 8 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 9 日中国交回復への道のり 10 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 11 アジアの民衆からの戦後補償要求 12 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 13 戦後 50 年の国会決議をめぐって 14 戦争の歴史から私たちは何を学ぶか 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定	

養 外言	日本研究V (日本経済論 a) 日本経済論 a	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p> <p>なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来とその時期区分 7. 高度成長の構造(1) 8. 高度成長の構造(2) 9. 高度成長の結果 10. 戦時経済と戦後高度成長の関係 11. 高度成長の精神的土台 12. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 13. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 14. 日本経済の構造転換 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。	

養 外言	日本研究VI (日本経済論 b) 日本経済論 b	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで近年たまたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにサブプライム問題および世界同時大不況下の日本経済を検討したい。</p> <p>なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. スタグフレーションとその原因 3. レーガノミクスとアメリカ経済 4. プラザ合意後の経済変化 5. バブル経済の発生とその原因 6. バブル経済の崩壊 7. 平成不況の特徴 —複合不況— 8. 金融自由化と日本版ビッグ・バン 9. 「失われた10年」 10. 景気対策か構造改革か(1) 11. 景気対策か構造改革か(2) 12. 小泉内閣の構造改革を問う 13. サブプライム・ローンとリーマン・ショック 14. 世界同時大不況下の日本経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

養 外言	日本研究Ⅶ（日本文化論） 日本文化論 a	担当者	崔 世廣
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とは、「ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみをいうのではない。また、言うまでもなく、文化は単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけでもない。</p> <p>この講義では、日本文化の特徴を「歴史的な重層性と内的統一性」ととらえ、歴史形成論と形態論という両手法を使って日本文化を探求する。具体的には、古代から近代までの日本文化史を整理し、そのうえで、風土と日本文化、感受性と美意識、振舞いと倫理感覚、暮らしと死生観、日本文化と世界文化などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。</p>		1 オリエンテーション・導入 2 日本文化の歴史的な重層性と内的統一性 3 「日本」の成立と日本文化の原型 4 大陸文化の輸入と律令国家の成立 5 国風文化の興隆及びその意味 6 鎌倉文化と仏教の日本化 7 近世社会・文化をどう捉えるべきか 8 近代化と近代日本文化の変容 9 風土と日本社会・文化 10 日本人の感受性と美意識 11 日本人の振舞いと倫理感覚 12 日本人の暮らしと死生観 13 日本文化は特殊かー比較文化論の視点から 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）。		学期末試験（論述式）の成績による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本研究各論Ⅱ（企業経営） 日本研究特殊講義（企業経営）	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。</p> <p>日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業における IT 戦略 13. 日本型企业システムの変容 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒川文子『21世紀の自動車産業戦略』（税務経理協会、2008年）		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本特殊研究Ⅰ（民俗学） 日本研究特殊講義（民俗学）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民俗とは民間に伝承されてきた生活文化であり、日本民俗学は、その歴史的変遷、もしくは、民俗を資料として日本文化の構造などを明らかにし、研究成果を現在に活かすことを目的としている学問である。</p> <p>したがって、本講義では、民俗学の基礎的な理論と日本文化の多様性の把握を目的として、人間が生きていくために最も切実な問題である食の確保、すなわち、生業を基盤として、そこから設定された文化類型に沿って、ヒトとヒト・ヒトとカミ・ヒトと自然との関わりを、文献や音声・映像などの具体的資料を提示しながら講義したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 民俗学とは／日本人の民俗的世界概念 3 海上の道／稲を選んだ日本人 4 海民の生活と文化 5 稲作民の生活と文化 6 餅なし正月と雑穀・畑作文化 7 山民の生活と文化 8 山と海の交流 9 都市の民俗文化 10 学校の怪談／妖怪と幽霊 11 カミとヒト／アニミズム 12 女性と子どもと老人の民俗文化 13 まとめ 14 授業時試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

養 外言	日本研究各論Ⅲ（地域文化） 日本研究特殊講義（地域文化）	担当者	長野 隆之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>正月には神社に参拝をし、盆に寺で死者供養を行ない、クリスマスイベント化している日本人の姿は、成立宗教をあつく信仰している人びとに奇異なものとして映じているであろう。しかし、仏教を帰化させ、さまざまな仏を「神」として信仰してきた日本人にとっては、そういった信仰のあり方はむしろ当たりマエなのであり、「神」という語から想起されるイメージも一様ではない。</p> <p>本講義では、そうした信仰のあり方の表象として儀礼・芸能を捉え、それらを通して日本人の信仰の在り方を把握することを目的として、文献や音声・映像などの具体的資料を用いて、日本の民間信仰を、それが伝承されている地域との関わりから把握し、検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 祭り・儀礼・芸能の概念と構造 3 神懸かりと巫女神楽 4 山伏神楽と修験道 5 宗教者と芸能 6 予祝儀礼①—小正月の訪問者 7 予祝儀礼②—モノマネ・モノヅクリ 8 田植え儀礼 9 災厄防除儀礼／鎮送呪術 10 収穫祭と田の神送り 11 宴会と芸能 12 特定小地域での祭り・儀礼・芸能の在り方 13 まとめ 14 授業時試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		試験によって評価：授業の理解度(80%)＋考察(20%) ただし、授業の1/3を欠席した者には、受験資格を与えない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本特殊研究Ⅱ（文献読解） 日本研究特殊講義（文献読解）	担当者	崔 世廣
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の日本が先進国の一員として国際社会にいられるのは、19世紀後半に明治維新をへて近代化に成功したからである。それから1世紀以上を経て、グローバル化の渦中にある現在、日本が如何にして近代化を進めて国際社会に躍り出るに至ったかを振り返ることは意味があるだろう。この講義では、日本の近代化を理解するために必要な文献の講読をする。</p> <p>具体的には、福沢諭吉著『文明論之概略』（松沢弘陽校注、岩波文庫）を読み進め、福沢の思想と日本近代化のパターンとの関連を探究することによって、日本の近代化がどのように進み、現代へと至っているのかを理解する。授業は演習形式で学生諸君に分担してもらい、『文明論之概略』の内容を、当時の国際情勢、日本国内の変革、思想・文化的な諸様相等と対比し、それを理解していく方策を探っていく。</p>		1 オリエンテーション（参考文献の提示、発表順） 2 概説（福沢諭吉、文明、近代化） 3 発表(1) 4 発表(2) 5 発表(3) 6 発表(4) 7 発表(5) 8 発表(6) 9 発表(7) 10 発表(8) 11 発表(9) 12 発表(10) 13 発表(11) 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福沢諭吉『文明論之概略』（岩波文庫）【参考文献】丸山真男『「文明論之概略」を読む』（上、中、下）、岩波新書；子安宣邦『福沢諭吉『文明論之概略』精読』、岩波現代文庫。		発表の成果と学期末試験（論述式）の成績による。	

養	多言語間交流研究 I (言語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域(考古学・医学・物理学・電子工学・数学)における言語研究にも言及する。</p>		<p>第1回 話し言葉と書き言葉 一言葉は約束事 ～言語学の研究対象、記号論、ローマ字表記</p> <p>第2回 動物の言語と人間の言語 —チンパンジーも言葉が話せる? ～動物のコミュニケーション</p> <p>第3回 言語と脳 —失われた言葉を取り戻す ～心理言語学と大脳生理学</p> <p>第4回 子供の言葉の発達 —どのようにして言語を習得するか? ～第1言語の発達過程</p> <p>第5回 外国語の上達 —どのようにしたらうまく話せるようになるか? ～第2言語の習得理論</p> <p>第6回 音と音声 (1) —カテゴリーができるまで ～調音音声学と音韻論</p> <p>第7回 音と音声 (2) —音声はどのように聞こえるか? ～音響音声学と聴覚音声学</p> <p>第8回 統語論 —「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述 ～構造主義文法、生成文法、その他の文法</p> <p>第9回 形と意味 —発話に意味を込める ～意味論、語用論</p> <p>第10回 会話の原則 —言葉の適切な使い方 ～談話分析</p> <p>第11回 言語と社会 —言葉の多様性と普遍性 ～社会言語学</p> <p>第12回 世界の言語とその系統 —言語の系統と分類 ～歴史言語学</p> <p>第13回 言語の進化 —言語と人類の発達 ～言語考古学</p> <p>第14回 コンピューターと言語 —近未来の言語研究 ～人工知能、機械翻訳、コーパス言語学</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G. ニール/今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル/風間・長谷川訳 『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きな本』(研究社出版, 1999; ISBN: 4-327-37674-4)</p>		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

養	多言語間交流研究 II (言語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号(デジタル信号)に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。</p>		<p>第1回 この授業について</p> <p>形態論 (1) 形態素の同定(ハンガリー語, スペイン語)</p> <p>第2回 形態論 (2) 形態素の同定(現代ヘブライ語, マレー・インドネシア語, ペルシア語)</p> <p>第3回 形態論 (3) 形態素の同定(ラテン語, ラコタ語)</p> <p>第4回 音声学・音韻論 (1) 発音記号, 音素・異音(英語)</p> <p>第5回 音声学・音韻論 (2) 音韻の同定(ウィチタ語, 古典ヘブライ語, ラコタ語)</p> <p>第6回 音声学・音韻論 (3) 音素の同定(スペイン語, ヒンディー語, 日本語)</p> <p>第7回 音声学・音韻論 (4) 超分節音素の同定(中国語, アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語)</p> <p>第8回 音声学・音韻論 (5) 音韻現象, 生成音韻論(トルコ語, 英語)</p> <p>第9回 統語論 (1) 直接構成素分析, 句構造規則(英語)</p> <p>第10回 統語論 (2) 句構造規則(英語, イタリア語・ギリシア語)</p> <p>第11回 統語論 (3) 構造形成, 語順, 格(英語, 中国語, ドイツ語, クリントン語)</p> <p>第12回 意味論 上位概念・下位概念, 同意語・反意語(英語, 日本語, ペルシア語)</p> <p>第13回 語用論 新旧情報, 言語行為, 話題化(英語, 中国語)</p> <p>第14回 書記法(英語, イタリア語, ギリシア語, ヘブライ語)</p> <p>第15回 歴史言語学(古英語, スペイン語・イタリア語・フランス語)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed.</i> (Heinle, 2007; ISBN: 978-1413030853) Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed.</i> [e-textbook] (CourseSmart, http://www.courseSMART.com/9781413030853) Edward Finegan, <i>Language: Its Structure and Use, 5th ed.</i> (Wadsworth, 2007; ISBN: 978-1413030556) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)</p>		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

養	多言語間交流研究Ⅲ (英語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある。随時、日本語との対照学習を取り入れ、外国語としての英語学習が容易になるよう試みる。それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後、実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う。授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる。</p>		<p>第1回 英語の文法理論 (第6章) 第2回 音声学 (第7章) 第3回 音韻論 (第8章) 第4回 強勢・イントネーション (第8章) 第5回 形態論・語形成 (第9章) 第6回 統語論 (1) (第10章) 第7回 統語論 (2) (第10章) 第8回 統語論 (3) (第10章) 第9回 意味論・語用論 (1) (第11章) 第10回 意味論・語用論 (2) (第11章) 第11回 テキスト言語学 (1) 第12回 テキスト言語学 (2) 第13回 ディスコース (1) 第14回 ディスコース (2) 第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X) 高橋作太郎,『英語教師の文法研究』(大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526) 高橋作太郎,『統・英語教師の文法研究』(大修館書店, 1986; ISBN: 4469141542) 橋内武,『ディスコース: 談話の織りなす世界』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976; ISBN: 978-0582560414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.html</p>		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

養	多言語間交流研究Ⅳ (英語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。</p> <p>後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。</p> <p>参考資料の事前読了および講義支援システムの参照を前提とする。</p>		<p>第1回 英語以前 (1): 印欧語族の成立 第2回 英語以前 (2): ゲルマン語族の成立 第3回 伝説時代の英語: 古英語とその社会 第4回 英語の夜明け: 中世とは?そしてその英語 第5回 英語の充実: 初期近代英語とイギリス社会の発展 第6回 英語の黄金期: 近代英語とヴィクトリア朝文化 第7回 英語の多様性: イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異) 第8回 英語の現状: アメリカ英語・オーストラリア英語・第3世界の英語 第9回 語彙・語源: 本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング 第10回 英語の文法の特徴: 語順・修飾・統御 第11回 英語の発音と綴り: 大母音推移・発音・文字・正書法 第12回 英語の談話構造: パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 第13回 社会的変異: 社会階層・レジスター・ジャンル 第14回 英語使用の現状: 公用語・第2言語・英語学習・辞書 第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language</i>, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82048 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, <i>English: History, Diversity and Change</i> (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. MacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランラングージハウス, 1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X) 宇賀裕正,『英語史』(開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6)</p>		(定期試験 (60%)+平常授業における課題 (40%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語間交流研究V（英語圏の文学）	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学・文化」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し前後左右に動かして他の場所をクローズアップしてみるの楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してやること、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。</p> <p>概要</p> <p>文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたものの、すなわち物語作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかを見ていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、また優れた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異に気づくことが大切です。</p>		<p>授業計画</p> <p>授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんが、この点を承知しておいてください。</p> <p>半期完結授業：</p> <p>1.2.Introduction： 文学と言葉について：言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変を化、Simplicity、Freshness、Precision、Vigorなどを以下のProseから見ます。</p> <p>3.4.5.上記の例証としての文体を多様な作品を通して比較します。 (1) <i>The Kitchen at Harmonie</i> (2) <i>Life in America</i> (3) (4) <i>The Journal of the Plague Year</i> (5) <i>The Shadow of the Glen</i>, (6) <i>Soldiers in the Train</i> (7) <i>The Helmsman</i> (8) and Others</p> <p>6.7.8.英語圏の文学と社会について、特にVerseを例にその特徴を見ます。Herrick, Jonson, Marvel, Auden, Milton, Shakespeare次にいくつかのVerseから見ます。</p> <p>9.10.11.Dramaの基本についてShakespeareの<i>Macbeth Julius Caesar, Murder in the Cathedral</i>などを通して主題と言葉の使い方を見ていきます。VTRを使う場合があります。</p> <p>12.13.前に授業の続き、14.その構造について (1) プロットとストーリーの重要性について (2) プロットの構成と展開 (3) 登場人物の設定</p> <p>14.15.その内容について：言葉と修辞（レトリック）の重要性について、Metaphor, Metonymy, Repetition, Paradox, Irony, synecdoche, Imagery、その他のレトリックの面白さを見ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：今年ももっと指定したテキストに基づいて講義を進めます。それを予習してくると授業の内容が一段とよく理解できるでしょう。Laurence D. Lerner. <i>English Literature: An Interpretation for Students Abroad</i>, OUP, London and The Eihōsha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすく書かれています。言葉がどんな風に使われ、語られているか、その意味の変化を知ることでもできる効果的な教材です。</p>		<p>評価方法：</p> <p>3分の2以上の出席がないと試験を受けても単位は出しません。短い感想文（レポート）の提出があるかもしれません。その場合はそれを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。受講生に対する要望等：真面目に授業に臨むこと。大切なことはしっかりとノートテーキングすること。また文学・文化、ものの見方、考え方に興味を持つこと。</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。</p> <p>言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～4週：言語習得 －言語習得 －言語喪失 －言語維持 －コミュニケーション能力</p> <p>第5～7週：言語と社会 －バイリンガリズム －言語とアイデンティティ、文化 －マイノリティ言語</p> <p>第8～10週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得 －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など）</p> <p>第11～14週：言語研究</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		レポート(40%)、期末テスト(60%)	

養	多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。</p> <p>言語学 a（応用言語学）を履修していることが望ましい。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～6週：SLA理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他</p> <p>第7週：中間言語</p> <p>第8～11週：学習者要因 －年齢 －動機・態度 －学習ストラテジー・学習スタイル －社会文化的要因 －性格・情緒要因 －適正 －多重知能理論 －第一言語（既習言語） －自律など</p> <p>第12～14週：指導方法 －communicative approach －TBLT (task-based language teaching) －CBT (content-based teaching) －focus-on-form vs. focus-on-forms 他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(15%)、レポート(25%)、期末テスト(60%)	

養	多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんでもらうことがねらいです。だれもが知っている有名なものから問題作まで、原則として一回一作品ずつ、できるだけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつですが、原文も味わいます。</p> <p>講義概要 毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもらった課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじと読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなものだったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。</p> <p>***注意事項***</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、課題に時間をかけて取り組んでください。 ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。 ・ 辞書を持参してください。電子辞書でもかまいません。 ・ 欠席が 4 回を越える場合は評価の対象外とします。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: English literature? Literature in English? 2. Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> (1719) 3. Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> (1813) 4. Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (1837-39) 5. Charlotte Bronte, <i>Jane Eyre</i> (1847) 6. Lewis Carroll, <i>Alice in Wonderland</i> (1865) 7. Arthur Conan Doyle, <i>A Study in Scarlet</i> (1886) 8. J.M. Barrie, <i>Peter Pan</i> (1911) 9. E.M. Forster, <i>A Passage to India</i> (1924) 10. Virginia Woolf, <i>Orlando</i> (1928) 11. D.H. Lawrence, <i>Lady Chatterley's Lover</i> (1928) 12. Alan Sillitoe, <i>The Loneliness of the Long Distance Runner</i> (1959) 13. A.S. Byatt, <i>Possession</i> (1990) 14. Nick Hornby, <i>About a Boy</i> (1998) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。</p>		<p>毎回の課題と学期末試験（英文和訳等を出題）。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説 b）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。</p> <p>授業の概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回：序論（gender/race/class） 第 2 回：アメリカ小説の概略 1（歴史） 第 3 回：アメリカ小説の概略 2（文化・社会） 第 4 回：リアリズム小説 1（第一世代と第二世代のリアリストたち） 第 5 回：リアリズム小説 2（Mark Twain） 第 6 回：リアリズム小説 3（The Adventures of Huckleberry Finn） 第 7 回：モダニズム小説 1（アメリカ小説のモダニストたち） 第 8 回：モダニズム小説 2（William Faulkner と 'That Evening Sun'） 第 9 回：モダニズム小説 3（William Faulkner と The Sound and the Fury） 第 10 回：モダニズム小説 4（William Faulkner の世界） 第 11 回：多文化主義小説 1（多文化主義とアメリカ小説） 第 12 回：多文化主義小説 2（黒人作家とユダヤ系作家） 第 13 回：多文化主義小説 3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"） 第 14 回：多文化主義小説 4（「寓話」としての "The First Seven Years"） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する</p>		<p>定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩 a）	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《授業の到達目標及びテーマ》 授業のタイトル通り、アメリカの詩を読む。 《授業の概要》 「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、Native American（いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ポリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティブ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言う前から普通の表現となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる</p>		<p>第1回：Introduction 第2回：Native American の詩 第3回：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など 第4回：Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など 第5回：Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など 第6回：Ezra Pound, Imagism 期の短詩、” Hugh Selwyn Mauberley I” など 第7回：Ezra Pound の <i>The Cantos</i> のいくつか 第8回：William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 第9回：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 第10回：H. D., “Oread,” “Heat” など 第11回：T. S. Eliot, “Preludes” など 第12回：Robert Lowell, “For the Union Dead” など 第13回：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 第14回：Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など 第15回：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Sixteen Modern American Poets (英宝社)およびプリント。 参考書：授業中に、適宜紹介する。</p>		2000 字以上のレポート。詳細は追って報告する。	

養	多言語間交流研究各論Ⅵ（英語圏の詩 b）	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<p>1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. <同> II T. Hughes (1992-1985) など (video 鑑賞) 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) 7. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス, video 鑑賞 9. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge (1772-1834) と G.G. Byron (1788-1824) (video 鑑賞) 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard” (1751) を読む。Video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) <i>Paradise Lost</i> (1667) のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 14. William Shakespeare (1564-1616), 解説と video 鑑賞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)</p>		<p>テストを課す。数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇 a）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思えます。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下 さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など） 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇——喜劇 第5回：イギリス現代演劇——悲劇 第6回：アイルランド現代演劇——喜劇 第7回：アイルランド現代演劇——悲劇 第8回：アメリカ現代演劇——喜劇 第9回：アメリカ現代演劇——悲劇 第10回：Musical Plays——West End 第11回：Musical Plays——Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ</p> <p>「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲 作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケ ジュールに合わせて授業を進めていきます。よつて上記の 計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません。</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキ スト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃ べって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用 意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォー マンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室で も舞台の雰囲気を出したいと思えます。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。ま た、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、 歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝 居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下 さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありま せん。授業回数数の3分の1以上を欠席した場合、原則とし て、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入（劇場の説明、シラバスの説明など）、 第2回：歌舞伎（英訳版） 第3回：ギリシア悲劇（英訳版） 第4回：イギリス現代演劇——喜劇 第5回：イギリス現代演劇——悲劇 第6回：アイルランド現代演劇——喜劇 第7回：アイルランド現代演劇——悲劇 第8回：アメリカ現代演劇——喜劇 第9回：アメリカ現代演劇——悲劇 第10回：Musical Plays——West End 第11回：Musical Plays——Broadway 第12回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第13回：ヨーロッパの演劇（英訳版） 第14回まとめ</p> <p>「今日の世界は演劇によって再現できるか」 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲 作品をなるべく選ぶようにしていますので、その上演スケ ジュールに合わせて授業を進めていきます。よつて上記の 計画はきわめて流動的であると承知しておいてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート（800字）2編で60%。授業で40%。学期 末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位 を認めません</p>	

養 外言	多言語間交流研究各論IX (国際語としての英語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。</p> <p>本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとジャーナルなど)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論</p> <p>第2週: 英語の普及 - Kachruの3つの円 - ディアスポラ</p> <p>第3~4週: 英語の多様化 - ピジンとクレオール - 方言と標準語</p> <p>第5~7週: 世界英語—英語圏における多様化 - アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など - Hawaii Creole English - Ebonics - Spanglish など</p> <p>第8週: 世界英語—準英語圏における多様化 - インド英語 - Singlish</p> <p>第9~10週: 世界英語—非英語圏における多様化 - ヨーロッパと英語、ロシアと英語 - 中国と英語、韓国と英語</p> <p>第11~14週: 日本人における英語とは何か - 日本での英語使用 - 日本の英語教育史 - 現状と動向: 政策、教師、カリキュラム、目的など - まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、フィールドワークに基づいたレポート(20%)、 期末テスト(50%)	

養 外言	多言語間交流研究各論X (多言語環境と英語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	担当者	白井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」(教育、サービス含む)の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのかを考える。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(主にリーディングとジャーナルなど)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論</p> <p>第2週: 言語権とは。言語サービスとは。</p> <p>第3~5週: 理論</p> <p>第6~9週: 日本の中の多言語と英語 - 日本の中の多言語 - 政策と教育 - 言語サービス</p> <p>第10~13週: 世界の言語政策と英語の位置づけ - アメリカ - オーストラリア - ヨーロッパ諸国 - アジア諸国</p> <p>第14週: 多言語環境と英語 - 英語は普遍語になるのか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		課題(30%)、フィールドワークに基づいたレポート(20%)、 期末テスト(50%)	

養 外言	多言語間交流研究各論X I (英語圏の文化) 地域社会文化論特殊講義 (英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>年間、50万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3,500万にも達し、総人口の12%も占めている。白人の割合は減る一方で、2050年には5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ(WASP<White Anglo-Saxon Protestant>)社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. 50年代のアメリカ 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. // 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 	
参考文献		評価方法	
授業で紹介する		学期末試験 自由課題	
		受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

養 外言	多言語間交流研究各論X II (英語圏事情) 地域社会文化論特殊講義 (英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響下に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。</p> <p>イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。</p> <p>反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆ ガイダンス ☆ 銃社会アメリカ ☆ // ☆ ベトナム戦争 ☆ ベトナム戦争 ☆ 9.11 ☆ イラク戦争 ☆ // ☆ もうひとつの9.11 ☆ ポップカルチャー ー善なるアメリカの演出ー ☆ ソフトパワー ☆ // ☆ // ☆ 議論 どうアメリカに対応するか？ 	
参考文献		評価方法	
『グローバリゼーションの文化政治』吉見俊哉 平凡社 『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ 日本経済新聞社		学期末テスト 自由課題	
		受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、通訳・翻訳の理論およびモデルの理解を目的とする。通訳・翻訳においては、その実技面が強調されるあまり、その実技がどのような理論に立脚したものなのかという点が、ともするとおざなりになるきらいがある。本講義では、通訳・翻訳の一般的な理論・モデルなどを紹介する。</p> <p>授業に際しては、毎週大量の英文を読解することが求められる。</p> <p>第1回目の講義では、細かい指示を出すので、必ず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めない。</p> <p>また、やむをえない事情で授業に出席できない場合は、授業日翌日までに講師に連絡を取り、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 通訳の3次元モデルについて 3 通訳技術とは何か 4 通訳における知識ベース 5 通訳における言語能力 6 逐次通訳のプロセス 7 ノートテキング 8 第1～7回の授業のまとめ 9 同時通訳の基本理論 10 同時通訳の技術 11 翻訳モデル(1) 12 翻訳モデル(2) 13 翻訳モデル(3) 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業における発表 40% レポート 50%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	担当者	横山 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、翻訳・通訳のトレーニングを通して、翻訳通訳理論の定着とすでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とする。</p> <p>通訳・翻訳のトレーニングは理論と切り離されて語られることが多いが、本講義では、理論をふまえた徹底したトレーニングを行い、英語の受信力・発信力を鍛える。</p> <p>春学期の特殊研究Ⅰを受講していることが望ましい。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p> <p>やむをえない事情で授業に出席できない場合は、授業日翌日までに講師に連絡をとり、指示を仰ぐこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 課題の訳文検討、シャドウイング 3 課題の訳文検討、リテンション、リプロダクション 4 課題の訳文検討、クイックレスポンス 5 要約練習 6 サイトトランスレーション (1) 7 サイトトランスレーション (2) 8 逐次通訳 (英日) 9 逐次通訳 (日英) 10 同時通訳 (英日) 11 同時通訳 (日英) 12 映像翻訳 (吹き替え) 13 映像翻訳 (吹き替え) 14 テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		出席 10% 授業参加 40% テスト 50%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学期の前半では、中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。</p> <p>学期の後半では、実際の翻訳作品を例にとり、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国の翻訳論について (1) 3. 中国の翻訳論について (2) 4. 中国の翻訳論について (3) 5. 日中間の翻訳交流について (1) 6. 日中間の翻訳交流について (2) 7. 日中間の翻訳交流について (3) 8. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 9. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 10. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 11. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 12. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 13. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 14. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布します。 指定教科書は使用しません。		出席率と期末レポートで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：中日・日中通訳入門</p> <p>中国語←→日本語双方向の通訳練習をします。</p> <p>毎回、短いテキストを徹底的に訓練することで、素早い反応力と適切な表現力を身につけることを目的とします。</p> <p>【予習】</p> <p>1. 日→中翻訳 課題の日本語を中国語に訳します。</p> <p>2. スピーチの準備 毎回のテーマをもとに自分で 200～250 字のスピーチを作ります。</p> <p>【授業】</p> <p>(1) テキスト学習</p> <p>1. 復習と確認：(10 分間) 前回の課題について復習と確認をします。</p> <p>2. 日→中翻訳：(40 分間) 今回の課題について学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. アジア差別発言 (1) 3. アジア差別発言 (2) 4. サマータイム導入に賛成か反対か (1) 5. サマータイム導入に賛成か反対か (2) 6. 多動症 (ADHD) (1) 7. 多動症 (ADHD) (2) 8. 分煙化(1) 9. 分煙化(2) 10. 魚を食べると本当に頭が良くなるのか？(1) 11. 魚を食べると本当に頭が良くなるのか？(2) 12. インターネット・オークション(1) 13. インターネット・オークション(2) 14. 学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にそのつど配布する。		授業に対する積極性と期末テストで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅲ (翻訳通訳論・スペイン語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語の文献を用いて、歴史的・理論的観点から考える。そして、ある程度の理解が得られた段階で、通訳・翻訳理論分野の英語の文献を検討する。次に、翻訳者育成のための各国のプログラムを検討する。		1 オリエンテーション 通訳技術とは何か 2 通訳の概念,通訳学の発展 3 背景知識 4 メモリートレーニング 5 逐次通訳の基本理論 6 ノートテイキングについて 7 同時通訳の基本理論 その1 8 同時通訳の基本理論 その2 9 翻訳の歴史、 10 翻訳モデル 11 Discourse Analysis 12 誤訳について 13 教育方法 14 予備日 追試	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 ジョーンズ・ローデリック「会議通訳」(松柏社、2001年)、参考文献 フランツ・ポエヒハッカー「通訳学入門」(みずず書房、2006年)		出席・授業参加 50% 教科書持ち込みテスト 20% サマリー・プレゼンテーション 30%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅵ (翻訳通訳実習・スペイン語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語圏の旅行者に日本の文化を紹介する。 日本についての理解をより深めながら、自然なスペイン語で表現できるように口頭練習する。 基礎的なトレーニング法を用いてリスニング力・スピーキング力・語彙力の増強をはかる。 さらに、スペイン語通訳案内士の過去問題を検討する。		1 オリエンテーション メモリートレーニング 2 スラッシュ・リーディング 3 シヤドウイング、要約演習 4 スラッシュリーディング、シヤドウイング 5 要約練習、日本語トレーニング 6 日本語トレーニング、教科書暗唱 7 暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 8 暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 9 暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 10暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 11暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 12暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 13 暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西)、 14 暗唱(西) 逐次通訳(西日、日西) 15 予備日 追試	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 原誠 「スペイン人が日本人によく聞く100の質問」(三修社 2001年)		出席・授業参加 50% 音読実技 20% サマリー・プレゼンテーション 30%	

養	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。</p> <p>注：右に書いた授業計画の前半部は若干回数が多くなることもありえます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 対象としての「文化」の概念 6 歴史的視点と現在の視点 7 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>a で話したことを基礎に、まず「異文化」（「未開」文化）を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。</p> <p>注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 方法としての実地調査 (1) 2 同上 (2) 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をするが、具体的に話す事例は、流れのなかで決めてゆく。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史（1）——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史（2）——E.デュルケム 4. 社会学の歴史（3）——M.ウェーバー 5. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型（3）——第一次集団 8. Identity形成と社会（1）——鏡に映った自己 9. Identity形成と社会（2）——重要な他者 10. Identity形成と社会（3）——マージナル・マン 11. Identity形成と社会（4）—— 未定 12. 補完的アイデンティティについて（1） 13. 補完的アイデンティティについて（2） 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養	多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 「社会」問題と社会的視座（1） 8. 「社会」問題と社会的視座（2） 9. 予言の自己成就——R.K.マートン 10. 誇示的消費——T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー 12. 文化的再生産——P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ——A.ギデンズ 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか</p>		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養 外言	多文化共生研究V (異文化間コミュニケーション a) 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>あなたにとってなにが異文化/自文化か? そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への/からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化へのまなざし (1) 「日本」の表象 6. 異文化へのまなざし (2) 自文化中心主義 7. 異文化へのまなざし (3) 未定 8. 内なる異文化 (1) 9. 内なる異文化 (2) 10. マルチカルチュラリズムについて (1) ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ 11. マルチカルチュラリズムについて (2) ——多文化教育の視点 12. マルチカルチュラリズムについて (3) ——多層的アイデンティティ 13. 相互行為分析と異文化研究 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート (履修者の状況によってはテストになる場合もある)	

養 外言	多文化共生研究VI (異文化間コミュニケーション b) 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。</p> <p>複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認める社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。</p> <p>前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。</p> <p>後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆ ガイダンス ☆ モザイク国家アメリカ ☆ 民族混合のジレンマ ☆ 奴隷制下の人種共存 ☆ 黒人の地位向上運動 ☆ 共存のパラダイム転換 ☆ 公民権運動の共生理念 ☆ 急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 ☆ ロス暴動に見る共生の現実 ☆ 映像 ☆ 多民族混合社会ハワイ ☆ ハワイの経験—多民族の取り込み— ☆ 日系、アジア人の同化体験 ☆ 異人種間共生の手がかり 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカ黒人の歴史』 本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』 上坂昇 講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』 山本英政 明石書店		期末試験、自由課題 受講希望者は初回の授業に必ず出てください	

養 外言	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー a)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日米英の三ヶ国に昔から定住してきた代表的マイノリティ(被差別少数派)の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく解明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要を説明。マイノリティについての概念規定を行なう。 2. 日系人に対する抑圧を生み出した法的根拠と“White Racism”について学ぶ。 3. 第二次大戦中、12万人におよぶ日系アメリカ市民に対する強制収容とその賠償問題を学ぶ。 4. アメリカのユダヤ人差別を告発する映画「紳士協定」の合評会を行なう。 5. 僅か半世紀で被差別マイノリティから強力なエリート集団へ変身した人々がいる。それは在米ユダヤ人社会である。彼等の政治力を生み出した源泉を探る。 6. ユダヤ人不在の我が国においても、すでに1920年代から「ユダヤ人陰謀論」は存在していた。近年米系ユダヤ人団体から激しい抗議を招くにいたったその背景を探る。 7. 日本人が在米ユダヤ人社会の存在を「発見」するのは日露戦争期においてであった。以後、今日に至る恩義と友好の交流史を学ぶ。 8. 在日コリアンの形成史を学ぶ。 9. 差別とたたかう在日コリアンの現状について学ぶ。 10. 在米コリアンが標的としてえりぬかれた92年のロス暴動の背景を探る。 11. 室町時代後期から明治初年までの日本人の黒人認識の変遷をたどる。 日本の政治家による差別発言、在米日系企業による黒人への雇用差別はどのようにして解決されたのかを探る。 12. 奈良県の「部落産業」の現状を紹介した記録映画を通じて部落問題への理解を深める。 13. テキスト合評会, その1 14. テキスト合評会, その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著、「雑学 3 分間, ビジュアル図解シリーズ, ユダヤ」(PHP 研究所, 2009 年) 1200 円		定期試験 70 点 合評会 10 点 出席 20 点 でカウントする。	

養 外言	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー b)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回 10 本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的な場面をピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. " " 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系-日系・中国系・韓国系- 11. ホワイト・エスニック-アイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著, 仮題『映画で学ぶエスニック・アメリカ』(2008 年 NTT 選書) 1600 円		出席はとらない。定期試験のみで評価する。試験は 5 択、20 題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。	

養	多文化共生研究各論Ⅲ（異文化社会の認識と世界観 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。</p> <p>注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。</p>		<p>詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を少しは客観化して考えることができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

養	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。</p> <p>注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。</p>		<p>「世界観」を頭において話をしてゆく。詳細な内容も回数も明示できないが、「創世神話」「祖先崇拜」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅴ（比較社会論） 比較社会論 b	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。</p> <p>またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらおう。そういう形をとって「異文化」の（文化人類学だから内容的には「未開」の）さまざまな家族について知識を得てもらいたい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判的な知見をもてるはずである。</p>		<p>人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらかもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これらのなかから選択して読んでもらうと同時に、希望に応じて発表してもらい、また読まないものについては、その発表を聴くことで知識を得てもらう。何回目は何をするか、授業が始まってから決めることになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
論文は用意する。また、その他、必要と思われる文献については随時紹介する。		出席を取ったり、適宜レポートを提出してもらったりという形で、多少出席を強制したい。これを基礎に、期末提出のレポートで評価をする。	

養 外言	多文化共生研究各論VI (比較文化論) 比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を比較するということが、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。</p> <p>講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例(資料映像・記事など)を用いてディスカッションする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ——異文化を比較すること 2. グローバル化するローカル文化(1) ——情報化社会と文化産業 3. グローバル化するローカル文化(2) ——文化のオリジナリティ 4. 異文化を比較する(1) 時間、空間 5. 異文化を比較する(2) Japanimation と Disney 6. 異文化を比較する(3) 未定 7. 異文化を比較する(4) 未定 8. 文化帝国主義と「英語」使用 9. オリエンタリズムをめぐって 10. 異文化の翻訳「不」可能性について(1) 11. 異文化の翻訳「不」可能性について(2) 12. 文化変容と異文化の融合(1) 13. 文化変容と異文化の融合(2) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート	

養 外言	多文化共生研究各論VIII (地域メディア論) 比較文化論特殊講義 (地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。</p> <p>学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア(1) 5. 各地の地域メディア(2) 6. 各地の地域メディア(3) 7. メディアによる地域文化の創造(1) 8. メディアによる地域文化の創造(2) 9. 多文化共生と地域メディア(1) 10. 多文化共生と地域メディア(2) 11. 多文化共生と地域メディア(3) 12. 受講者による発表(1) 13. 受講者による発表(2) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
早川善治郎編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 田村紀雄編『現代地域メディア論』日本評論社		出席と発表(履修者多数の場合、レポート)	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅶ (大衆文化論) 比較文化論特殊講義(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に 20 世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5 サブカルチャーとグローバリゼーション 1: 日本のロック (流入期～) 6 サブカルチャーとグローバリゼーション 2: 日本のロック (その後～) 7 サブカルチャーとグローバリゼーション 3: 日本のヒップホップ (流入期～) 8 サブカルチャーとグローバリゼーション 4: 日本のヒップホップ (その後～) 9 産業と文化 10 ヤンキー文化とオタク文化 1 11 ヤンキー文化とオタク文化 2 12 複合メディア社会とサブカルチャー1 13 複合メディア社会とサブカルチャー2 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
木本玲一、2009『グローバリゼーションと音楽文化』勁草書房		レポートにより評価する。	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅰ (滞日外国人研究) 比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、日本社会で生活する外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題やアイデンティティについて理解を深めることである。いくつかのエスニック集団を紹介し、特に子ども達が直面する問題について取り上げたい。また、受け入れ社会側の人々が、国際移動してきた人々についてどのように認識し対応しているかといった点についても検討したい。そして、かれらの状況について理解するために、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。</p> <p>なお、本講義では受講者が講義内容を理解しやすいように、新聞記事、テレビ番組などの教材を使用する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本における外国人の概況 3. 人の国際移動と日本 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマーの社会的状況 6. ニューカマーの受け入れ状況 (1) 7. ニューカマーの受け入れ状況 (2) 8. エスニシティと階層 9. 難民の受け入れ 10. 日本で生活する外国人の子どもたち 11. 国際移動とアイデンティティ 12. 差別と「多文化共生」(1) 13. 差別と「多文化共生」(2) 14. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特になし。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は授業時に紹介する。		出席状況 (2/3 以上、20%)、授業内でのレポート (40%)、期末試験 (40%) により評価。	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会） 地域社会文化論特殊講義（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。</p> <p>一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。</p>		<p>はじめに：複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へ</p> <p>ラティーノ（米国のスペイン語系住民）</p> <p>①センサスから見る米国の人種・民族集団概念 ②米国ラティーノの特徴と出身地域ごとの特徴 ③ヒスパニックからラティーノへ：人種化するラティーノ ラテンアメリカから米国への人の移動</p> <p>④なぜ人は移動するのだろうか。 ⑤移動の歴史1：キューバ系とプエルトリコ系 ⑥移動の歴史2：メキシコ系 ⑦移動の拡大と最近の移民規制：北米自由貿易協定と国境線の警備強化</p> <p>チカノ（米国のメキシコ系住民）</p> <p>⑧チカノ・ルネサンス 壁画運動など ⑨セサル・チャベスとチカノ運動 ⑩チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」 ⑪ プエブロ・インディアン：米国先住民とはだれか +メキシコ先住民の米国への移民 ⑫ 米国における多文化主義とラティーノ</p> <p>おわりに</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に必読文献リストを配る		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係） 地域社会文化論特殊講義（カリブ海域の民俗と文化b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。ただ、これだけだとあまりに基礎的な知識を得てもらうだけでつまらないとも考えている。それで、わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」などについて話を挟むことになるかもしれない。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。</p> <p>注：この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活していることだけは確かです。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。</p>		<p>1 カリブ海域鳥瞰 2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介 3 歴史（1） 4 歴史（2） 5 歴史（3） 6 民族・住民——白人と黒人 7 民族・住民——黒人同士（1） 8 民族・住民——黒人同士（2） 9 民族・住民——黒人とインド人 10 言語分布鳥瞰 11 クレオール語の成立 12 各クレオール語解説（1） 13 各クレオール語解説（2） 14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が少ない場合は、何度もレポートを出してもらっても含め、出席を厳しく取る。また提出レポートで評価する。多い場合は、試験にすることも考えている。	

養 外言	国際交流研究Ⅱ（国際協力論） 国際関係概論 a	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。</p> <p>世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。</p> <p>本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 国連と平和維持活動（PKO）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国連憲章とPKO 2. PKOの原則と変遷 3. PKOの具体例：モザンビークの場合 4. 日本のPKO協力法 <p>II. 地域紛争と平和協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 武力紛争と和平交渉：エルサルバドルの場合(1) 6. 和平合意と平和維持：エルサルバドルの場合(2) 7. 地域紛争とPKO：成果と限界 8. 地域紛争終結後の課題 <p>III. 平和協力と開発協力の融合</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み 10. 人間の安全保障 11. 平和構築と復興支援の模索 12. 予防外交と予防開発 <p>IV. 国際協力の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 平和維持・平和構築の課題 14. 日本の国際協力のあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅴ（南北問題） 国際関係概論 b	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。</p> <p>地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約5分の1（約12億人）は1日1ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。</p> <p>本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 地球環境政治</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊 3. 持続可能な開発の模索 4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係 <p>II. 南北問題と開発援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 第三世界諸国の独立とナショナリズム 6. 西側先進国による開発援助戦略 7. 石油危機と第三世界の結束 8. 南々格差の拡大と新しい開発援助戦略 <p>III. 南北問題の争点</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 経済のグローバル化と貧困問題 10. 世界の食糧問題 11. 世界のエネルギー問題 12. 世界の水問題と砂漠化問題 <p>IV. 南北問題の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 国連ミレニアム開発目標 14. 日本の国際協力のあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅲ（国際機構論） 国際機構論 a	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。</p> <p>〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。</p> <p>本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います。</p> <p>この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システムや講義支援システム等を活用して、オンラインでの資料配布や質問の受付等を個別に行い、教員とのコミュニケーションを図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 国際組織と国際法 3 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） 4 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） 5 安全保障に関わる国際組織（1） 6 安全保障に関わる国際組織（2） 7 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8 人権・人道・難民問題に関わる国際組織 9 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 10 開発援助と南北問題に関わる国際組織 11 教育・文化に関わる国際組織 12 国際保健に関わる国際組織 13 海洋に関わる国際組織 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究Ⅳ（NGO論） 国際交流特殊講義（NGO論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する</p> <p>（受講生への要望） 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい。</p>		<p>①～②「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／イラクの現状</p> <p>③～④「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／アフガニスタンの現状</p> <p>⑤スーダンの現状とNGOの取り組み</p> <p>⑥NGOによる復興・開発協力の事例（カンボジア）</p> <p>⑦～⑧ 対地雷の廃絶キャンペーンに学ぶNGOのネットワーク</p> <p>⑨クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割</p> <p>⑩パレスチナ問題を考える</p> <p>⑪アフリカにおけるHIV/AIDSの現状</p> <p>⑫政府開発援助とNGO</p> <p>⑬東アジアのなかの日本と私たち</p> <p>⑭NGOの組織運営と資金</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003年 清水俊弘著 『クラスター爆弾なんてもういらぬ』</p>		<p>レポート提出。平常授業の課題など。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究VI (情報とメディア) マス・コミュニケーション論 b	担当者	森 保裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディア全般の役割、実態、問題点について考える一方、日本の国際ニュース報道、中国や台湾のメディアの在り方について、紹介したい。</p> <p>私は通信社記者として約20年間、国際ニュース、特に中国・台湾を中心に取材。今は編集・論説委員として、中国や台湾に関するフィーチャー記事や論説、コラムなどを執筆している。</p> <p>これまでの経験に基づき、取材や編集の現場でメディアについて感じたこと、考えたことも話したい。</p> <p>日中両国政府は「戦略的互惠関係」の一層の強化をうたっているが、両国民の相手国への感情は冷え込み、現在の日中関係はいわば「民冷官熱」の状態である。</p> <p>日中の一部メディアやインターネット・サイトは狭隘なナショナリズムに立ち、相手国を一方的に非難、不信の連鎖も生じている。</p> <p>中国報道を正しく読み取る方法も考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、メディアの役割 2、国際交流とメディア 3、中国報道 4、中国のメディア 5、台湾報道 6、台湾のメディア 7、報道と人権 8、新聞・論説の功罪 9、テレビの功罪 10、事件報道 11、戦争報道 12、調査報道 13、ネット時代と新聞危機 14、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席、レポート、試験	

養 外言	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a） 国際政治論 a	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視点から検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題－グローバル政治の構造－ 2 国際政治の構造的変動－冷戦構造崩壊の意味－ 3 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機・戦争－（1） 4 現代国際政治の新しい枠組み－湾岸危機・戦争－（2） 5 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（1） 6 現代国際政治の新しい枠組み－ソ連邦の崩壊－（2） 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と平和財 9 世界政治と安全保障財 10 世界政治と人権保障財 11 世界政治と貧困・不平等・不正義 12 世界政治と環境保全財 13 知識財 14 グローバル政治の中の日本 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治と地球公共財』同文館（テキスト）		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b） 国際政治論 b	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向勢力と現状変革志向勢力との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する特質的諸力、政治権力、知識（理論）体系、制度、倫理などから国際政治（世界政治）の弁証法的運動をみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例－戦後日米関係の展開過程－（1） 3 事例－戦後日米関係の展開過程－（2） 4 事例－戦後日米関係の展開過程－（3） 5 事例－戦後日米関係の展開過程－（4） 6 世界政治における物質的諸力－（1） 7 世界政治における物質的諸力－（2） 8 世界政治における権力－（1） 9 世界政治における権力－（2） 10 世界政治における知識（理論）体系－（1） 11 世界政治における知識（理論）体系－（2） 12 世界政治における制度 13 世界政治における倫理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治の弁証法』（亜細亜大学購部ブックセンター）		試験、出欠状況、レポート（任意）による総合評価。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a） 国際経済論 a	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際貿易概観 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーン定理 4 ヘクシャー・オリーン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際資本移動と移民 9 国際資本移動と移民 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 輸入補助金と輸出自主規制 13 輸入補助金と輸出自主規制 14 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験80%、出席20%	

養 外言	国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b） 国際経済論 b	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際収支と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 国際資本移動と財政・金融政策 14 質問とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験80%、出席20%	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a） 日本政治外交史 a	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見てみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—戦後日本と国際環境— 2. 日米戦争への道 3. 米国の占領政策（1）—ローズベルト政権 4. 米国の占領政策（2）—国務省知日派の闘い 5. 米国の占領政策（3）—ヤルタからポツダムへ 6. 敗戦 7. 占領の開始 8. 政党の復活—戦前と戦後 9. 新憲法の誕生（1） 10. 新憲法の誕生（2） 11. 占領改革 12. 戦後日本の出発—政党政治の復活 13. 中道政権の形成と崩壊—改革から復興へ— 14. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964 年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b） 日本政治外交史 b	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から 55 年体制を経て 70 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—国際社会と戦後日本— 2. 吉田茂の再登場 3. 講和への胎動 4. 「全面講和論」の展開 5. 講和をめぐる国際関係 6. サンフランシスコ講和 7. 保守勢力の混迷 8. 「55 年体制」の成立—保守合同と社会党の統一 9. 鳩山・岸内閣 10. 60 年安保騒動と政党政治 11. 高度成長期の政治—池田・佐藤政権 12. 混迷の 70 年代（1） 13. 混迷の 70 年代（2） 14. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964 年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a） 地域経済論 ii a	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、春学期と秋学期との1年間を通じてオーストラリアの経済社会を学ぶ。但し、オーストラリアを理解する上で必要な限り、他のアジア太平洋諸国についても言及する。</p> <p>1990年代以降、今次の世界同時不況に襲われるまで、オーストラリアはOECD諸国の中でトップクラスの好調な経済運営を続け、自国を含むアジア太平洋地域の貿易・投資自由化推進に熱心な国として、また、異なった文化の共生を目指す多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先と知られるようになった。しかし、70年代から80年代の初頭にかけては、この国は経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであり、かつては高関税を張り巡らす保護貿易主義の国、アジア人を非白人種の移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアは何故このような政策の大転換を行ったのであろうか。政策転換はどのような影響をオーストラリアにおよぼしているのであろうか。この講義の目的は、このような課題を解明することにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的の確認。地域研究の意義。中高生用の教材として開発されたビデオによるオーストラリア社会の概観。 2 総論：オーストラリアの社会構造変化の流れ（1） 3 総論：オーストラリアの社会構造変化の流れ（2） 4 植民地建設の経緯：初期条件と担い手の性格 5 要素賦存とステープル産業の成立 6 弱者保護、仲間主義と中国人労働者排斥の論理 7 19世紀後半の高度成長と末期の恐慌の影響 8 戦争と連邦の成立 9 輸入代替工業化と生活給（公正賃金）の保証 10 文化エトス 11 アボリジニ 12 白豪主義の終焉と多文化社会化 13 反多文化主義 14 女性の社会進出、少子高齢化 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会 2007年9月、および、プリント配布。		定期試験	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b） 地域経済論 ii b	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「講義目的、講義概要」は秋学期の講義内容を含めて記してあるのでこれを参照。</p> <p>（注意） 春学期を履修していることを前提にして講義する。春学期を履修していない者は、春学期の授業計画を参考にテキストの該当部分を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 法制度 2 マボ判決の意義 3 政治制度（1） 4 政治制度（2） 5 外交・安全保障政策：冷戦時代 6 外交・安全保障政策：冷戦後 7 金融・財政政策 8 経済構造政策 9 労使関係制度の変遷 10 貿易自由化政策 11 貿易構造と貿易政策 12 外資政策 13 日豪関係（第二次大戦前） 14 日豪関係（第二次大戦後） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
（春期と同じ。但し、主にテキストの内容に沿う講義になるのでプリントの配布量は春期より少なくなる予定）		（春期に準じる）	

養	国際交流特殊研究V (グローバル・ガバナンス a)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。</p> <p>〔注意事項〕 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生が2年生で受講する場合には、「国際交流研究Ⅲ (国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講していることが望ましい (並行しての受講でもよい)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則 8 環境責任論の進展 9 国際環境保全規範と事前防止 10 事前防止の手続的規則① 11 事前防止の手続的規則② 12 国際環境保全とソフト・ロー 13 国際環境保全と国内公法・私法 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

養	国際交流特殊研究VI (グローバル・ガバナンス b)	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。</p> <p>〔注意事項〕 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生が2年生で受講する場合には、「国際交流研究Ⅲ (国際機構論)」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講していることが望ましい (並行しての受講でもよい)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題① 4 地球大気圏・気候変動問題② 5 海洋環境の保全① 6 海洋環境の保全② 7 南極の環境保護 8 廃棄物の越境移動 9 化学物質、原子力と環境 10 自然環境の保全 11 生物多様性の保全 12 環境と貿易 13 環境と武力紛争 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 『地球環境条約集』第4版、中央法規 2003年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

養 外言	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門） 地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらの文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとって、いかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。</p> <p><講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。授業は概説的に進め、2回ほど小報告を挟み、映像などを駆使して理解に資したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ 3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術：建築と彫刻 クーロス像の「左足」の謎 7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀：アスクレピオス信仰の普及 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ 9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛 10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛 11 競技的（アゴン）人間類型 理想的人間とは？ 12 クリエンテラ・パトロネジ関係（親分と子分） 13 民主主義：古代と現代（現代民主主義への視座） 14 まとめ（総括と展望） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。</p>		<p>学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド) アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド) ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド) ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド) 仏教とヒンドゥー教の思想 5. (中国) 孔子と論語の思想と墨子の兼愛 6. (中国) 老荘思想と荀子、韓非子 7. (中国) 儒教の革新—宋学の勃興 8. (中国) 宋学の大成—朱子とその周辺 9. (日本) 古事記、日本書紀と神道 10. (日本) 仏教の伝来と鎌倉仏教思想 11. (日本) 道元と親鸞 12. (日本) 宣長 13. (日本) 仁斉と徂徠 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (インド) 回教の侵入と伝統的インド思想の変化 2. (インド) 近代西洋とインド文化 3. (インド) ガンジーとタゴール 4. (中国) 明学と清学 5. (中国) 資本主義と共産主義 6. (中国) 現代と儒教思想、 7. (日本) 江戸期の思想 8. (日本) 明治維新期の思想 9. (日本) 福沢諭吉、西周、中江兆民 10. (日本) 京都学派の哲学 11. (日本) 現代の思想状況と西欧との関係 12. 東洋思想史の現代的意義 13. 東洋思想史の現代的意義 II 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。</p> <p><講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。図像資料やビデオ映像も使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの対内外戦争 13、 ローマ文明 14、 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 現代社会はヨーロッパにおけるEUの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型としてヨーロッパ文明について考察します。ギリシアローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。</p> <p><講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロスとヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国の位置 7、 イタリアルネッサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 ヨーロッパ統合の思想 12、 第一次世界大戦 13、 大戦後のヨーロッパ 14、 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究VI (倫理学 a)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>倫理学 a では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 代中国の倫理思想 (老子、荘子、孔子、孟子) 2. 古代中国の倫理思想 (告子、墨子、荀子、韓非子) 3. 古代ギリシャの倫理思想 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス) 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想 (エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス) 5. 中世の倫理思想 (アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス) 6. ディスカッション (人間とは何か) 7. 宗教と倫理 (仏教倫理と儒教倫理) 8. 宗教と倫理 (キリスト教倫理とイスラム倫理) 9. 近世の倫理思想 (デカルト、ホブズ、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン) 10. 近世の倫理思想 (ヒュームとカント) 11. 近世の倫理思想 (カント) 12. 均整の倫理思想 (ヘーゲルとキェルケゴール) 13. ディスカッション (人間として何をすべきか、幸福と自然) 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

養	宗教・文化・歴史研究VII (倫理学 b)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければならない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の倫理思想 (儒学と明治思想と和辻哲郎) 2. 進化論と倫理思想 (ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス) 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝 (ブーバーと西田幾多郎) 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 環境と倫理 II 12. 自然と人間 13. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化 a） 地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 国家や民族・宗教・文化などは個々人のアイデンティティ創出に大きな役割をはたしてきました。とりわけ家族や地域共同体といった身近な集団は、日常生活にも深く関与してきたのです。 本講義では古代ギリシアの都市国家ポリスをとりあげ、そこに暮らす市民のアイデンティティ創出に宗教や文化などがどのように関わったのかを検証していきます。</p> <p><講義概要> 古代ギリシア人にとって宗教とは教義も経典もなく、行為として供犠や祭儀を行うことに他なりません。古典期アテナイでは年間120日にも及ぶ祭儀がおこなわれたのです。その中にはアテナイの市民の娘たちも祭儀を通じてポリス存続のために子どもを産むことを自覚していったことがわかります。 このような事例を通じてポリスで暮らす市民や市民の娘たちが自らのアイデンティティをどのように育んでいったかを考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、古代ギリシア人の信仰 3、デルフォイの神託 4、穢れと浄め、呪い 5、エレウシスの秘儀と死生観 6、葬儀、埋葬、墓碑 7、女性と祭儀 8、アスクレピオス神 9、シュンポシオン 10、ディオニュッシア祭 11、ギリシア悲劇 12、ギリシア喜劇 13、オリュンピア競技会 14、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。		学期末の試験と小レポートさらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化 b） 地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 歴史的に形成されてきた生活や思考の様式も含む文化は、多くの遺跡や建造物を残しました。それらは当時の社会や集団の特性を表現しているのです。 古代ギリシア、ローマ世界に見られる遺跡や建造物から、当時の人々との関係を提示し、文化理解の必要性を明らかにしたいと考えます。</p> <p><講義概要> 本講義では、地中海世界で見られる神殿をはじめ、劇場や道路などを生み出した文化的背景について説明します。 また、人々の信仰したキリスト教が、迫害を受けながらもやがて国教となり、ローマ帝国の下での広範な諸地域に広まっていった過程を考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、パルテノン神殿 3、エピダウロスの遺跡 4、シチリアの遺跡 5、ペルガモンの遺跡 6、オリュンポスの神々の変容 7、ローマ建国神話 8、ローマの道路と橋 9、ポンペイ遺跡 10、ディオニュッソス神への信仰 11、ローマ市民と奴隷 12、キリスト教徒への迫害 13、キリスト教の広がり 14、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せずプリントを配布します。また授業時に参考文献を紹介します。		学期末の試験と小レポートさらに出席点を加えて総合的に評価します。	

(春) (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史） 比較思想概論	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
ユダヤ民族の歴史を縦糸に、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較対照を試みます。 これほど宗教・民族に関わる争いが絶えないのはなぜなのかを念頭に、書物を通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ばれる人々の考えを知るだけでなく、映画、絵画、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。		1. 講義概説 2&3. ユダヤ民族の歴史 4. 流浪の民としてのユダヤ民族 5. キリスト教の誕生 6. イスラム教とユダヤ教——イスラム教誕生から十字軍の時代まで 7. オスマントルコ時代の中東における、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の関係 8. ルネッサンス時代 9. イスラム圏における反ユダヤ主義 10&11. 近代における民族主義の誕生とキリスト教圏における反ユダヤ主義 12&13&14. 現代におけるヨーロッパ、中東における反ユダヤ主義	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に資料を配布します		学期末のレポート	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史2） 日本思想史 b	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
扱う範囲と対象 テーマは、「日本の近代と平和に関する思想」とします。 近代（明治維新～戦後）思想の概略と、いくつかの思想（家）を扱います。 概略のみならず思想家等が実際に書いたものを読んで、その今日的な意味を考えます。		0回 ガイダンス 1回 近代以降の概略の説明 2回 近代とはどういうものか——フランス革命の到達点 3回 近代日本の思想配置（戦前まで） 4回 現代の近代批判 5回 日本における近代思想——国民主義（1） 6回 日本における近代思想——国民主義（2） 7回 社会の動きと平和思想の系譜 8回 中江兆民『三酔人経綸問答』を読む（1） 9回 中江兆民『三酔人経綸問答』を読む（2） 10回 福沢諭吉「脱亜論」を読む 11回 近代日本の思想配置（戦後） 12回 現代の思想的展開 13回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		出席と、最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文などを総合的に勘案します。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論VI (アラブ文化・芸術 a) 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イスラム教 (イスラーム) は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン (コーラン) と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒 (ムスリム) 数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』(フランシス・ロビンソン著)の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 セム族と唯一神教 2 預言者モーゼの「十戒」と律法主義 3 偶像崇拜の禁止とキリスト教 4 「最後の預言者」ムハンマド 5 信仰告白、「アッラー以外に神なし。ムハンマドはアッラーの使徒である」 6 アッラーの啓示、メッカ啓示とメディナ啓示 7 預言者ムハンマドのメッカからメディナへのヒジュラ (聖遷) とイスラム暦 8 ウンマ (信仰共同体) とスンナ (預言者の聖行) 9 カリフ (預言者ムハンマドの後継者) の選出とイスラム的民主主義シューラー (相談・協議) 10 第二代正統カリフ、ウマルの称号「信徒の司令官」 11 第四代正統カリフ、アリーとシーア派の誕生 12 シーア派教義「アリーはアッラーのワリー (友)」 13 預言者ムハンマドの孫フセインの「カルバラ殉教」 14 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのか—中東イスラム世界の反ユダヤ主義』(ミルトス, 2008年)		出席率 (50%)、授業態度 (10%) 試験 (40%) による	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論VII (アラブ文化・芸術 b) 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イスラム教 (イスラーム) は西暦7世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン (コーラン) と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒 (ムスリム) 数は約13億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで57か国に及ぶ。</p> <p>本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。毎時限の講義は、</p> <p>(1) テキスト『図説世界文化地理百科イスラム世界』(フランシス・ロビンソン著)の講読</p> <p>(2) イスラム世界のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>なお、テキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 シャリーア (イスラム法) は「水場に至る道」 2 四法源、コーランとハディース (預言者の言行録) 3 イジュマー (合意) とキヤース (類推) 4 「五行」(信仰告白、礼拝、喜捨、ラマダン月の断食、メッカ巡礼) 5 義務の二範疇、「集団的義務」とメッカ巡礼 6 「個人的義務」と「防衛的ジハード」 7 伝統的世界観、「イスラムの家」と「戦争の家」 8 イスラム教の“聖職者”ウラマーとファキーフ (法学者) 9 ホメイニ師のベラヤティ・ファギ (ファキーフによる支配) 論 10 四法学派とワッハーブ派 11 律法主義とスーフイズム (イスラム神秘主義) 12 イブン・アラビーの「存在一性論」 13 トルコの神秘主義教団、ナクシバンディーヤ 14 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのか—中東イスラム世界の反ユダヤ主義』(ミルトス, 2008年)		出席率 (50%)、授業態度 (10%) 試験 (40%) による	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	宗教・文化・歴史特殊研究 I (世界の宗教と文化—一神教と多神教)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的></p> <p>本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化といかに連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的としています。</p> <p><講義概要></p> <p>講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるために役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問や意見が出るのが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアト・ホームな雰囲気の中で講義を進めていくつもりです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々 3 エジプトの宗教と文化（その1） 来世信仰とピラミッド 4 エジプトの宗教と文化（その2） 一神教革命とツタンカーメンの死 5 パレスティナ地域の宗教と文化 大文明の周縁で生きる人々 6 ギリシアの宗教と文化（その1） オリンポスの神々と合理主義 7 ギリシアの宗教と文化（その2） 密儀宗教（エレウシスの秘儀とオルペウス信仰） 8 ヘレニズムの宗教と文化（その1） コスモポリタニズムと内向きの心性 9 ヘレニズムの宗教と文化（その2） 諸神の習合（シンクレティズム） 10 ローマ帝国の宗教と文化（その1）キリスト教 11 ローマ帝国の宗教と文化（その2） 異端とグノーシス主義 12 ローマ帝国の宗教と文化（その3）教会と修道院 13 多神教から一神教への道筋（宗教と道徳） 14 まとめ（総括と展望） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。</p>		<p>学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化） 地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方を参考にする。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらいのかの応答を求められる。</p> <p>外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 「自己」とは何か 5. 「私」と「汝」 6. 「私」と「汝」に関するグループ・ディスカッション 7. 「私」と「汝」に関する全体ディスカッション 8. 「人間」とは何か？ 9. 「人間とは何か」を発する立場について 10. 「人間とは何か」の意味はどこに見いだせるか？ 11. 「人間」は「人間だけ」で人間の存在を正当化できるか？ 12. 「人間とは何か」に関するグループ・ディスカッション 13. 「人間とは何か」に関する全体ディスカッション 14. まとめと質問 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。	

養 外言	日本語教育研究 I (日本語教育概説) 日本語教育論	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、日本語教師を目指す人への授業と限定するのではなく、外国語としての日本語・日本語教育の環境と現状、語学教育全般、等にわたって広く興味を持っている学生のためのものである。日本語教師養成課程を履修する人にとっては、教授法 I とある程度の重なりがあるが、具体的な教育・指導について学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語教育と国語教育の違いを知る。 世界の中における日本語教育の現状を知る。 日本語教育の歴史と現状 さまざまな外国語教授法の紹介 日本語を外国語として概観する。 日本語教師の役割 日本語を外国人に教える、とはどういうことかを知る。 基本的な日本語の仕組みと直接法による指導法 <p>授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 講義の概要と日本語教育の 1 例を紹介する (ビデオ) 日本語教育とは？ ①日本語教育と国語教育の違いについて ②日本語教育の歴史 国内・海外における日本語教育の現状(1) 国内・海外における日本語教育の現状(2) 第二言語習得と学習理論 外国語教授法の歴史と紹介(1) 外国語教授法の歴史と紹介(2) 日本語能力をどのように 捉えるのかー認定基準 コースデザインとシラバス(1) ニーズ分析とレディネス分析 コースデザインとシラバス(2) さまざまなシラバス 日本語のしくみとその指導のポイント(1) 日本語のしくみとその指導のポイント(2) 日本語学校での教室活動とボランティア教室活動の活動例 講義のまとめ <p>上記のコマ配分は、その時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：佐々木康子 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房、2007</p> <p>参考文献：中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版</p>		<p>期末定期試験</p>	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本文化や時事問題について、異文化理解の視点から考察する。授業では、まず、異文化コミュニケーションの基礎概念と学問的なアプローチについて学習する。これらを通じて、日本社会において現実に起こっているコミュニケーション上の問題を分析できるようになることが一つの到達目標である。</p> <p>また、授業においては、日本社会での異文化理解に関する諸問題を扱った発表を課す予定である。発表は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 異文化コミュニケーションの基礎概念① 3 異文化コミュニケーションの基礎概念② 4 日本社会と異文化コミュニケーション① 5 日本社会と異文化コミュニケーション② 6 日本における異文化理解の実践例①（講義） 7 日本における異文化理解の実践例②（発表） 8 日本における異文化理解の実践例③（発表） 9 日本における異文化理解の実践例④（発表） 10 日本の国際交流①（講義） 11 日本の国際交流②（講義） 12 日本の国際交流③（発表） 13 日本の国際交流④（発表） 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献：石井敏他（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣 1997年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房 2004年 その他、授業中に指示する。</p>		出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a） 日本語教授法Ⅰa	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る）。</p> <p>言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ実際に教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。</p> <p>課題研究の発表についてはグループワーク、ペーパーワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般に亘るかなり広範囲の内容になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとコースデザイン（レディス分析とニーズ分析） 2. シラバスとカリキュラム 3. 学習理論・言語習得理論 4. オーティオリソナル 5. コミュニカティブアプローチ 6. 教材・教具論(1) 7. 教材・教具論(2) <課題：教科書評価>グループ内での報告 8. 日本語の音声教育(1) 9. 日本語の音声教育(2) 10. 聴解指導(1) 11. 聴解指導(2) <課題：聴解教材の作成> 12. 聴解教材の検討（実際にグループで評価） 13. 文字の指導(1) 14. 文字の指導(2) <p>上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせて。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント ②『実践日本語教授法』 中西家栄子他 バベル出版 ③その他さまざまな参考文献は授業中に紹介</p>		<p>①課題提出 ②前期テスト ③出席率</p>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b） 日本語教授法Ⅰb	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1. 読解指導(1) 2. 読解指導(2) <課題：読解教材の作成> 3. 読解指導(3) 4. 作文指導(1) 5. 作文指導(2)と評価 6. 文法/文型の紹介 - 初級文型 7. 中級文型の紹介 8. 会話指導 ドリルの種類 - グループでの検討 機械的なドリルからコミュニケーション活動 9. クラス活動全体の展開(1) 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネージメント 10. クラス活動全体の展開(2)<課題：教案の作成> 11. 教案<クラス内でのグループ発表>（文型） 12. 4技能を統括したクラス展開 13. テスト理論)と評価 14. 評価と測定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		<p>①課題提出（教案の作成、その他） ②後期テスト ③出席率</p>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学） 日本語音声学 a	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。</p> <p>そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語音を作るしくみ 2. 母音 3. 子音(1) 4. 子音(2) 5. 有声音と無声音、母音の無声化 6. 特殊音素(1) 7. 特殊音素(2) 8. 拍とリズム 9. アクセント(1) 10. アクセント(2) 11. イントネーション(1) 12. イントネーション(2) 13. 質疑応答 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
国際交流基金『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房。そのほか、適宜プリントを配布する。		期末試験による。出席は取らない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論） 日本語文法論 a	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 形態論としての日本語文法を講ずる。ここで対象とする形態論としての文法とは、発話される実際の形式としての「文」を規制している規則のセットとしての文型文法である。この文法は、日本語教育に即していえば、学習者が初級段階の学習において対象とする学習項目でもある。学習者の初級段階での目標は、この文法を獲得することによって、「文」をつくりだせるようになることである。</p> <p>本授業では、そうした意味をもつ文法について、体系的に理解し、さらに文法的に言語を分析する方法を獲得することを目的とする。</p> <p>〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題をクラスで議論し、発表することによる。文法上の問題をたて、データから解答をつくり、それを解釈して理論とする、ということを授業で実践したい。</p> <p>また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。</p>		第1回 文型文法と形態論 第2回 語の認定と形態素 第3回 名詞と格 第4回 動詞と活用 第5回 形容詞と活用 第6回 動詞の複語尾（1） 第7回 動詞の複語尾（2） 第8回 判定詞 第9回 副詞 第10回 副助詞 第11回 文の型（1） 第12回 文の型（2） 第13回 文型文法 第14回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論） 日本語文法論 b	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 統語論を日本語について講ずる。基本的には理論言語学の架構によるが、生成文法そのものを講義対象とするものではなく、あくまで日本語の「句」について、その統語的なありかたを理解することを中心的な目標とする。</p> <p>日本語教育に即していえば、春学期の形態論が、文型という学習項目と同一視できる表面上の構造をあつかっているのに比較して、実際の発話される形式の基礎にある構造規則をあつかう点で、やや直接的ではないようにおもわれる可能性がある。しかし、学習者が脳内に形成するであろう第2言語体系は、やはりなんらかの言語としての構造をもつはずであり、その知見なくしては下の教育も成立しないはずである。</p> <p>より普遍的な言語理論への階梯として、日本語を資料とした統語論の基本的なかんがえかたを理解する。</p> <p>〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。それを、毎回、授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と、その内容に対する課題をクラスで議論し、発表することによる。また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。</p>		第1回 統語論概説 第2回 句構造 第3回 項 第4回 意味役割 第5回 格表示（1） 第6回 格表示（2） 第7回 時制 第8回 主語 第9回 疑問 第10回 語順変換 第11回 補文（1） 第12回 補文（2） 第13回 統語論と言語学習 第14回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論） 日本語語彙・意味論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 意味論と語用論について学習する。テキストは英語による意味論・語用論のものであるが、言語学の基礎的な意味論の諸問題を理解することを当面の課題とする。</p> <p>言語教育の実際において、教師と学習者の双方から「文法」として意識されている内容の実態は、「文の型式」ではなく、その「意味」であることがおおい。よって本授業では、言語の意味について、それを整理できるような知見の獲得を目標とする。</p> <p>〔講義概要〕 Hofman & Kageyama による『10 Voyages in the Realms of Meaning』を読解することを中心とする。よって授業以前に、各回に担当してあるテキストの各章を予習してることが要求される。</p> <p>毎回の授業では、適宜テキストの読解（翻訳）をもとめるとともに、簡単な解説をくわえる。その後、テキストに付属のエクササイズを日本語に適用した課題について、議論と発表をかさねる。課題は、毎回の授業時に、次回のもので提示されるので、これについてもきちんと予習してることが要求される。</p>		<p>第1回 意味論概説 第2回 意味の意味 第3回 有標性 第4回 否定 第5回 直示 第6回 指向 第7回 法性 第8回 時制 第9回 時相 第10回 文の意味 第11回 文脈と意味 第12回 談話における意味 第13回 意味と語用と言語教育 第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Th. R. Hofman & 影山太郎 共著『10 Voyages in the Realms of Meaning(10 日間意味旅行)』くろしお出版.1993年		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論） 日本語学 b	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が、いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を、文型として獲得することを目標とするとすれば、中級の日本語学習は、複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。</p> <p>この授業では、日本語の談話に、一定の構造を考慮することによって、学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。</p> <p>〔講義概要〕 あつかう対象は、指示・省略・主題・隣接ペア・テンス・モダリティ・丁寧さ・ターンなどであり、右欄の計画にそって進行する。受講者は、毎回の授業前に、該当する資料をよんでくることが要求される。</p> <p>授業は、受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお、ここで要求している「質問」は、むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について、より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。</p>		<p>第1回 談話とはなにか 第2回 指示 第3回 省略と代名詞 第4回 「ハ」主題（1） 第5回 「ハ」主題（2） 第6回 文のムードと隣接ペア（1） 第7回 文のムードと隣接ペア（2） 第8回 テンスとモダリティ 第9回 引用 第10回 丁寧さ 第11回 ターンテイキングなど 第12回 談話と行為 第13回 中上級教育と談話論 第14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析 a） 対照言語学 a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語と他言語との共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p>具体的なクラス運営</p> <p>① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。</p> <p>② 比較対照を行う演習形式をとる。日本語と英語の翻訳文を資料とする。</p> <p>③ 基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、対照研究に関する知見を得ることが主たる目的となるので、他言語との対照比較も可能</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 - 類型から見た日本語 2. 対照研究の歴史 (1) 3. 誤用分析と中間言語 (2) 4. 言語の対照研究の役割と意義 5. 対照研究と日本語音声研究 6. 語順 7. 名詞 8. 形容詞 9. 指示代名詞 - コソアド 10. 人称代名詞 11. 動詞(1) 12. 動詞(2) 13. テンスとアスペクト(1) 14. テンスとアスペクト(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>基本的にはプリントの配布を中心とするが、参考文献として『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）を使用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ①テスト ②課題発表 ③出席率 ④クラス参加 	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析 b） 対照言語学 b	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ理念で授業を行うが、後期には講義と学生による課題発表を中心としたい。比較対照の課題における言語は英語に限定しない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. とりたて「ハ」と「ガ」 2. 省略 3. 受け身・使役 4. 授受表現 5. 敬語 6. 条件文 7. 連体修飾 8. 並列 9. 逆接 「のに」「けれど」 10. 原因 12. 推量 「らしい」「ようだ」 13. 目的を表す表現 14. 誘いを断る表現 <p>上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。</p> <p>引き続き、上記の項目について講義+演習の形で進める。参加者は用例を資料等から探していくことが求められる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> ①テスト ②レポート ③出席率 ④クラスへの貢献度 	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解 a） 日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 a）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本書の購読を通じ、日本語のコミュニケーションの特徴がどのような捉えられ、外国で（ここではアメリカ）紹介されているかを学ぶ。</p> <p>メイナードは、日本人がどのように考え、感じているかを知るには、まず日本語および日本人のコミュニケーションについて学ぶことだと考えている。本書は、日本語及び日本文化に関する基本的な知識を既習している読者向けであると共に、日本人が日本語を通じてどのように相互交流を行っているかについてさらに詳しく理解したいと考えている学習者、日本語教育に従事している者にとっても有益な情報を提供しているとしている。本クラスでは紹介されている内容を再確認するとともに、より具体的な事例を実際のコーパスから探し、クラスで検討するという形式をとりたい。</p>		<p>1.オリエンテーション 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明</p> <p>2.~14. 1コマ1章のペースで進めていく。ただし、長い章、検討課題の多い章については2コマになることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Maynard, Senko K.(1997) <i>Japanese Communication – Language and Thought in Context</i> , University of Hawaii Press		①課題のまとめと発表 ② 期末テスト ③出席率（欠席3回以上はF評価とする）	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅳ（文献読解 b） 日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 b）	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ</p> <p>The purpose of this course is to learn in great detail not only “how the Japanese language communicates, but also “how Japanese people think and feel in their language, how they give the language its meaning, and how through language, they manipulate and create the social reality that defines Japanese culture.”</p>		<p>前期に引き続き、テキストの内容を理解し、検討していく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Maynard, Senko K.(1997) <i>Japanese Communication – Language and Thought in Context</i> , University of Hawaii Press		①課題のまとめと発表 ②試験の得点 ③出席率（欠席4回以上はF評価とする）	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究VI（日本語教育教材論） 日本語学 a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。</p> <p>最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、4技能のうち、1つを選び、教材を作成することが課題となる。</p> <p>具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。</p> <p>**注意：このクラスはかなり日本語教育に特化しているため、日本語教育概論を履修していることが必須であるとともに日本語教育に強い興味を持っている方が履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 教材教具論 3. 教材開発の基本理論 4. コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 5. 機能シラバス 6. コミュニケーションに役立つ日本語教育文法 7. 日本語学的文法から独立した日本語教育文法 8. 学習者の習得を考慮した日本語教育文法 9. 学習者の母語を考慮した日本語教育文法 10. コミュニケーション能力を高める日本語教育文法 11. 聞くための日本語教育文法+聴解教材の開発 12. 話すための日本語教育文法+会話教材の開発 13. 読むための日本語教育文法+読解教材の開発 14. 書くための日本語教育文法+全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版</p> <p>②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他　大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク その他：論文のプリント（クラスで配布）</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 課題の提出 ② 出席率（クラス活動への参加） ③ テスト（論述式） ④ 課題教材の作成 	

養	教育科学研究IV（教職論）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行いません。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について（その1） 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その2） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、服務、身分保障）について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類によります。参考文献は適宜紹介します。		期末レポートと数回の小レポートを総合評価します。	

養	教育科学研究 I（教育の原理）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／「学力論争」をどう考えるか 第2回：教育の思想と歴史（その1）戦後教育改革とコア・カリキュラム運動の思想と実際 第3回：教育の思想と歴史（その2）能力主義教育の思想と実際／新自由主義教育の思想と実際 第4回：学力問題の国際比較（学力調査について）／小テスト実施予定 第5回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第6回：学級編成の問題 第7回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第8回：系統学習と問題解決学習について 第9回：「学力低下」と学力テストについて 第10回：能力を考える（教育基本法第3条） 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP） 第13回：子どもに固有する権利と人権との関係 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介します。		期末試験結果に、感想文や小レポートの提出、実施した場合には小テストの点数等を加味します。	

養	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者のうち、2年生以上を対象とする。</p> <p>●概要 教職課程の基礎理論として教育史、教育哲学、教育行政などの理論や、学力低下や習熟度学習など昨今の教育に関するトピックなど幅広く扱う。 大人数での講義形式となる予定であるが、できるだけ各自で考え、意見交換する時間を設けたい。どう考えるか、自分ならどうするかを考え、積極的に意見交換をしてほしい。</p> <p>●その他 毎回、プリントを配布するが再配布には一切応じない。 講義のまとめや、理解を確認するために小レポートを数回書いてもらう。 また、授業計画は状況により若干変化する可能性がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に関するガイダンス (授業の進め方、評価方法、受講にあたっての注意事項など) 2. 教育とは何か (教育哲学) 3. 学校とは何か (西洋教育史) 4. 学校とは何か (日本教育史) 5. 学校とは何か (まとめ) 6. 心と体を育てる (学力・道徳) 7. 学力低下をどうするか (習熟度学習の是非) 8. 教育評価 (相対評価と絶対評価、偏差値) 9. 教師の仕事 (教員免許更新制) 10. 社会教育と生涯学習 11. 教育基本法 (新法と旧法の違い) 12. 子どもの権利条約 (宣言から条約へ) 13. よりよい教育を求めて 14. 社会の変化と教育政策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田嶋一ほか著『やさしい教育原理 (新版)』有斐閣		学期末テストを基本とし、出席、小レポートや授業中の発言など授業への貢献を加味して評価する。	

養	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者にとって、教職論、教育心理学とともに最初の教育学に関する講義となることを踏まえ、教育学や学校に関する理論を広く俯瞰することを目的とする。</p> <p>●概要 教職課程の基礎理論として教育史、教育哲学、教育行政などの理論や、学力低下や習熟度学習など昨今の教育に関するトピックなど幅広く扱う。 大人数での講義形式となる予定であるが、できるだけ各自で考え、意見交換する時間を設けたい。どう考えるか、自分ならどうするかを考え、積極的に意見交換をしてほしい。</p> <p>●その他 毎回、プリントを配布するが再配布には一切応じない。 講義のまとめや、理解を確認するために小レポートを数回書いてもらう。 また、授業計画は状況により若干変化する可能性がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に関するガイダンス (授業の進め方、評価方法、受講にあたっての注意事項など) 2. 教育とは何か (教育哲学) 3. 学校とは何か (西洋教育史) 4. 学校とは何か (日本教育史) 5. 学校とは何か (まとめ) 6. 心と体を育てる (学力・道徳) 7. 学力低下をどうするか (習熟度学習の是非) 8. 教育評価 (相対評価と絶対評価、偏差値) 9. 教師の仕事 (教員免許更新制) 10. 社会教育と生涯学習 11. 教育基本法 (新法と旧法の違い) 12. 子どもの権利条約 (宣言から条約へ) 13. よりよい教育を求めて 14. 社会の変化と教育政策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田嶋一ほか著『やさしい教育原理 (新版)』有斐閣		学期末テストを基本とし、出席、小レポートや授業中の発言など授業への貢献を加味して評価する。	

養	教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とします。</p> <p>本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（2では近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（教育諸機関、子育て習俗等）および教育思想を扱います。</p> <p>江戸時代には、現代とは全く異なった知的枠組みで思想的営為が行なわれていたため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。</p>		<p>0 ガイダンス</p> <p>1 前近代における「教育」という営み</p> <p>2 子育ての習俗</p> <p>3 江戸時代の二つの知</p> <p>4 江戸時代の教育諸機関とその研究（1）</p> <p>5 江戸時代の教育諸機関とその研究（2）</p> <p>6 日本文化と日本の思想の特質</p> <p>7 キリスト教伝来と日本人の対応</p> <p>8 朱子学と日本の儒学</p> <p>9 江戸時代の思想の流れ</p> <p>10 貝原益軒の儒学と教育思想</p> <p>11 民衆の儒学と民衆の教育</p> <p>12 「学制」による知の統合</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文などを勘案します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究IV（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：教員の資質・能力 第4回：教員養成と教員免許 第5回：教員の任用と教育委員会 第6回：教員の身分と服務 第7回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第8回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第9回：教員の研修 第10回：教員の人事評価 第11回：教職の現代的課題(1) 地域・保護者への対応 第12回：教職の現代的課題(2) 教員の事故・事件 第13回：教職の現代的課題(3) いじめ・不登校問題と非行問題 第14回：教育理念と教育信条</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

養	教育科学研究IV（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに、必要とされる心理学の基礎的知識について講義を通して理解を深めてほしい。</p> <p>教育心理学には大きく（１）測定・評価，（２）人格・適応，（３）発達，（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか，２．教育評価と学力問題，３．学習の過程と学習への動機付け，４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。</p>		<p>授業計画</p> <p>第１回：教育心理学の領域とその歴史</p> <p>第２回：教育測定と教育評価</p> <p>第３回：教育評価の方法</p> <p>第４回：教育評価と学力問題</p> <p>第５回：学習の原理</p> <p>第６回：学習における動機付け</p> <p>第７回：学習意欲と原因帰属</p> <p>第８回：学習意欲と目標理論</p> <p>第９回：学習意欲と教師の役割</p> <p>第１０回：発達期と発達課題</p> <p>第１１回：心理アセスメントと発達障害</p> <p>第１２回：学習障害の理解</p> <p>第１３回：AD/HD の理解</p> <p>第１４回：自閉性障害の理解</p> <p>第１５回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。</p>		<p>出席と学期末の試験により、総合的に評価をおこなう。</p>	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期完結授業のため上記と同様である</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場で仕事を行うにあたっては、さまざまな形で「人間関係能力」といったものが高く要求される。本授業ではその「人間関係能力」の理解を念頭におきつつ、教育現場で活かしていく教育心理学の習得を目指していきたい。</p> <p>最初に、教育心理学のこれまでの知見を踏まえ、人格の形成、発達上の課題、子どもたちにみられる不適応の諸相、学校現場での人間関係について講義していく予定である。</p>		<p>第1回：教育心理学について・オリエンテーション 第2回：人格理論について(1) 第3回：人格理論について(2) 第4回：発達上の課題について 第5回：発達上の課題－乳幼児期の重要性 第6回：発達上の課題－学童期前半 第7回：発達上の課題－学童期後半 第8回：発達上の課題－思春期前半 第9回：発達上の課題－思春期後半 第10回：発達上の課題－それ以降の問題 第11回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(1) 第12回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(2) 第13回：学校現場でみられる「不適応」の諸相(3) 第14回：学校現場での人間関係－「人間関係能力」を活かす</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜レジュメを使用する。参考文献は、授業の中で適宜紹介する。		出席状況と期末試験の結果から、総合的に評価する。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方 第2回：学校・生徒の現状と学校教育の課題 第3回：教育心理学の課題 第4回：人間の成長と発達の原理 第5回：発達段階と発達課題 第6回：児童期までの発達 第7回：青年期の発達 第8回：社会性・道徳性の発達 第9回：学習の原理 第10回：内発的動機づけと学習意欲 第11回：個人差と教育／障害のある生徒と教育の課題 第12回：アイデンティティの形成 第13回：教育測定と評価 第14回：教師の自己点検 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。	

養	教育科学研究VI（こころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：科学としての心理学とは・ 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格理論 8. 性格の形成 9. ストレス①：ストレスと性格 10. ストレス②：ストレス・コーピング 11. ストレス③：ストレスの生理心理学 12. 現代社会とこころの病① 13. 現代社会とこころの病② 14. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		出席、小レポート、試験により評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。</p> <p>【概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校選択制、小中高一貫教育 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校評議員、学校運営協議会 第14回：教育改革の現状と課題(3) 初任者研修、教員免許更新制度</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的</p> <p>教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻く様々な法や制度について、基本的な理解をすると同時に昨今の教育改革動向について自身の意見を持つことを目的とする。</p> <p>●講義概要</p> <p>2.～6. までは日本の制度に関する基本的な講義となる。それらの知識をもとに7. 8. では他国の教育制度とともに「なぜそうなっているのか」を解説する。9. から11. まで現在日本が対応を迫られている教育状況とそれに対して制度がどのようになっているのかを考える。それらを含め、最後にこれからの日本の教育制度はどうあるべきかについて議論をしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 2. 学校の制度と組織 3. 教室内の制度と組織 4. 私立学校の制度と組織 5. 日本の公教育制度 6. 日本の中央・地方の教育行政 7. アメリカの教育制度 8. アジアの教育制度 9. 在日外国人の教育と人権 10. ジェンダーと女子教育 11. 不登校とオルタナティブ 12. 教育情報と情報公開 13. 我が国の教育制度改革 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		テスト、レポート、出席状況などを総合的に評価する。	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的</p> <p>教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻く様々な法や制度について、基本的な理解をすると同時に昨今の教育改革動向について自身の意見を持つことを目的とする。</p> <p>●講義概要</p> <p>2.～6. までは日本の制度に関する基本的な講義となる。それらの知識をもとに7. 8. では他国の教育制度とともに「なぜそうなっているのか」を解説する。9. から11. まで現在日本が対応を迫られている教育状況とそれに対して制度がどのようになっているのかを考える。それらを含め、最後にこれからの日本の教育制度はどうあるべきかについて議論をしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 2. 学校の制度と組織 3. 教室内の制度と組織 4. 私立学校の制度と組織 5. 日本の公教育制度 6. 日本の中央・地方の教育行政 7. アメリカの教育制度 8. アジアの教育制度 9. 在日外国人の教育と人権 10. ジェンダーと女子教育 11. 不登校とオルタナティブ 12. 教育情報と情報公開 13. 我が国の教育制度改革 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		テスト、レポート、出席状況などを総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>教育課程論は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育課程に関する課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で教育課程の作成業務を遂行するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『実践に活かす教育課程論・教育方法論』を使用し、講義形式で、教育課程について説明する。さらに、単元計画や学習指導案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 教育課程の基本原則 1 3 教育課程の基本原則 2 4 学習指導要領 1 5 学習指導要領 2 6 教育課程と学習内容 1 7 教育課程と学習内容 2 8 新しいカリキュラム 1 9 新しいカリキュラム 2 10 カリキュラム開発 1 11 カリキュラム開発 2 12 単元計画と学習指導案の作成演習 1 13 単元計画と学習指導案の作成演習 2 14 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏，林尚示，牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』，学事出版，2002年。		出席回数，授業時の学習態度，レポートによる総合評価。	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程 4 教育課程編成の理論と方法(1) 5 教育課程編成の理論と方法(2) 6 教育課程編成の理論と方法(3) 7 学習指導要領と教育課程(1) 8 学習指導要領と教育課程(2) 9 学習指導要領と教育課程(3) 10 学習指導要領と教育課程(4) 11 新学習指導要領の検討 中学校 12 新学習指導要領の検討 高等学校 13 教育課程と評価 14 教育課程と学力問題 再考 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	教育科学研究各論Ⅲ (カウンセリング論) 人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.講義の概要 2.カウンセリングとは何か 3.カウンセラーの役割と資格 4.カウンセラーの世界 (相談機関) 5.カウンセリングと心理療法 6.クライアント中心カウンセリング (1) 7.クライアント中心カウンセリング (2) 8.精神分析的カウンセリング 9.認知行動カウンセリング 10.傾聴の理論 11.傾聴の実習 12.ロールプレイの実習 13.心理テストの実施 14.講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅳ (パーソナリティ理論) 人間関係とカウンセリング b	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人の行動の特徴を表す言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。</p> <p>本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。</p> <p>さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.講義の概要 2.パーソナリティとは何か 3.パーソナリティの類型論 4.パーソナリティの特性論 5.パーソナリティ形成の諸理論 6.パーソナリティの発達 7.青年期のパーソナリティ 8.成人期・老年期のパーソナリティ 9.文化とパーソナリティ 10.フラストレーションと葛藤. 11.防衛機制 12.パーソナリティ・テストの種類と方法 13.パーソナリティ・テストの実施 14.講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこで教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。</p> <p>必要に応じて、グループディスカッションやテープやビデオを用いた実習を行ない、単なる理論についての知識だけでなく、教育相談の技法やカウンセリングの応答についての技法を習得する。</p>		<p>第1回：オリエンテーション 第2回：学校カウンセリングとは 第3回：学校という場の特徴 第4回：学校における教育相談 第5回：教職員相互の連携について 第6回：カウンセリングとガイダンスの方法 第7回：カウンセリングの基礎と応用（1）日常会話とカウンセリングでの会話 第8回：カウンセリングの基礎と応用（2）応答の技法 第9回：不登校の事例検討（1）小学生の事例 第10回：不登校の事例検討（2）中学生の事例 第11回：いじめの事例検討（1）孤立したケース 第12回：いじめの事例検討（2）グループ内で起きたケース 第13回：その他の問題（1）親や家族の問題 第14回：その他の問題（2）発達障害 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		授業中に与える小課題や実習レポートなどから評価する。	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数に限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。</p>		<p>第1回：この授業の目標と進め方</p> <p>第2回：学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性</p> <p>第3回：カウンセリングとは</p> <p>第4回：カウンセラーの役割、教師の役割</p> <p>第5回：生徒理解と援助のポイント(1)：「不登校」を考えるワーク（理解と対応）</p> <p>第6回：生徒理解と援助のポイント(2)：「いじめ」その他の諸問題</p> <p>第7回：カウンセリングの実際(1)：紙上応答実習（「合格できるかなあ」「友達がいらないんです」）</p> <p>第8回：カウンセリングの実際(2)：良い面接と問題のある面接（テープを聞く）</p> <p>第9回：カウンセリングの理論と技法(1)：諸理論の人間観と治療目標・技法の比較</p> <p>第10回：カウンセリングの理論と技法(2)：諸理論に共通する基本的技法（傾聴、応答、反映、他）</p> <p>第11回：学校カウンセリングと心理テスト</p> <p>第12回：キャリアカウンセリングの基礎</p> <p>第13回：保護者への援助：コンサルテーション</p> <p>第14回：校内組織その他の利用と連携</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。</p> <p>参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究 I (異文化理解教育)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的</p> <p>グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかでもはや学校も「異文化」を扱わざるを得なくなっている。</p> <p>本講義では異文化と教育という関わりを広く扱う。</p> <p>●講義概要</p> <p>2. から 6. までは日本の状況を考える。7. から 10. までは移民を受け入れるアメリカなどの状況を概観し、日本と比較する。最後に様々な理由で学校に行くことができない子どもの現状について触れ、そのような子どもたちに対して学校は、大人はなにができるかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講にあたってのガイダンス 2. 日本における国際理解教育 (外国語教育) 3. 日本における国際理解教育 (総合的な学習の時間) 4. 日本における国際理解教育 (先進事例) 5. 日本における特殊事例 (GKA、朝鮮学校) 6. 日本における国際理解—総括 7. 諸外国における国際理解教育 (1) 8. 諸外国における国際理解教育 (2) 9. 諸外国における国際理解教育 (3) 10. 諸外国における国際理解教育—総括 11. 学校に行けない子ども (1) 12. 学校に行けない子ども (2) 13. 学校に行けない子ども (3) 14. 学校に行けない子ども—総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		レポート、出席や授業への貢献等を評価する	

養	教育科学研究各論VI (こども論)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的</p> <p>子育てと子育て支援 (政策) について学ぶ。</p> <p>●講義概要</p> <p>1～2では、歴史編として江戸時代の子どもがどのように育てられたのか、そして現在のような子育てがいつから始まったかを明らかにする。4から12はいわば子育て・しつけの行う主体に焦点を当てて「現代」を扱うことになる。それらを踏まえ、13、14ではこれからの子育てはどうか (どうあるべきか) を考えていくこととする。</p> <p>●要望</p> <p>受講人数にもよるが、できるかぎりディスカッションの時間をとりたい。積極的に発言してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講にあたってのガイダンス 2. 子育ての歴史① 3. 子育ての歴史② 4. 家族の変動① 5. 家族の変動② 6. 家族と男女に関する国際比較① 7. 家族と男女に関する国際比較② 8. 子育て支援①イギリス 9. 子育て支援②スウェーデン 10. 日本における少子化 11. 日本における少子化対策 12. 地方における子育て支援 13. 子育て支援の展望① 14. 子育て支援の展望② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する		レポート、出席、授業への貢献などを評価する	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。</p> <p>授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 知覚の特性①（概説） 4. 知覚の特性②（実験・調査） 5. 知覚の特性③（レポート発表） 6. 知覚のまとめ 7. 記憶①（概説） 8. 記憶②（実験・調査） 9. 記憶③（レポート発表） 10. 言語と記憶①（概説） 11. 言語と記憶②（実験・調査） 12. 言語と記憶③（レポート発表） 13. 記憶のまとめ 14. 認知工学と脳 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要ない資料は配付する。		レポートと授業での発表内容による。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
半期完結授業のため春学期と同様である			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかめます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。</p> <p>2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は8千円程度）。</p> <p>3. 合宿で6コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は8回程度とします。2回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。</p> <p>4. 教職課程に登録している必要はありません。</p> <p>5. 履修登録の上限を30名とします。</p> <p>6. 秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。春学期は全学共通授業科目「現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語る a）」または「現代社会 2（教育の現場：教師と語る a）」となります。</p>		<p>1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介</p> <p>2～3 生活指導とは何か（テキスト使用）</p> <p>4～7 実践記録を読む</p> <p>8 合宿参加のまとめ</p> <p>合宿は12月中の土・日、場所は埼玉県内（森林公園の予定）です。 北関東の先生方も参加される予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900円）		出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に、自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後は、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（1,700円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。</p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の成り立ちと種類 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. ストレス・コーピング 5. 絵からみる家族像 6. 知能検査 7. 感情指数 8. 職業興味 9. 仕事と自己理解 10. 将来の夢 11. グループ・ワークによる自己理解① 12. グループ・ワークによる自己理解② 13. グループ・ワークによる自己理解③ 14. 検査結果のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。</p>		<p>各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。</p>	

養	教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 今、私達は様々な形でスポーツを楽しむことができます。競技として、趣味としてスポーツをプレーしたり、健康のために実践したりすることや、観戦してスポーツの魅力を味わうこともあります。スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。その身体機構を理解することで実践するときにも観戦するときにも個人個人でよりスポーツの魅力を感じることができるといえます。そこで本講義では運動中の身体各部の機能や適応について理解すること、そして各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。</p> <p>〔講義概要〕 講義内容は基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。そしてスポーツパフォーマンスの向上にかかせないトレーニング科学や栄養学などについても取り上げます。実際にスポーツ中の生理データを測定したり（受講生同士、グループに分かれて）、ビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 身体の基本的な機能 3. 動きをコントロールする 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. エネルギー供給機構 6. 運動と循環（基礎編） 7. 運動と循環（実践編：心拍数を測ってみよう） 8. トレーニングの基礎 9. スポーツを科学の目で分析する① 10. スポーツを科学の目で分析する② 11. スポーツと栄養 12. こども・高齢者・しょうがい者とスポーツ 13. トップアスリートを取り巻く環境 14. まとめ <p>*講義の内容の順番は変わる可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。	

養	教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、大きく揺れ動く社会の変化に直面している現代社会で、現実には起こっている変動にどう対応していくかの重要性について考えていきたい。</p> <p>このことはスポーツの世界においても然りである。スポーツの大衆化、国際化が進展し、スポーツが政治、経済、社会、文化、さらには我々の生活のあらゆる側面に深くかかわっている。スポーツは個人のレクリエーションとしての楽しみ、健康の維持増進、学校体育の一活動境域、地域共同体の行事として政治経済の動向にも大きな影響を与えている。</p> <p>スポーツは、個人または集団が、相手と力や技能を競ったり、自然の障害を克服したりすることを楽しむ活動である。スポーツの場は、人間の最高能力の発揮にかかわるものであり、その心理的解明は重要である。</p> <p>現代社会におけるスポーツを的確に分析し、スポーツの意義や諸問題について理解を深めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの意義 2. 現代社会の変化とスポーツ 3. スポーツの広がり スポーツ人口構造 4. 少子高齢社会とスポーツ その1 5. 少子高齢社会とスポーツ その2 6. 商業主義とスポーツ スポーツにはお金がかかる 7. スポーツの社会病理 スポーツと環境問題 8. スポーツとマスメディア 9. スポーツ適正について 10. スポーツ技術の基礎 身体運動のイメージ 11. スポーツ技術の基礎 スポーツ技術の練習・指導法 12. チームの心理 スポーツとチーム 13. チームの心理 チームの力学 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院 松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店		出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決定する。	

養	教育科学特殊研究VI (リーダーシップ論)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。</p> <p>互いの指導を題材に、ふりかえりと相互評価を行い、リーダーシップに求められる要素を考えていく。</p> <p>個人発表では、自らの経験とリーダーシップ理論との関連で作成したレポートを発表し、全体で討議する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 リーダーシップとは 3 リーダーシップ理論 1 4 リーダーシップ理論 2 5 問題解決活動 6 問題解決活動指導計画の作成 7 問題解決活動の指導 1 8 ふりかえりと相互評価 1 9 問題解決活動の指導 2 10 ふりかえりと相互評価 2 11 教育におけるリーダーシップとは 12 個人発表と討議 1 13 個人発表と討議 2 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布する。		出席、授業への取り組み姿勢、個人発表	

養	教育科学特殊研究VII (体育経営スポーツマネジメント)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>体育経営スポーツマネジメントの基礎を学び、実践・実習することを授業の目的とします。</p> <p>授業で学んだ項目に関して、身近な事例を調査してもらい、発表したり、話し合ったり、レポートを作成、提出してもらいます。</p> <p>コミュニケーションのために顔写真1枚を貼った受講票の作成をしてもらいます。</p> <p>ゲストを招いての授業も予定しています。</p> <p>定員があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 第1週 ガイダンス 第2週 スポーツマネジメントの概念 第3週 研究、理論、そして実践 第4週 第1回調査テーマの設定 *第5週と第6週は学外での調査活動 (個人で) 第7週 第1回調査報告 第8週 第2回調査テーマの設定 *第9週と第10週は学外での調査活動 (複数で) 第11週 第2回調査報告 第12週 ミーティング 第13週 スポーツマネジメントの将来展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介します。		授業への参加、レポート、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価します。	

養 外言	教育科学特殊研究Ⅷ（ボランティア論） ボランティア論	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ボランティアの諸様相について検証し、基本的ボランティアの組織（NPO・NGO）活動を理解。 原義である自主性・無償性・社会性と歴史的意義と活動を現代社会の中で実施検証していくフィールドワークである。 歴史的・社会的変遷と関連事項（宗教・医学）の探索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情（優しさ・介護心・いたわり）の表現と活用の意義を理解し、社会的位置（小地域的・組織的・国際的）の研究と組織的な協力関係や団体のマネジメント能力の基本的知識の把握 救急法の体得（心肺蘇生術） （介助・手話の知識習得） 手話入門・草加市探訪</p>		<p>①青柳 講座ガイダンス・班編成 ②青柳 草加市の福祉施策について ③青柳 キャンパス内のボランティア ④学外講師1) 社会・養護施設・日常での必要性 ⑤学外 (老人体験・介助研究) ⑥学外講師2) 手話 ⑦救急法1) 災害時の応急法について ⑧救急法2) 心肺蘇生法 ⑨青柳 NPOマネジメントについて ⑩学外講師2) 組織運営の基礎と実情について ⑪青柳 モチベーションとコミュニケーションについて ⑫和田 (災害を想定して、自然の中での生活体験 ⑬青柳 草加市探訪・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		実験実技を重んじる講座である 出席重視・レポート提出による評価	

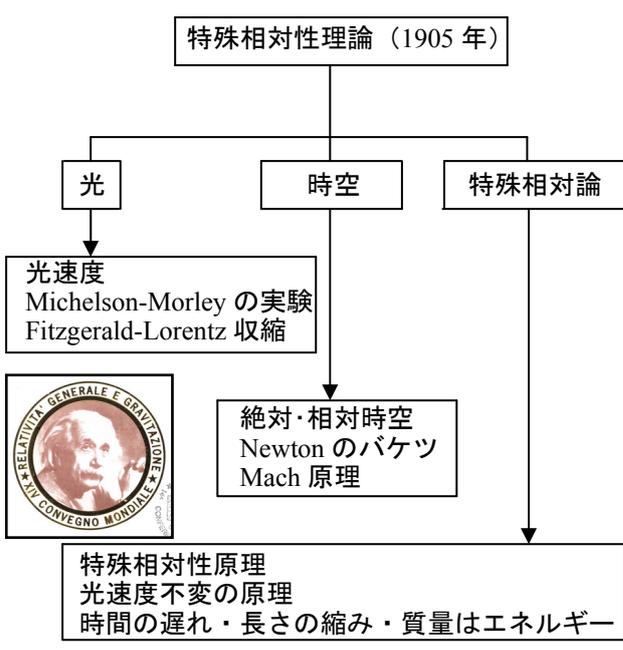
		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

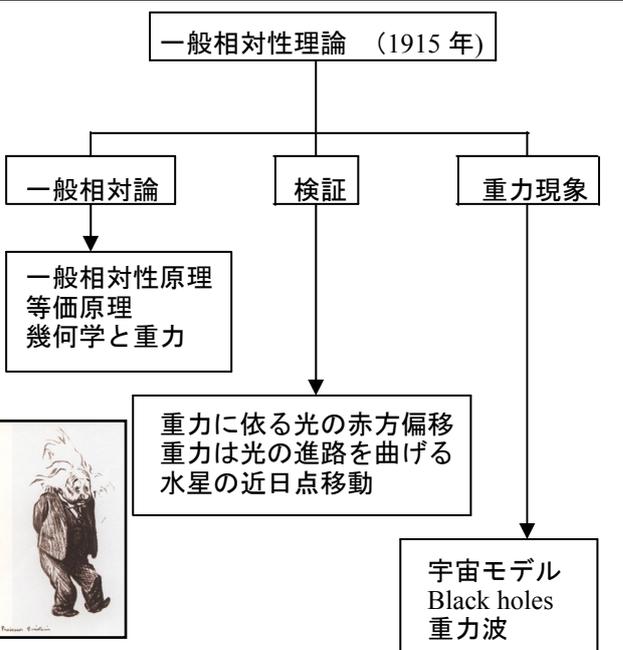
養	自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。</p> <p>「自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間・空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートンの宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10. 一般相対性理論 11. 時空の幾何学化 12. 一般相対論的宇宙論 13. 時間とは何か 14. 最新の時間空間概念 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

養	自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。</p> <p>「自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 不確定性関係 9. 観測の問題 10. 相対論的量子論 11. 素粒子の世界 12. 統一理論 13. 宇宙の進化 14. 最新の物質観 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

養	自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <p>① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。</p> <p>② 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。</p> <p>③ 講義・演習を通して、微分学の知識を実際の現象解析に使えるようになればと思います。</p> <p>④ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>		<p>講義概要</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[微分学] --> B[関数・逆関数 y = f⁻¹(x)] A --> C[極限 limₓ→a f(x)] A --> D[微分 ∂z/∂x, ∂z/∂y] B --> E[有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数] C --> F[極限值 Achilles と亀 0.9 = 1] D --> G[常微分・偏微分 極値 最小二乗法] </pre> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『数学読本』松坂 和夫 著・岩波書店)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

養	自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <p>① 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学（積分・微分方程式）」を学びます。</p> <p>② 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦勞です。</p> <p>③ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を実際の現象解析に使えるようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。</p> <p>④ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>		<p>講義概要</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[積分学] --> B[積分 ∫ f(x)dx] A --> C[微分方程式 f(x, y, y', y'', ..., y⁽ⁿ⁾) = 0] B --> D[不定積分 初期条件 部分積分法] C --> E[変数分離形 (人口問題) 1 階線形 (美術品の贋作) 2 階線形 (ロケットの飛行)] </pre> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身 です。	

養	自然・環境研究Ⅴ（宇宙論 a）	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりとさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った発想の転換、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆ 簡単な数学も必要に応じて使います。 <p>(テキスト)・(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所) 		<p>講義概要</p>  <pre> graph TD A[特殊相対性理論 (1905年)] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E[光速 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮] C --> F[絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理] D --> G[特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー] </pre> <p>☆ 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。</p>	
<p>(テキスト)・(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所) 		<p>評価方法</p> <p>☆ 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。</p>	

養	自然・環境研究Ⅵ（宇宙論 b）	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ② “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で検証され、重力をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題（Dark energy など）も交えながら学びます。 ③ 発想の転換に因る独自の考えは、用心深く実践する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ④ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ⑤ 簡単な数学も必要に応じて使います。 <p>(テキスト)・(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所) 		<p>講義概要</p>  <pre> graph TD A[一般相対性理論 (1915年)] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E[一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力] C --> F[重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動] D --> G[宇宙モデル Black holes 重力波] </pre> <p>① 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。</p>	
<p>(テキスト)・(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所) 		<p>評価方法</p> <p>① 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。</p>	

養 外 言	自然・環境研究Ⅷ (天文学 a) 地球環境論 a (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生(?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ❖ 『(太陽系)天文学 a』(太陽)では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学の立場から学びます。What is the Sun? ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ❖ 簡単な数学も必要に応じて使います。 		<div style="text-align: center;"> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善) 		<ul style="list-style-type: none"> ❖ 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。 	

養 外 言	自然・環境研究Ⅷ (天文学 b) 地球環境論 b (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> * 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう?地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 * 『(太陽系)天文学 b』(太陽系天体)では、『(太陽系)天文学 a』の知識を前提に The Solar system = The Sun's family (除・太陽)を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。 * 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 * 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 * 簡単な数学も必要に応じて使います。 		<div style="text-align: center;"> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> * (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善) 		<ul style="list-style-type: none"> * 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。 	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a） 地球環境論 a(地理学)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、気候や植生との関連から世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、環境の諸要素を概観し、特に気候・植生の特色、成因、構造について学習する。その後、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式をスライド、VTRを用いながら説明する。最後に、自然生態系と社会生態系の概念について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3)熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1)自然的特色 9. 沙漠地域(2) 文化的特色と伝統的経済活動 10. 沙漠地域(2)石油資源と近代化、沙漠の開発 11. 亜寒帯森林地域(1)タイガの自然と生活 12. 亜寒帯森林地域(2)タイガの森林開発 13. 亜寒帯森林地域(3)タイガの地下資源開発 14. まとめー自然生態系と社会生態系 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房</p>		定期試験を主体とし、出欠状況を加味する。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b） 地球環境論 b(地理学)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、地形を中心にしながら、資源・産業・開発との関連を重視しつつ、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>世界の地形環境を概観することからはじめ、地形の成因、構造、人間生活とのかかわりを学習し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し自然生態系と社会生態系の枠組みを理解して、共生と循環を基調とする持続可能な生活様式を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地帯(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地帯(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 温帯混合林地帯(3) 産業の発展と都市問題 12. 世界の環境問題ー地球環境問題の諸相 13. 世界の環境問題ー環境破壊と保全 14. まとめー持続可能な生活様式 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房</p>		定期試験を主体とし、出欠状況を加味する。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅲ (科学技術交流史研究 a) 国際交流特殊講義 (蘭学を学んだ人たち a)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要 生態学的大国と称せられている日本の自然は他国と共通の種類が多数生息している一方、日本独特の生物 (固有種) も多数いる。 本講義ではその日本の自然の特色を紹介しながら我々日本人が自然をどう捉えてきたかを、時代をおって説明する。</p> <p>履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<p>次の内容の講義を数回ずつ行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界における日本の地理的位置 (基礎的な歴史・地理の試験をします) 2 中国から学んだ博物学 1 3 中国から学んだ博物学 2 4 普遍種 (北半球に共通の種類) 1 5 普遍種 (北半球に共通の種類) 2 6 普遍種 (北半球に共通の種類) 3 7 産業革命以後の博物学 1 8 産業革命以後の博物学 2 9 進化論 1 中世の博物学 10 進化論 2 ダーウィンの役割 11 19世紀は探検の時代 12 Plant Hunter の活躍と日本 13 江戸の園芸 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト (随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅳ (科学技術交流史研究 b) 国際交流特殊講義 (蘭学を学んだ人たち b)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 地球規模で自然をどのように守るために我々はどうすべきかを考える。</p> <p>講義概要 日々のニュースの中から、保護に関する出来事を紹介しつつ、学生諸君にも考えてもらう。</p> <p>履修者の資格 高校レベルの世界歴史、日本史、地理、身近な動植物名等は知っていることを前提といたしますので、それらに疎い学生の登録をお断りいたします。</p>		<p>次の内容の講義を数回ずつ行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本に来た欧州人 1 (日本の紹介) 2 日本に来た欧州人 2 (Kaempfer 以前) 3 日本にきた欧州人 3 (Kaempfer) 4 日本に来た欧州人 4 (Thunberg) 5 江戸時代の科学 1 (平賀源内) 6 江戸時代の科学 2 (化政期の同好会) 7 出島に来た博物学者 (シーボルト 1) 8 出島に来た博物学者 (シーボルト 2) 9 出島に来た博物学者 (ビュルガーほか) 10 シーボルトの弟子たち (伊藤圭介) 11 シーボルトの弟子たち (大河内存真) 12 蘭学者の系譜 13 蘭学と獨協学園 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		出席重視、小テスト (随時行う)、複数回のレポート提出、期末考査を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることが目標とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物名に関心があること。 普通の春植物取りあえず 100 種を認識できること。 		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7月の花 1 13 7月の花 2 14 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることが目標とする。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることが目標とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、地理が好きであること。 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること。 		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12月の花 1 13 12月の花 2 14 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 身近な植物 100 種以上認識できること。 		1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 詳細は 1 回目の講義で説明する。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 身近な植物 100 種以上認識できること。 		1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	多言語情報処理研究 I (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) <ul style="list-style-type: none"> OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 <ul style="list-style-type: none"> コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「文科系学生のための情報活用」(共立出版) 各担当教員の指定する参考文献を使用する。</p>		<p>担当教員より指示する。</p>	

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「文科系学生のための情報活用」(共立出版) 各担当教員の指定する参考文献を使用する。</p>		<p>担当教員より指示する。</p>	

養	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報化社会において、資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。</p> <p>本講義では、データベースやWWW検索エンジン、質問応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス：情報検索の基本 2 情報検索の基礎技術 3 データベースとシソーラス 4 図書の検索 5 雑誌の検索 6 新聞の検索 7 WEB検索エンジン：ロボットとインデックス 8 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（1）（断片情報による検索） 9 インターネット検索・検索エンジンによる検索／演習（2）（地図・経路検索演習） 10 検索結果の評価 11 ファクト情報の検索 12 質問応答システムの演習 13 情報検索総合演習 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 必要に応じて資料を配布する。		出席、レポートおよび期末試験により、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論IV (データベース)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし、実際に作成をおこなってもらい、そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとデータベース調査 2. データベース概論 3. Access の基本操作(1) 4. Access の基本操作(2) 5. Access の基本操作(3) 6. テーブル 7. テーブルと結合 8. クエリ(1) 9. クエリ(2) 10. データベース作成演習(1) (分析方法の演習) 11. データベース作成演習(2) (分析方法の演習) 12. データベース作成演習(3) (関係データ分析) 13. データベース作成演習(4) (テーブルの作成) 14. データベース作成演習(5) (クエリの作成) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2007』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

養	多言語情報処理研究各論IV (データベース)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし、実際に作成をおこなってもらい、そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとデータベース調査 2. データベース概論 3. Access の基本操作(1) 4. Access の基本操作(2) 5. Access の基本操作(3) 6. テーブル 7. テーブルと結合 8. クエリ(1) 9. クエリ(2) 10. データベース作成演習(1) (分析方法の演習) 11. データベース作成演習(2) (分析方法の演習) 12. データベース作成演習(3) (関係データ分析) 13. データベース作成演習(4) (テーブルの作成) 14. データベース作成演習(5) (クエリの作成) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2007』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。</p> <p>・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？</p> <p>・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？</p> <p>・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？</p> <p>私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。</p>		<p>第1回 (1) 英語学習実態調査 ～アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ ～テスト問題作成</p> <p>第2回 (1) データを集めてみよう ～統計量の種類(量的変数・質的変数): 比例変数, 間隔変数, 順位変数, 名義変数 (2) データの傾向を見よう ～度数分布, 相対度数, 度数分布表 (3) データをグラフ化しよう ～量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現</p> <p>第3回 データの特徴を数値で表そう その1 ～代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト</p> <p>第4回 データの特徴を数値で表そう その2 ～正規分布, 散布度(標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値</p> <p>第5回 データを採点しよう(これまでのまとめ) ～表計算ソフトによる採点・集計</p> <p>第6回 テストを見直す ～信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析</p> <p>第7回 偶然か, 特殊能力か? ～記述統計と推測統計, 仮説(帰無仮説, 対立仮説)</p> <p>第8回 学習時間と成績には関係があるか? ～相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定</p> <p>第9回 あさがお観察日記 ～対応がない場合のt検定, 分散分析</p> <p>第10回 ダイエット観察日記 ～対応がある場合のt検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析</p> <p>第11回 出身地と種類の好みに関係はあるか? ～クロス集計, カイ二乗検定</p> <p>第12回 駅前出店計画 ～判別分析</p> <p>第13回 おいしい料理のための食材分量 ～重回帰分析</p> <p>第14回 隠れた傾向を探り出す ～主成分分析, 因子分析</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み: 統計データ分析入門』(秀和システム, 2004) ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験(60%)+平常授業におけるまとめ(40%)) x 出席率	

養 外言	多言語情報処理研究各論Ⅵ（コーパス言語学） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語教育のための、コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。 よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自体が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。 なお、コンピュータについての専門的な知識はまったく必要ないが、日本語分析についての知識は、あるほうがのぞましい。</p> <p>〔講義概要〕 授業は、教員が簡単なモデルを提示したあと、練習問題をだすので、それを受講生が実習するという形式を原則とする。 さらに簡単なコーパスの設計と組み立て、それを利用した簡単な研究を課題としてあたえるので、履修者には、課題をこなして、発表することがもとめられる。</p>		<p>第1回 コンピュータとDOS</p> <p>第2回 テキストファイル</p> <p>第3回 コーパスの設計と構築</p> <p>第4回 データのダウンロード</p> <p>第5回 テキスト処理・検索(1)</p> <p>第6回 中間発表(コーパスの設計)(1)</p> <p>第7回 中間発表(コーパスの設計)(2)</p> <p>第8回 テキスト処理・検索(2)</p> <p>第9回 テキスト処理・検索(3)</p> <p>第10回 形態素解析・茶筌(1)</p> <p>第11回 形態素解析・茶筌(2)</p> <p>第12回 最終発表(コーパスによる分析)(1)</p> <p>第13回 最終発表(コーパスによる分析)(2)</p> <p>第14回 最終発表(コーパスによる分析)(3)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講後指示する。		発表と出席で評価する。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理 a） 自然言語処理 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3 自然言語処理の予備知識 4 形態素解析（1） 形態素解析の原理と方法 5 形態素解析（2） 日本語と英語の形態素解析実験 6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7 構文解析（1） 文脈自由文法、句構造文法 8 構文解析（2） 構文解析の原理と実験 9 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10 コーパス、言語データベースの構造と使い方 11 言語の統計処理技術 12 言語統計モデル 13 総合演習 14 授業のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理 b） 自然言語処理 b	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術である意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 意味論： 自然言語の意味論、フレーム理論 2 意味解析： 意味解析の方法と実験 3 文脈解析： 談話構造、照応問題の対処法 4 知識の表現法 5 文書処理（1） 言い換え、文書校正 6 文書処理（2） 自動要約の原理 7 機械翻訳（1） 機械翻訳の処理方式と原理 8 機械翻訳（2） 機械翻訳システムの使用と評価 9 自然言語質問応答システム 10 情報検索における言語処理技術 11 対話システム 12 自然言語処理システム 13 総合演習 14 授業のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示します。 (2) 必要な資料を配布します。 		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅲ (プログラミング論 a) プログラミング論 a(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義はMS-Excel (表計算ソフト) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきたExcel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成されるVBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (1) 5 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (2) 6 第1 回目課題の作成 7 VBA の基礎 (1) コードの入力 8 VBA の基礎 (2) コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第2 回目課題の作成 10 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (1) 11 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (2) 12 最終課題の作成 (1) 13 最終課題の作成 (2) 14 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅳ (プログラミング論 b) プログラミング論 b(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義はMS-Excel (表計算ソフト) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel でデータ処理を行う過程において、計算式や関数などを利用するが、毎回同じ一連の操作を繰り返して行う必要性が発生する場合がある。そのような場合、同じ一連の操作内容を記録・登録することで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。この機能を「マクロ」機能という。</p> <p>基本的なマクロの作成を通して、これまで習得してきたExcel の基本操作をスキルアップする、またマクロ機能で自動的に作成されるVBA(Visual Basic for Application)の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>初回の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 計算式および関数の復習 3 マクロ機能について 4 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (1) 5 簡単なマクロ (成績処理) の作成と実行 (2) 6 第1 回目課題の作成 7 VBA の基礎 (1) コードの入力 8 VBA の基礎 (2) コード入力で簡単なゲームを作成する 9 第2 回目課題の作成 10 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (1) 11 マクロ (テーブル参照) の作成と実行 (2) 12 最終課題の作成 (1) 13 最終課題の作成 (2) 14 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 初回の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を配布する。 		授業中に指示する課題 (30%) と出席状況 (20%) と最終課題 (50%) で総合評価を行う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語情報処理特殊研究V (コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ハードウェアとソフトウェア 2 ファイル編成とデータベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム (DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 情報システムを支える技術 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13 総合演習 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

養	多言語情報処理特殊研究VI (マルチメディア論)	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>動画・音声など、いまやインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ただたんに指示通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。</p> <p>いろいろの手法はあるが、ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。</p> <p>もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後よりいっそうの進化にもつなげられるものとしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. イラストの作成 ① 3. イラストの作成 ② イラストの作品制作 4. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン。 5. シンボルの制作, 保存。レイヤーの利用。 6. 作品の制作 ① 7. トゥイーンアニメーション 8. テキストを使ったアニメーション 9. 写真の利用 10. サウンドの貼り付け 11. HPの作成, アップロード 12. 作品の制作 ② 13. 作品の制作 ③ 14. 作品の制作予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜提示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	青柳 多恵子/松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要 この科目用にクラスを編成し、2人の教員の授業を各7回受けます。 詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>第1週 教室で授業のガイダンスと顔写真1枚を貼った受講票の作成を行い、トレーニングルームに移動して学生証に利用可能になる登録を行います。 更衣する必要はありません。 写真1枚と学生証を用意して出席してください。</p> <p>第2週 実技開始 青柳担当の6回または7回は屋内のアリーナで行います。 ボールルームダンスを行う予定です。 松原担当の6回または7回は屋外の人工芝グラウンドで行います。 ソフトボール、サッカー、硬式テニス、フットサル、などなどの球技を行う予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	言語文化概論	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。</p> <p>文化とは、ある集団に共通のもの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。</p> <p>言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。</p> <p>遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。</p> <p>コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。</p> <p>多くの文化・言語が減ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 12. ウソとコトバの魔術 13. つづき 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. つづきとまとめ <p>毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りませ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社)</p> <p>下川 浩『どうしてそんなにダメされる?』『生きたコトバづかい』(国際語学社)ほか</p>		<p>授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダメされる?』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。</p>	

外言	言語文化概論	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。</p> <p>文化とは、ある集団に共通のもの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。</p> <p>言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。</p> <p>遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまな民族に分かれ、言語も異なってきました。</p> <p>コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。</p> <p>多くの文化・言語が減ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人が出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ 2. 動物の伝え合い 3. コトバによる伝え合いとよらない伝え合い 4. 伝え合いの手段・産物である言語とは？ 5. 世界にはどのような言語があるのか？ 6. 民族の形成 7. 文化の形成・変化 8. 民族と宗教 9. 民族と国家 10. 少数民族問題と民族・地域紛争 11. はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ 12. ウソとコトバの魔術 13. つづき 14. 話し合いによる平和で豊かな世界の建設 15. つづきとまとめ <p>毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りませ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社)</p> <p>下川 浩『どうしてそんなにダメされる?』『生きたコトバづかい』(国際語学社)ほか</p>		<p>授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダメされる?』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。</p>	

外言	日本語研究概論 a	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていかうことは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。</p> <p>この授業では、主に、文法範疇の中の時をあらわす表現について学びながら、表現された結果である「文」の背後にある現象の見え方の違いについて考えていくことを通して、言葉を客観的に捉える視点を培うことを目的とする。その上で、日本語の文の構造の基本を理解する。</p> <p>講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。</p> <p>また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要について <ul style="list-style-type: none"> —各自、受講理由を書いて提出 2. 言葉とは何か 3. 文法とは何か 4. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —テンス① 絶対テンスについて 5. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —テンス② 相対テンスについて 6. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —テンス③ まとめ 7. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —アスペクト① 8. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —アスペクト② 9. 時の表現から見えること <ul style="list-style-type: none"> —アスペクト③ 10. 日本語の文の構造について <ul style="list-style-type: none"> —コト 11. 日本語の文の構造について <ul style="list-style-type: none"> —ムード 12. 日本語の文の構造 <ul style="list-style-type: none"> —まとめ 13. 文と文章 14. まとめと質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回配布するプリント		テスト	

外言	日本語研究概論 b	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉は、私達にとって生きていく上で欠かせないものである。だが、誰もが無意識に言葉をあやつっているために、あらためて、自分にとって言葉とは何か、ということを考える人は少ない。しかし、言葉をいかに使っていかうことは、その人の人生の質までも決めてしまうかもしれないほど、重要なことなのである。</p> <p>それを肝に銘じて、自分なりの言葉観を育めるようにしてほしい。</p> <p>この授業では、日本の国語学者たちが、どんな意識によって文法研究をしてきたのかを考えながら、日本語の文の構造を学ぶ。</p> <p>講義形式ではあるが、例題を解きながら解説をしていくので、授業時において主体的に取り組むことを望む。</p> <p>また、高校までの国文法をざっと復習してから受講すること。留学生は、自分が勉強した教科書等の文法用語をしっかり覚えておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要について <ul style="list-style-type: none"> —各自、受講理由を書いて提出 2. コトバの構造と文法観 3. 文とは何か <ul style="list-style-type: none"> 「桜が咲く」は文か 4. 日本語の文についての研究史① 5. 日本語の文についての研究史② 6. 「言語過程説」という考え方 7. 日本語の文の構造 8. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> —南不二男による4つの分類① 9. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> —南不二男による4つの分類② 10. 文の階層構造 <ul style="list-style-type: none"> —南不二男による4つの分類③ 11. 文章の構造① 12. 文章の構造② 13. 日本語の文章の特徴 14. まとめと質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回配布するプリント		テスト	

外言	日本文学	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本文学の代表的な作家である村上春樹の小説を読みながら、その意味とはどのようなものか見ていきたいと思う。村上春樹の小説のキーワードとなるのは、大人になることと、そのときに失ってしまったものの喪失感であると、私は考えています。このようなテーマを通して、村上春樹の短編小説である「鏡」「100パーセントの女の子」「パン屋襲撃」「パン屋再襲撃」「トニー滝谷」などを読んでいこうと考えています。この中で、「100パーセントの女の子」「パン屋襲撃」「トニー滝谷」は映像化されているので、ビデオを見ながら内容を検討していきたいと考えています。</p> <p>また、前期中に村上春樹の長編の一つ読んでもらいたいと考えています。</p> <p>以上、村上春樹の短編を読むことを通して、村上春樹がなぜ国際的に高い人気を持っているかについて、まとめとして触れてみたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 村上春樹について 2 「鏡」① 通過儀礼について 3 「鏡」② 4 「100パーセントの女の子」① 失ってしまったもの 5 「100パーセントの女の子」② 6 全共闘世代の1970年という時代 7 「パン屋襲撃」① 青春の怒り 8 「パン屋襲撃」② 9 「パン屋再襲撃」① 取り戻した青春の後悔 10 「パン屋再襲撃」② 11 「トニー滝谷」① 双子の主題 12 「トニー滝谷」② 13 「トニー滝谷」③ 14 村上春樹はなぜ国際的に人気があるか。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 参考文献は、授業中に指示します。</p>		<p>出席 レポート 試験</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	日本研究特殊講義(能楽論)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。</p> <p>この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明していきます。</p> <p>また、一作品を教材として、他の芸能にどのような影響を与えたかを考察します。</p> <p>春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。</p> <p>「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能楽を演じる各役 ⑤ 能舞台について ⑥ 能の演技について (実演) ⑦ 能の演目について I ⑧ 能の演目について II (実演) ⑨ 新作能について ⑩ 夢幻能と現在能 ⑪ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 I ⑫ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 II ⑬ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 III ⑭ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

外言	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平安時代の末期に生き、悲劇のヒーローとして膾炙されている「源義経」のその生涯は能の作品に多く取り上げられています。そのうちの「安宅」を教材として、作品の解釈・鑑賞、さらに他の芸能(歌舞伎・映画)にどのように転化していったかを、ビデオ鑑賞を取り入れ比較・検討します。</p> <p>秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 源義経の生きた時代 I ② 源義経の生きた時代 II ③ 能のなかの源義経 I ④ 能のなかの源義経 II ⑤ 能「安宅」の解釈と鑑賞 I ⑥ 能「安宅」の解釈と鑑賞 II ⑦ 能「安宅」の解釈と鑑賞 III ⑧ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 I ⑨ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 II ⑩ 黒澤明監督作品における「安宅」 ⑪ 映像のなかの能 ⑫ 「安宅」と「勸進帳」の比較 I ⑬ 「安宅」と「勸進帳」の比較 II ⑭ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	日本語音声学 b	担当者	磯村 一弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度の「日本語音声学 b」は、履修システムの関係で、対象となる学生が少ないため、「多くても数人」になるという話を聞いている。</p> <p>そこで、今年度は少人数での授業を想定し、外国人に対する日本語音声教育について、より深く具体的に考えていく授業としたい。機会があれば、単音の実際的な発音訓練や、ディスカッション、簡単なリサーチ、模擬授業等を行うことも予定している。</p> <p>受講にあたっては、次の全ての要件を満たしていることが必要である。</p> <p>1.日本語音声学の基礎的な知識を有すること（具体的には、「日本語音声学 a」の内容をほぼ理解しているレベル）。</p> <p>2.将来、何らかの形で日本語教育に関わっていきたいという意志・希望を持っていること。</p> <p>3.日本語の音声または音声教育について、具体的な興味や問題意識を持っていること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声を教える前に 2. 日本語の母音と子音(1) 3. 日本語の母音と子音(2) 4. 日本語の母音と子音(3) 5. 日本語の母音と子音(4) 6. 長音、促音、撥音 7. 拍とリズム 8. アクセント(1) 9. アクセント(2) 10. イントネーション(1) 11. イントネーション(2) 12. 音声を教えるときに 13. 質疑応答 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
国際交流基金『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房。そのほかの参考文献は、授業中に適宜指示する。		期末試験またはレポートによる（受講者の人数によって決める）。授業でのパフォーマンスも考慮する可能性もある。ただし、出席は取らない。	

外言	日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習中心の授業である。</p> <p>〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業となる。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察する。観察を通じ、各人が教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法</p> <p>2回目～ 担当者による模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語』 『日本語の教え方の秘訣』スリーエーネットワーク		①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート(授業観察のまとめと自己分析) ④出席によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	日本語教授法Ⅱ	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。</p> <p>登録者数にもよるが、各自、少なくとも2回程度の模擬授業を行うことになる。</p> <p>**注意： 1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。</p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ー 復習 ④動詞の活用と分類 ー 復習 ⑤ドリル作成 ー 復習 ⑥授業観察シートの書き方</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業 授業担当者は1回につき2名。 30分の模擬授業と15分の質疑応答</p> <p>指導内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など</p> <p>模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2回 1回目はペアで、2回目は一人で行う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク</p>		<p>①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート （「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より1週間後以内に提出）④出席</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	日本語教授法Ⅱ	担当者	野村 美知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行うための準備教育であり、演習中心の授業である。</p> <p>毎回、学生による模擬授業を行う。模擬授業の担当者は事前に教員に教案を提出し、指導を受けながら授業の準備を進める。模擬授業担当以外の学生は、仮の学習者となって授業を受けるが、その際授業の進め方も客観的に観察する。授業後、全員で担当者の行った教室活動や指導法について具体的に講評しあい、授業の改善を目指す。</p> <p>担当回数と模擬授業時間は人数によって決めるが、全体を通して少なくとも1人2～3回は行う。</p> <p>周到的準備とリハーサルを行ったうえで模擬授業に臨むことが求められる。</p>		<p>1回目①オリエンテーション ②分担の取り決め、スケジュール決め ③初級の学習項目（確認） ④教案の書き方（確認） ⑤ドリルとアクティビティー ⑥授業観察の方法 ⑦評価方法説明 ⑧参考文献紹介</p> <p>2回目以降：担当者による模擬授業と各授業について全員での講評</p> <p>必ず1回目から出席すること。2回目から模擬授業を行うので、そのつもりで参加すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク） 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 教え方の手引き』		①模擬授業の準備と実践 ②事前の教案提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析） ④授業への参加度	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	通訳翻訳論	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。</p> <p>学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。</p> <p>学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。</p> <p>授業ではビデオやDVDを多く利用しますので、欠席しないようにしてください。</p>		<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 通訳の実例研究（香港返還記念式典）</p> <p>第3回 会議通訳の実際</p> <p>第4回 司法通訳（外国人の人権を守る）</p> <p>第5回 放送通訳とコミュニティ通訳</p> <p>第6回 ガイド、芸能・スポーツの通訳</p> <p>第7回 通訳訓練法 通訳の原理</p> <p>第8回 学期前半のまとめ</p> <p>第9回 日本における翻訳通訳の歴史（1）</p> <p>第10回 日本における翻訳通訳の歴史（2）</p> <p>第11回 日本における翻訳通訳の歴史（3）</p> <p>第12回 翻訳と通訳の理論（1）</p> <p>第13回 翻訳と通訳の理論（2）</p> <p>第14回 通訳と翻訳の理論（3）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義資料はインターネット上からダウンロードしてください。昨年度と同じものを使用します。 http://nikka.3.pro.tok2.com/dokkyo/dokkyo08a.html</p>		<p>平常点（出席率）50%、期末試験50%で評価します。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2005 をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。</p> <p>基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic 2005 でプログラミングの演習を行う。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説 2. Visual Basic 2005 の概略 3. 簡単なプログラム作成 (1) 4. 簡単なプログラム作成 (2): 四則演算 5. 簡単なプログラム作成 (3): キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成 (1) 7. 選択のあるプログラム作成 (2) 8. 選択のあるプログラム作成 (3): オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成 (4): リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成 (1): If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成 (2): Case 文、While 文 12. 総合問題作成 13. 総合問題作成 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣, 児玉 靖司著『実習 Visual Basic 2005—だれでもわかるプログラミング (実習ライブラリ)』、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。</p> <p>本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2005 をプログラミング言語としてとりあげる。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習 2. プログラミング論 a の復習 3. 図形の処理 (1): 直線を描く、曲線を描く 4. 図形の処理 (2): 円を描く、色を塗る 5. 図形の処理 (3): Windows の画像処理 6. 図形の処理 (4): ドラッグアンドドロップの利用 7. 音声、動画の処理: 音声を録音する、音声を再生する 8. 配列とコントロール配列: 一元配列、コントロール配列の利用 9. プルダウンメニュー: コンボボックス、プルダウンメニューの利用 10. ファイルの利用 (1): テキストファイルの読み込み 11. ファイルの利用 (2): 画像ファイルの読み込み 12. ファイルの利用 (3): シーケンスファイルの作成 13. ファイルの利用 (4): シーケンスファイルの読み込みと利用 14. インターネットの利用: Visual Basic 2005 とホームページとのリンク 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣, 児玉 靖司著『実習 Visual Basic 2005—だれでもわかるプログラミング (実習ライブラリ)』、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。</p> <p>そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。</p> <p>基本的な命令から始め、それらを組み合わせるようなプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題を講義支援システムで提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 文字の表示:講義と実習 4 簡単な計算:講義と実習 5 関数の利用:講義と実習 6 飛び越し命令:講義と実習 7 条件判断による分岐:講義と実習 8 複数判断による分岐:講義と実習 9 選択用コントロールによる分岐:実習 10 回数指定による繰り返し:講義と実習 11 条件指定による繰り返し:講義と実習 12 多重ループ:講義と実習 13 総合問題作成1:実習 <p>いろいろなオブジェクトを組み合わせで作成する</p> <ol style="list-style-type: none"> 14 総合問題作成2:実習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの分割:講義と実習 2 プログラムの構造化:講義と実習 3 配列の処理:講義と実習 4 配列の入出力:講義と実習 5 文字列の処理:講義と実習 6 文字列の演算:講義と実習 7 図形の描画:講義と実習 8 画像の取り扱い:実習 9 ファイル処理と記憶装置:講義と実習 10 シーケンシャルファイルの処理:講義と実習 11 ランダムファイルの処理:講義と実習 12 ファイルダイアログコントロール:講義と実習 13 インターネットの利用:講義と実習 <p>Visual Basic.NET とホームページとのリンク</p> <ol style="list-style-type: none"> 14 総合問題作成:実習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Java 言語を用い、コンピュータープログラミングの基礎を学びます。</p> <p>コンピューターの仕組・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。</p> <p>課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。</p>		<p>1：ガイダンス：コンピュータの仕組・操作法</p> <p>2：プログラムとは、考え方</p> <p>3：データ型・変数・出力</p> <p>4：入力・演算子・式</p> <p>5：条件判断・分岐(1)</p> <p>5：条件判断・分岐(2)</p> <p>7：繰り返し(1)</p> <p>8：繰り返し(2)</p> <p>9：復習問題</p> <p>10：メソッド(1)</p> <p>11：メソッド(2)</p> <p>12：文字と文字列</p> <p>13：配列</p> <p>14：総合問題、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートを総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。</p> <p>課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。</p>		<p>1：ガイダンス、オブジェクト指向とは</p> <p>2：Java の基本的な構文の復習</p> <p>3：クラスの概要</p> <p>4：クラスとインスタンス</p> <p>5：フィールドとローカル変数</p> <p>6：コンストラクタ</p> <p>7：復習問題</p> <p>8：継承 (1)</p> <p>9：継承 (2)</p> <p>10：メソッドのオーバーライド</p> <p>11：ポリモーフィズム</p> <p>12：例外処理とファイル入出力</p> <p>13：GUI ツールキット</p> <p>14：総合問題、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートを総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。</p> <p>講義概要: コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic .Net を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説: ハードウェア及び、システムの構成と概略 2. ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略 3. プログラム開発手順: PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ 4. Visual Basic の概略: イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略 5. 簡単なプログラム作成(1): アプリケーション開発手順、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成(2): 四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成(1): アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成(2): 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成(3): オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成(4): リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し(1) 12. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し(2) 13. 総合問題作成: いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。 14. 総合問題作成: まとめとプレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		春学期：レポート：70% ネットワーク上に提出 定期試験：30%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。</p> <p>講義概要: コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。</p> <p>さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic.Net を用いて解説し、演習を行う。また、インターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについて講義と演習を行う。</p> <p>最後に、自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図形の処理(1): 講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎 2. 図形の処理(2): 講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る 3. 図形の処理(3): 講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用(1) 4. 図形の処理(4): 講義と実習 タイマーの利用(2) 5. プログラムの構造化(1): プログラムの分割と構造化 6. プログラムの構造化(2): Sub プロシージャと Function プロシージャ 7. 音声・動画の処理: 講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション 8. 配列とコントロール配列: 講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列 9. プルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 10. メニューエディタの利用: メニューエディタの編集と利用 11. ファイルの利用(1): 講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用 12. ファイルの利用(2): 講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用: 13. インターネットの利用: 講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク 14. まとめ: 講義と実習 課題の説明と作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		秋学期：レポート:60% ネットワーク上に提出 定期試験：40%	

外言	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点 (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない</p> <p>重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 (2 回) ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト</p> <p>本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Days 9-10 (リーディング) 13. 小テスト・リーディング実力診断テスト 14. アンケート・自己評価レポートの説明 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp) 		出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 20% 期末テスト 20%	

外言	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点 (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない</p> <p>重要事項： ・教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 (2 回) ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト</p> <p>本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. 小テスト・リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Days 9-10 (リーディング) 13. 小テスト・リーディング実力診断テスト 14. アンケート・自己評価レポートの説明 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp) 		出席 20%、学習記録 20% 学習プランと自己評価レポート 20% 小テスト 20% 期末テスト 20%	

外言	地域経済論 iii a	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は21世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。</p> <p>日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中国経済の全般的な動向 (1) 2 中国経済の全般的な動向 (2) 3 世界の工場か、世界の市場か? (1) 4 世界の工場か、世界の市場か? (2) 5 社会主義市場経済とは何か? (1) 6 社会主義市場経済とは何か? (2) 7 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (1) 8 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (2) 9 国有企業改革はどこまで進んだか? (1) 10 国有企業改革はどこまで進んだか? (2) 11 農村はいかに変化したか? (1) 12 農村はいかに変化したか? (2) 13 失業率は本当に低いのか? 14 金融は中国経済のアキレスけんか? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第2版』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

外言	地域経済論 iii b	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国経済の発展をめぐる内的な課題と、対外貿易の発展、外資導入などの経済成長への役割、近年中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。</p> <p>貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。また東アジアにおける経済統合の実現可能性も取り上げる。</p> <p>地域経済論 iii a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 輸出は成長のエンジンか? (1) 2 輸出は成長のエンジンか? (2) 3 外資は何をもたらしたか? (1) 4 外資は何をもたらしたか? (2) 5 中国は国際社会にとって脅威か? (1) 6 中国は国際社会にとって脅威か? (2) 7 日中関係はいかにあるべきか? (1) 8 日中関係はいかにあるべきか? (2) 9 持続成長は可能か? (1) 10 持続成長は可能か? (2) 11 成長の果実は誰の手に? (1) 12 成長の果実は誰の手に? (2) 13 21世紀における東アジア経済と中国経済 (1) 14 21世紀における東アジア経済と中国経済 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第2版』日本評論社、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

外言	地域社会文化論特殊講義（東西文化を結ぶもの a）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，西洋側の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。</p> <p>（講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し，それぞれ3回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 A；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 C；十字軍・レコンキスタとその時代。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 D；イスラエルの歴史からみた，ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p> <p>13 まとめ1</p> <p>14 まとめ2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる	

外言	地域社会文化論特殊講義（東西文化を結ぶもの b）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。</p> <p>（講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し，それぞれ3回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 F；アジアにおけるさまざまな近代化。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 G；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 H；現在のイスラエル，旧ソ連諸国，旧ユーゴスラビア諸国などにおける民族・宗教意識の関連。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p> <p>13 まとめ1</p> <p>14 まとめ2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史——アブラハムから中東戦争まで——』（中公新書）		レポートによる	

外言	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活 a)	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。</p> <p>とくにアマゾン森林で代表される南アメリカの熱帯林を題材として取りあげ、熱帯林生態系の特徴を、気候・土壌・水文条件などさまざまな自然地理的視点から解明する。また、熱帯林の資源としての価値、人為的変化に対する脆弱性などについて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要、担当者の研究紹介など 2. 熱帯植生の諸タイプ 3. 世界の熱帯林・南アメリカの熱帯林 4. 熱帯林の相観的特徴 5. 熱帯林生態系の物質生産と物質循環 6. 熱帯林成立の気候・水文環境 7. 熱帯林成立の土壌環境 8. 熱帯林のバリエーション(1) 氾濫原林の生態 9. 熱帯林のバリエーション(2) 白砂植生と貧栄養環境 10. 熱帯林のバリエーション(3) マングローブ林の生態 11. 遺伝子資源としての熱帯林(種の多様性) 12. 再生の困難な熱帯林 13. 熱帯林消失と自然環境変化 14. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>斎藤功ほか編『環境と生態』古今書院、1990年 クリス・C. パーク著・犬井正訳『熱帯雨林の社会経済学』農林統計教会、1994年</p>		<p>期末レポートと出席状況を総合して行う。</p>	

外言	地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活 b)	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>熱帯林の生態とその開発の現況を展望し、人間と風土のかかわり合いを地理学的視点から考察する。</p> <p>とくに、現在その開発による環境破壊が世界的関心を引き起こしているアマゾン川流域(アマゾニア)に焦点を当て、熱帯林地帯における人々の生活、開発の歴史、生産活動などについて理解する。また、アマゾニア熱帯林の消失要因やその持続的開発の方策について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. アマゾニアの自然環境 3. アマゾニアの居住の歴史 4. アマゾニアの先住民文化 5. 多様な植物資源とその採取活動 6. 天然ゴム産業の盛衰 7. 木材生産地としての熱帯林 8. アマゾン河口部の自然と生活 9. アマゾン中流部の農牧業の展開 10. アマゾニアにおける森林消失の進行 11. アマゾニア森林の消失要因(1)焼畑 12. アマゾニア森林の消失要因(2)農業入植 13. アマゾニア森林の消失要因(3)牧場化と大豆栽培 14. アマゾニアの持続的開発に向けての努力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>グールディング他著(山本・松本訳)『恵みの洪水ーアマゾン沿岸の生態と経済』同時代社、2001年。</p>		<p>期末レポートと出席状況を総合して行う。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	国際機構論 b	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する知識を提供することを目的とします。</p> <p>〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。</p> <p>本講義では、履修者が国際法の知識を有することを前提とはしませんが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します。</p> <p>また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システムや講義支援システム等を活用して、オンラインでの資料配布や質問の受付等を個別に行い、教員とのコミュニケーションを図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 国際組織の概念と歴史 3 国際法の基礎知識 4 国際組織の設立と解散 5 国際組織の国際法上の地位 6 国際組織の国内法上の地位 7 国際組織と加盟国 8 国際組織間の連携・協力 9 国際組織と NGO（民間団体） 10 国際公務員 11 国際組織の意思決定 12 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13 国際組織に関する事例研究 14 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
横田洋三編著『新国際機構論 上』（国際書院）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語文化学科では、卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。</p> <p>なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。</p> <p>しかし、諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて、早い時期から取り組む必要がある。</p> <p>諸君の努力に期待する。</p>		<p>執筆指導は、各担当教員の指示に従うこと。</p> <p>提出には、PCの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。</p> <p>提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示による		学科の申し合わせによる	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		春学期参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

03年度以降（春）	総合講座（音楽とことば・文学①）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料、生演奏等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハの《マタイ受難曲》における音楽とことば〉 2. 前沢浩子（本学英語学科准教授）〈シェイクスピアと音楽〉 3. 佐藤亜紀子（リユート奏者、東京芸術大学教育研究助手）〈リユート音楽（レクチャーコンサート）〉 4. 佐野康子（本学英語学科専任講師）〈多様なアフリカの人と文化〉 5. 渡部重美（本学ドイツ語学科教授）〈詩を読むための作法～韻律論入門～〉 6. 下川浩（本学ドイツ語学科教授）〈ドイツ歌曲〉 7. 高橋雄一郎（本学交流文化学科教授）〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（1）〉 8. 高橋雄一郎（ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（2）） 9. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈象徴主義の詩と歌曲〉 10. 若森栄樹（本学フランス語学科教授）〈フランスのシャンソンにおける言葉と音楽〉 11. 原成吉（本学英語学科教授）〈Poetry in Music – Ballad tradition & Bob Dylan〉 12. 原成吉（Music in Poetry – Poetry Performance of Gary Snyder） 13. 前原恵美（有明教育芸術短期大学専任講師）〈歌舞伎における音楽描写について〉 14. 木村佐千子（標題音楽について）〈まとめ〉 <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03年度以降（秋）	総合講座（音楽とことば・文学②）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハのカンタータにおける音楽とことば〉 2. 児嶋一男（本学英語学科教授）〈O'Conner の“Famine”から映画 <i>Once</i> まで ——U2 やエンヤの国の様変わり〉 3. 上野直子（本学英語学科教授）〈レゲエの根っここと根無しのカリブ〉 4. 上野直子〈ラサの Bob・東京の“Redemption Song”〉 5. 森立子（日本大学非常勤講師）〈フランスのバロック・オペラ〉 6. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈オペラにおける人間表現〉 7. 谷口亜沙子（本学フランス語学科専任講師）〈「カルメン」をめぐって〉 8. 諏訪功（元本学ドイツ語学科特任教授、一橋大学名誉教授）〈「音楽とことば」。音楽とことばに共通する線的性質〉 9. 近藤静乃（東京芸術大学非常勤講師）〈現代における「声明」の魅力——日本伝統音楽の源流として〉 10. 工藤達也（本学ドイツ語学科准教授）〈生命と神話——クラゲスの『リズムの本質』を中心に〉 11. 木村佐千子〈ルター派のコラール ～クリスマス音楽を中心に～〉 12. 山本淳（本学ドイツ語学科准教授）〈「詩」としてのドイツ・ポップス〉 13. 園田みどり（本学全学共通カリキュラム非常勤講師）〈イタリア語の韻律と音楽のかかわりについて〉 14. 木村佐千子（交響詩について）〈まとめ〉 <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03年度以降（春）	総合講座（EUの歴史と現状1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的な前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2~4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第2次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EUの制度的起源(1)：ECSCの成立 10~11. EUの制度的起源(2)：EECの成立 12~13. EECの定着期 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	

03年度以降（秋）	総合講座（EUの歴史と現状2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降のEU 7~8. EUの制度 9~10. EUの諸政策 11. 加盟国とEU 12~13. EU域外との関係 14. まとめ：EUの現在の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[英語][ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件・概要：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][英語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数に変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数に変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降 (春)	情報科学各論 (言語情報処理 1)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] この授業では、言語が機械 (コンピューター) 可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p>[概要] コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかっていくということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ 10 は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コーパスとは何か 3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ 4. コンピューターの基本操作: MS Excel 5. 高度な Web 検索方法 6. British National Corpus (BNC) の紹介 7. BNC を利用した語句検索 8. BNC を利用した共起検索 9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較 10. コーパスの作成: 映画コーパスを作る 11. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴 12. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い 13. 映画コーパスの分析: 品詞分析 14. <u>最終レポート</u>の準備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03 年度以降 (秋)	情報科学各論 (言語情報処理 2)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者の発話を分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り (エラー) がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に生かすことを目的とする。</p> <p>[概要] 前半は日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う。後半は日本人中高生の 1 万におよぶ英作文を集めた JEFLL Corpus を扱う。いずれも異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めるため、語彙、文法、談話、誤り等の観点から分析を行う。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 I a」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 学習者コーパスとは 3. NICT JLE Corpus の概要 4. NICT JLE Corpus の分析 (1) 5. NICT JLE Corpus の分析 (2) 6. NICT JLE Corpus の分析 (3) 7. NICT JLE Corpus の分析 (4) 8. JEFLL Corpus の概要 9. JEFLL Corpus の分析 (1) 10. JEFLL Corpus の分析 (2) 11. JEFLL Corpus の分析 (3) 12. JEFLL Corpus の分析 (4) 13. <u>最終レポート</u>の準備 (1) 14. <u>最終レポート</u>の準備 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降(春)	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト（1） 8 Excel 関数のネスト（2） 9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 11 データベース上のデータの蓄積方法 12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 13 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋)	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー 11 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数 12 語彙密度・K 特性値 13 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降（春）	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（HTML 中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（HTML 中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	[HTML] 情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u></p> <p>平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p> <p>履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 JavaScript（5） 11 CGI の利用 12 総合課題（1） 13 総合課題（2） 14 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。</p> <p>参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p> <p>最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（春）	経済原論 a(経済学 a)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場の理論① 9. 市場の理論② 10. 厚生経済学の基本定理 11. 不完全競争市場① 12. 不完全競争市場② 13. 市場の失敗 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降（秋）	経済原論 b(経済学 b)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析① 9. IS-LM 分析② 10. インフレとデフレ 11. 政府債務と財政赤字 12. 経済成長論 13. 開放マクロ経済 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	